

正シテ是レマテノ願出「コンセション」主義ヲ廢シテ準則主義ヲ採用スルニ至ルヘシ果シテ然ラハ今日マテ開發ヲ許可セラレサリシ天産ハ次第二開發セラレ從ツテ露国ノ国庫

ハ富ミテ負債ハ容易ニ償却セラレテ財政ハ速カニ恢復セラ
ルルニ至ルヘシ

事項一七 「メキシコ」革命動乱關係一件

四六一 一月八日 在ロスアンゼルス大山領事代理ヨリ
石井外務大臣宛

墨国ノ一部米国ニ割讓計畫ニ關スル新聞記事
送附ノ件

公第四号 (二月十二日接受)

大正五年一月八日

在ロスアンゼルス

領事代理副領事 大山 卯次郎 (印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

合衆国「アリゾナ」州知事及同地商業団体ニ於テ北「メキシコ」ノ一部ヲ同国ニ割讓セシメ之レヲ「カリフォルニヤ」及「アリゾナ」ノ兩州ニ併合シ以テ曩ニ合衆国カ墨国内乱ヨリ受タル損害補償ニ充填セントノ計畫アル旨本月五日当地発行ノ米紙「タイムス」ニ記載致候間為御参考右切抜御送付申進候 敬具

附 属

一、新聞切抜 一葉

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 四六一 四六二

本信發送先 在米大使、在墨国公使
註 新聞切抜省略

四六二 二月三日 在墨国岩崎臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛

カランサ政府汎米諸国ニ依ル承認後ノ形勢ニ
關シ報告ノ件

公第一八号 (三月九日接受)

在 墨

臨時代理公使 岩 崎 三 雄 (印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

「カランサ」將軍ハ昨年十月十九日汎米諸国ノ承認ヲ得テヨリ政府ヲ当首府ニ移スト同時ニ「ウエラクルス」「モンテレイ」等ヲ巡回シツツアル趣ハ曩キニ公第八五号ヲ以テ及報告置候処其後同將軍ハ引統キ北部諸州ノ重ナル都市ヲ巡回シ到ル処盛大ナル歡迎ヲ受ケ当首府ニ於テモ幾十ノ凱旋門ヲ設ケ「カランサ」將軍歡迎ノ熱心準備中ニ有之候処同將軍ハ首府ヲ当分「ケレタロ」ニ置クト称シ同市ニ在リ

五四九

テ国政ヲ執リツツアルガ為メ各国务大臣ハ常ニ墨都「ケレタロ」間ヲ往復シテ「カランサ」ノ指揮ヲ仰ギ内務大臣兼外務大臣代理「アリニヤ」氏ノ如キハ客月十四日同所ニ赴キタル儘今ニ帰来セザルノミカ数日前領事局ヲモ同所ニ移シタリ抑モ「カランサ」ガ地方巡回ノ目的タル其重ナル人士ニ接触シ地方行政機關ノ組織整理ニアリト云フモ其実ハ来ル七月行ハルベキ大統領選挙ノ運動ニ外ナラザルコトハ何人モ疑ハザル所ニシテ而シテ其当府ニ来ラザル理由ニ至リテハ当局者ノ語ル所ニ拠レバ北部各州及南部「ユカタ」等ノ巡回ヲ終リタル後凱旋入都スベシトノ事ナルモ北方「ウィーヤ」等未タ全滅ニ至ラズシテ戦争尙各所ニ繼續セラレツツアリ又南方ニアリテハ「サバタ」依然「モレロス」州ニ割拠シ「ゲレロ」「ヲアハカ」「ポエブラ」及「ウエラクルス」ノ諸州ハ今ニ猶ホ其勢力範圍ニ属シ而シテ当府附近ニ於テスラモ「サバタ」軍常ニ「デスコノ」「トラルバム」及「コントレラス」等ニ出沒シテ憲政軍ト衝突シツツアリ右ノ如ク南方ノ賊勢未ダ毫モ衰ヘズ当府モ全ク安全ナリトハ云ヒ難キニ搗テ加ヘテ先頃「ゴワダラハ」ニ於テ一夜突然凱旋門悉ク焼失シタルノ珍事アリ当首

府ニ於テモ凱旋門内ニ爆裂彈ノ裝置シアルヲ発見シ担当技師等直ニ銃殺セラレタレバ或ハ賊軍来襲及暗殺等ノ危険ヲ恐レテ入府セザルニハアラザルベキカ兎ニ角現下ノ時局ハ今猶ホ渾沌トシテ曙光ヲ認ムルコト能ハズ且ツ「カランサ」ハ議會ヲ「ケレタロ」ニ召集シテ大統領ノ選挙ヲ行ハシムル趣ナレバ本年十一月就職シタル後ニアラザレバ凱旋入都スルガ如キコトハナカルベク而シテ七月ヨリ十一月迄ノ間ハ「カランサ」ノ股肱ニシテ今年僅カニ三十二才ノ現外務大臣代理「アリニヤ」氏ヲシテ仮大統領ノ椅子ニ就カシムベシト云フ

昨年八月憲政軍再ビ当府ヲ占領シ「パブロ、ゴンサレス」將軍其衛戍總督トナリテ以来一意市内ノ秩序回復ニ從事シタルガ為メ今ヤ漸ク安寧ニ歸シタリト雖モ一方政府ハ不換紙幣ノ発行高ヲ二億五千万弗ト限リタルニモ拘ラス軍事費其他ノ費用莫大ナルヲ以テ益々之ヲ濫發シ一昨年十二月以降ノ分即チ所謂「ウエラクルス」紙幣ノミニテモ其額實ニ八億乃至十億万弗ニ達シタリト云フ之レガ為メ墨貨ノ信用ハ全ク地ニ落チ墨貨一弗ハ僅カニ米貨四仙内外ニ下落シタルヲ以テ物価ハ益々暴騰シ市民塗炭ノ苦境ニ呻吟シツツア

リ然ルニ政府ハ曩キニ贋造不可能ノ紙幣ヲ米國ニ注文シ已ニ過半出来到着シタレバ茲數日中ニ現在通用ノ「ウエラクルス」紙幣五弗ニ対シ新紙幣一弗ノ割合ヲ以テ引換ヘラルベシトノ風説立チタルガ為メ各商店トモ大ニ警戒ヲ加ヘ現ニ「ウエラクルス」紙幣ヲ拒ミテ罰金ニ処セラレタルモノ已ニ二百人以上ニ上リ物価ハ更ニ益々暴騰シテ殆んど底止スル所ヲ知ラザルモノノ如シ然レトモ聞ク所ニ拠レバ右引換ハ来ル七月議會開会ヲ俟チ其協賛ヲ經タル上実行スル趣ニテ又「ウエラクルス」紙幣五弗ニ対シ一弗ノ割合ヲ以テ引換ヲナスハ新紙幣ニ対シテハ金銀塊ノ担保アルガ為メナリト云フ其引換ノ時期ノ遅速ハ問フ所ニアラス若シ世間伝フルガ如ク果シテ一弗對五弗ノ割合ヲ以テ引換ヲナスニ至ラバ一般内外國人ノ蒙ルベキ損害額ハ八億乃至六億四千万弗外ニ今後三ヶ月間ノ見積發行高一億八千万ノ五分ノ四即チ一億四千四百万弗合計十億万弗弱ニシテ之ニ加フルニ「ウィーヤ」ノ發行シタル所謂「ドスガラス」及「サバナ」紙幣九億万内外、會議派政府ノ發行ニ係ル「レワリダード、アルトス」約三億万并ヒニ一昨年十月ヨリ十二月迄ノ間ニ「カランサ」自身ガ發行シタル「レバリダード、バ

ホス」五百万弗合計十億万弗内外ハ殆んど全部無効ニ歸シタルヲ以テ其損害高ハ實ニ二十億内外ノ巨額ニ達ス今仮リニ「カランサ」政府ハ「ウィーヤ」及會議派ノ發行シタル紙幣ニ対シテハ何等責任ナシトスルモ其自ラ發シタル紙幣十億万以上ノ五分ノ四ヲ引換ノ名義ノ下ニ無効ニ附シ國民ノ迷惑困難ヲ恬トシテ顧ミサラントスルニ至リテハ其暴政モ亦甚ダシト云ハザルベカラズ蓋シ新紙幣ニシテ金銀塊ノ準備担保ナキニ於テハ「ウエラクルス」紙幣ト何等異ナル所ナキヲ以テ右紙幣ト同様忽チ下落スヘキハ炳トシテ火ヲ見ルヨリモ明ナレバナリ尤モ過般来紐育ニ赴キ居リタル現大蔵大臣「ルイス、カブレラ」氏ガ若シ果シテ金銀塊ノ借入運動ニ成功シ来ル七月迄ニ到着セバ新紙幣二弗ハ米貨一弗換即チ「パール」トナリ墨貨ノ信用ハ辛クモ之ヲ維持シ得ベキモ從來數年間内乱ノ為メ供給不足勝ナル日用品其他ノ物資ノ俄然下落ヲ見ルガ如キハ得テ望ムベカラザレバ俸給ニ衣食スル者其他一般國民ノ困難ハ層一層増大スベキハ自然ノ勢ニシテ墨國ノ前途ニ対シテハ政治上及經濟上容易ニ樂觀ヲ容サザルナリ

右及報告候

敬具

四六三 三月二日 在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

墨国「ディアス」革命軍活動状況報告ノ件

第四二号

Felix Diaz ヲ首領トセル革命軍 Oajaca ニ起リ又 Diaz ノ名義ヲ以テ「ヴェラクルーツ」州 Tierra Colorado ヨリ熾シニ熾ヲ飛シ居レリトノコトニ付昨今南方ヨリ種々ノ新聞電報アリ

岩崎 濟

四六四 三月八日 在墨国岩崎臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

カランサ軍「オアハカ」革命軍撃退ノ件

第五号

在米大使往電第四二号ニ関シ Oajaca 革命軍ハ撃退セラレ「カランサ」軍同州首府ニ入レリトノ報アリ

四六五 三月十日 在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

墨国匪賊國境ノ米國都市ヲ襲ヒ米兵ト戦闘ノ件

訓セリト又上院ニハ已ニ匪賊討伐軍派遣ノ決議案提出アリ議會及國民一般ニ頗ル激昂セル模様ナリ

岩崎 濟

四六七 三月十四日 在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

墨国政府ノ匪賊討伐軍急派並米國政府ノ態度

二関シ報告ノ件

第五三号

往電第五二号米國政府ノ決定通告ニ対シ三月一日墨國政府ハ已ニ自ラ討伐軍ヲ急派セルコト及以前米國領内ノ土人カ「ソノラ」「チファファ」ニ起シタル叛乱ニ関スル先例ニ則リ一方ヨリ他方ノ領内ニ兵ヲ進ムルコトヲ相互のトナサシコトヲ米國政府ニ申入レタリ右ハ米國政府今回ノ決定ニ基ク措置ニ対シ不同意ヲ唱ヘサル意味ナリト一般ニ解セラレ居タル処其後「カランサ」配下ニアル諸將軍中米兵進入乃至米墨兵協同動作ニ反對ノ意見ヲ抱ケルモノアリ又北墨地方寧ロ「ヴィヤ」ニ左胆シ反米感情勃発ノ形跡アリ等ノ報道伝ハリ為ニ当方面ニテハ本件進兵断行ノ咄ニハ或ハ重大ナル事態ヲ醸スニ至ルヘシト観測セラレ居レリ米兵ハ未

第五〇号

三月九日「ニューメキシコ、コロンブス」發電報ニ依レハ Villa カ指揮セリト信セラルル墨国匪賊約五百名同日未明同市ヲ襲ヒ米兵及市民ト戦闘二三時間ニテ墨國領内ニ退却米兵追撃中ナルカ米國側ハ兵卒市民トモ十五名ノ死者及兵卒八名ノ傷者ヲ出シ匪賊側モ多数ノ死者ヲ市内ニ遺棄シテ去レリト尚匪賊等ハ右襲撃前米人 Rancheros 三名及他ニ米人一名ヲ絞殺セリトノ報アリト云フ

墨 國 濟

四六六 三月十一日 在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

米國政府及上院ノ墨国匪賊ニ対スル対策報告ノ件

第五二号

往電第五〇号ニ関シ墨国匪賊ハ尚境上襲撃ヲ継続セル由ナル処三月十日閣議ノ後白館ヨリ直ニ「ヴィヤ」追撃軍ヲ派遣スヘキ事実上ノ政府ニ友好的援助ヲ与フルノ精神ニ依リ墨國ノ主權ハ嚴密ニ尊重スヘキ旨ノ「ステートメント」公表セラレ陸軍当局ヨリ已ニ辺境防備司令官 Funston ニ電

タ墨國境内ニ進軍セスト云フ尚米國政府ハ不取敢「チファファ」「ソノラ」「下カリフォルニア」方面「カランサ」配下ノ地方ト雖兵器等仕向ケヲ禁止セリ

岩崎 濟

四六八 三月十四日 在墨国岩崎臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

カランサ政府ハ「ヴィーヤ」匪賊討伐ニ関シ

米國へ提議ノ件

第七号

在米大使往電第五二号ニ関シ墨國政府ハ本日十一日附ヲ以テ米國政府ニ公文ヲ發シ米國カ軍隊ヲ派遣シテ Villa 匪賊ヲ殲滅セントスルニ付テハ先例ニヨリ相互のニ墨國軍隊モ米國領土内ニ入ルヲ承諾アリタキ旨ヲ申込メリ而シテ尚「カランサ」ハ十三日ノ新聞紙上ニ宣言シテ曰ク若シ米國政府力之ノ承諾ヲ与ヘスシテ其ノ軍隊ヲ墨國領土内ニ入ルハ墨國ノ主權ヲ侵害スルモノナレハ吾人ハ之レニ向テ軍事の行動ヲ取ラサルヘカラストテ各州知事ニ向テ万一ノ場合ニ応スルタメ軍備ヲ嚴ニスヘキ命令ヲ發セリ右ハ少ナカ

ラス国民一般ノ注意ヲ喚起セリ

四六九 三月十四日

在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

ウィーヤ匪賊討伐ニ関スルカランサ政府ノ提

議米國承諾ノ件

第五四号

往電第五三号墨國政府ノ申入ハ Villa 賊討伐ヲ目的トスル
軍事の行動ニ関シ相互の来往ノ趣旨ナル処三月十三日米國
政府ハ米國領内ヨリ墨國ニ入り暴動シテ米國領内ニ遁竄ス
ル匪賊ヲ墨兵ニ於テ追撃米國領内ニ入ル事及反對ノ場合米
兵ニ於テ追撃墨國領内ニ至ルコトヲ相互のニ許可ス但シ本
取極ハ更ニ何等ノ意見交換ヲ用イスシテ即時効力ヲ生スル
モノトストノ越旨ヲ以テ墨國政府ニ回答セリ尚國務長官ハ
同日大統領ノ命ニ依ルトシテ今回ノ軍事行動ハ現ニ之ヲ其
範圍内ニ止メ斷シテ墨國主權ノ侵害乃至其内政干涉ニ至ラ
シメサルヘシ今回ノ措置タル実ハ干涉ノ危險ヲ予防セント
ノ深慮ニ出ツルモノナリトノ公表ヲ行ヘリ

岩崎濟ミ

文並國務長官ノ公表書所載新聞切抜送付旁々此段申進候
敬具

註 新聞切抜省略

四七一 三月十六日

在墨國岩崎臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

アギラール將軍墨國外務大臣ニ就任ノ件

第八号

Division General Candido Aguilar 本月十四日外務大臣
ニ任命セラル

四七二 三月十六日

在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

米軍ウィーヤ匪賊討伐ノ為入墨ノ件

第五六号

(十二月十七日接受)

三月十五日正午過「コロンプス」附近ノ地点ヨリ米軍入墨
セル旨公報アリ

四七三 三月二十三日

石井外務大臣ヨリ
在米國珍田大使 在墨國岩崎臨時代理
公使各宛

米國兵ノ墨國派遣ニ関シ在本邦米國大使來談
ノ件

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 四七一 四七二 四七三

四七〇 三月十四日

在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛

米國ノ「ウィーヤ」匪賊討伐軍ヲ墨國派遣ニ

関スル米墨交渉ニ付報告ノ件

公第九六号

(四月十二日接受)

大正五年三月十四日

在米特命全權大使子爵 珍 田 捨 己(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

三月九日早朝「ヴィヤ」ハ其配下五百騎ヲ率イテ「ニュー
・メキシコ」州「コロンプス」市ヲ襲撃劫略シ人命財産ニ
多大ノ損害ヲ及ホシタリトノ報伝ハルヤ当国上下震駭シ議
会ニ於テハ直チニ「ヴィヤ」討伐軍派遣ニ関スル決議案ノ
提出ヲ見ルニ至リ他方大統領ハ三月十日閣議ノ後「ヴィ
ヤ」討伐軍ヲ墨國領土内ニ派遣ノ義往電第五二号所報ノ通
決定シ此旨墨國政府ヘ通告スル所アリタルニ墨國政府ハ三
月十一日ヲ以テ往電第五三号電稟別紙甲号ノ如キ回答ヲ米
國政府ニ致シ候之ニ対シ米國政府ハ三月十三日附ヲ以テ大
要往電第五四号所報別紙乙号ノ通り墨國政府ヘ回答スルト
同時ニ同電末段所掲ノ國務長官ノ公表書ヲ發表致候右両公

政機密合送第三六号

本件要領左記ノ通貴官御参考迄及移報候也

左記

三月十八日米國大使來訪シ左ノ意味ノ電報ヲ受取リタリト
告ケタリ

「ヴィヤ」將軍ノ下ニ在ル暴徒米國ノ一都市ヲ侵シ米國
市民ヲ殺害シタル外多數ノ負傷者ヲ出サシメタルヲ以テ
米國政府ハ「ヴィヤ」將軍退治ノ為メ有力ナル軍隊ヲ墨
國ニ派遣スルニ決シタリ右ハ米國政府ニ於テ「カラン
ザ」大統領政府ノ完全ナル納得ノ下ニ行動スルモノニシ
テ決シテ墨國ノ主權又ハ獨立ヲ害セントスルモノニ非ス
現ニ米國政府ハ墨國政府ノ申込ニ係ル(不日若シ米國ノ
暴徒ニシテ墨國領土ヲ侵シ墨國軍之ヲ撃退シ追躡セル場
合ニ於テハ米國ノ領土ニ進入スルコトヲ得ヘシトノ) 双
互条件ヲ承諾シタル次第ナリ

今回墨國ニ派遣シタル軍隊ノ比較的有力ナルハ小數ノモ
ノヲ送ルトキハ却ツテ「ヴィヤ」將軍ヲシテ抵抗ノ念ヲ
起サシムルコトナキヲ保セザルガ故ニ寧ロ大軍ヲ送り彼
ヲシテ抵抗ノ不可能ナルコトヲ自覺セシムルコト畢竟迅

速ニ事件ヲ結了スルノ捷徑タリト信スルカ故ナリ
以上ハ特ニ之ヲ帝國政府ニ通告スヘキ旨ノ訓令ヲ受ケタル
次第二ハアラザレトモ閣下ヨリ御問合アル場合ヲ予想シテ
本使ニ電報シタルモノナルカ故ニ本使ノ責任ヲ以テ之ヲ閣
下ニ通報ストノ添言アリ本大臣ハ同大使ノ右通告ヲ謝セリ
尚本件ハ「在米國大使ヘハ在墨國臨時代理公使ヘモ
在墨國臨時代理公使ヘハ在米國大使ヘモ」及通報置
候間右為念申添候

四七四 三月二十四日 在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛（電報）

入墨米國兵ノ行動ニ関スル米墨兩國交渉並北

墨地方ヨリ米國人引揚ニ付報告ノ件

第六二號

往電第五六号ニ関シ其ノ後ノ諸報道ヲ綜合スルニ入墨米兵
約二千主隊ハ Casas Grandes 附近ニ在リ三月十八日軍
需品輸送ノタメ「エルパソ」ヨリノ墨國西北鉄道ヲ米軍ニ
於テ使用ノ件米墨間ノ交渉ニ上リ之レニ関連シテ在當地墨
國政府代表者ト米國政府トノ間ニ米墨軍行動ノ全体ニ涉レ
ル協定ヲ了シタル由ナルモ未タ墨國政府ノ承認ヲ得サルモ
ノ如シ今日迄ノ所米墨（脱）ノ衝突ハナキ模様ナルカ

鉄道使用ノ件ヲ受諾セル趣ノ報道ヲ掲載セルノ外其後ノ局
面何等注目ニ値スヘキ開展ヲ見ス米兵ハ墨國內ヲ南進スル
コト既ニ三百余哩依然「ヴィヤ」追跡中ノ趣ニ有之候

然ルニ過般ノ「ヴィヤ」「コロンバス」市襲撃事件ノ真因
ニ関シテハ種々ノ説アリテ同事件ハ決シテ「ヴィヤ」ノ單
独意思ニ因ルモノニ非ズシテ何者カ其背後ニ潜ミテ画策シ
「ヴィヤ」ヲ使喚シテ以テ斯ノ挙ニ出デシメタルモノナリ
ト云フモノアリ而シテ此種ノ説ヲ唱フルモノニ二派アリ其
一ハ即北墨地方ニ多大ノ利益關係ヲ有スル米人鉱業者連カ
自家利益擁護上此種ノ事件ヲ勃發セシメ惹テ米國政府ノ干
渉ヲ誘致センコトヲ目的トシタルモノナリト説ニシテ其
二ハ現下米獨關係争事件ニ関シ其外交關係甚タ緊張セルノ
情勢ニ鑑ミ米墨間ニ事ヲ醸シ由テ以テ米國政府ヲ牽制シ幾
分ナリトモ米獨間ノ外交關係緩和ノ資ニ供セントノ独逸側
ノ企画ナルヘシトノ説即之ナリ尚ホ本件背後ニハ日本人潜
ミ居ル旨ノ謠言ヲ試ミタル者モアレドモ素ヨリ世人ノ一顧
ニモ値セザリキ

如斯「ヴィヤ」事件ノ真相ニ関シテハ種々ノ流言巷説アリ
從テ同事件發生以來米墨國境方面ヨリ接到スル諸情報ハ事

「カランサ」ノ配下ニ在リテ最近迄「チワリ」州知事タリ
シ General Hernera 約二千ノ兵ヲ率イ「カランサ」ニ叛
シ「ヴィヤ」ニ左袒シ兩者連結動作ヲナシツツアリトノ報
アリ尤モ俄カニ信ハ措キ難タシ何レニシロ「ヴィヤ」討伐
ノ目的貫徹ハ容易ナラストノ觀愈々深カラントス北墨地方
ヨリ米人ハ続々引揚ケツツアリ戰艦「ケンタツキー」「タ
ンピコ」ニ砲艦「ホイーリング」 Yucatan 方面ニ派遣
サル

四七五 三月三十日 在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛

墨國事件ニ関シ「ウィルソン」大統領及「ル

ーズヴェルト」氏ノ声明掲載新聞切抜送附ノ

件

公第一三一號 （四月二十七日接受）

大正五年三月三十日

在米特命全權大使子爵 珍田 捨己（印）

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

「ヴィヤ」討伐米兵入墨問題ニ関シテハ隨時及電報置候処
今朝ノ諸新聞紙カ「カランサ」政府ニ於テ米軍力墨國西北

件ノ進展ニ関シテ報スル所区々ニシテ歸一セス揣摩臆測ヲ
逞ウシテ容易ニ信憑シ難キノミナラス徒ラニ米墨民心ヲ惑
乱セシムルノ傾向アリ又一面中央議會ニ於テ種々強硬ノ言
辭ヲ弄シ又ハ動議等ヲ出ス者モ有之此情勢ニ顧ミ大統領
「ウィルソン」氏ハ三月廿五日夜別紙附屬甲号ノ如キ「ス
テートメント」ヲ公表スルニ至リ候

然ル処数日前西印度諸島旅行ヨリ「オイスター、ベー」ニ
帰着セル「ローザヴェルト」氏ハ昨二十九日夜別紙附屬乙
号ノ如キ「ステートメント」ヲ發表シ「ウィルソン」氏現
行政部ノ墨國政策ニ対シ痛烈タル非難攻撃ヲ加ヘ候
右「ステートメント」ニ関シ或種一部ノ政客ハ是レ「ロ」

氏カ本年大統領選挙場裡ニ於テ「ウ」氏ヲ倒サントスル運
動ノ第一声ナリト云ヒ或ハ又「ロ」氏ノ与党等ハ右「ステ
ートメント」ヲ以テ「ロ」氏カ軍備問題ヲ提ケ政戦ニ臨ム
第一歩ナリト云ヒ「ロ」氏カ大統領候補ノ指名ヲ受諾スヘ
キハ疑ヲ容レサル所ナリト揚言致居候

時節柄何等御参考迄ニ右両新聞切抜進達旁々此段申進候
敬具

註 別紙甲号及乙号新聞切抜省略

四七六 四月一日 在米田珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

米田軍墨国政府ノ同意ノ下ニ軍需品輸送開始
及米軍公報報告ノ件

第六九号

往電第六三号ニ関シ廿九日遂ニ「カランザ」政府ノ同意ヲ得テ米軍ハ軍需品鉄道輸送ヲ開始セリ遠征軍司令官 Pershing 少将ノ公報ニ依レハ廿九日 Guerrero ニ於テ米軍ハ五百名ノ Villa 賊一隊ヲ奇襲シ之ヲ山中ニ逐ヘリ「ヴィヤ」ハ襲ニ重傷ヲ負ヒ部下諸将ニモ死傷アリ賊ハ既ニ大打撃ヲ蒙リタルモノト認ムトノコトナリ尚既報 Herrera ノ件ハ虚報ナルカ如シ

墨 濟

四七七 四月十四日 在米田珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

墨国政府ヨリ米田政府ニ米軍ノ撤退要求ノ件

第八〇号

往電第六九号ニ関シ鉄道ハ使用セス今尚輾重自動車ニ依ルモノノ如シ又「ヴィヤ」ノ重傷云々モ聊信ヲ措キ難ク兎モ

角出征ノ目的貫徹尙見込立タサルカ如シ然ルニ四月十二日 Queretaro 發電ニテ墨国政府ハ米田政府ニ対シ米軍ノ撤退ヲ要求シ来リ次テ同日發電ニテ米兵百五十名 Parral ニ入市ノ結果市民トノ間ニ争鬭ヲ醸セル旨ヲ報スルト共ニ迅速撤兵ノ要ヲ反覆セリ

太田濟ミ

四七八 四月十七日 在米田珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

墨国ノ対米田關係及国内情勢並在留本邦人保護ニ関スル件

第八四号

在墨代理公使發貴大臣宛第一六号
太田ヨリノ依頼ニ依リ転電ス

「カランザ」政府諸国承認以來対外的ニハ大体ニ於テ少康休戦ノ姿ニシテ米墨戦争ノ如キハ米田陸軍力ノ微弱土匪變及在墨西哥米人殺害等ヲ覚悟セサルヘカラサル点ニ鑑ミルモ容易ニ行ハレサルヘク殊ニ近來国境米田諸州ニ居住セル墨西哥人ハ本国人ト氣脈ヲ通シ独立国樹立ヲ標榜セル一種ノ反米結社ヲ組織シ平時民家又ハ汽車襲撃擄掠ヲ業ト

シ少数ニテサヘ米田軍隊ヲ惱サント企テ自然米田ノ軍事行動ヲ牽制シ居ル事情アルニヨリ同国ノ「ヴィヤ」征伐ノ成敗乃至対米交渉ノ成行如何ニ拘ハラス目下ノ所「カランサ」ハ内心此ノ方面ニ対シ余リ憂慮シ居ラサルヘシト觀察セララルモ其ノ対内關係ヲ見レハ政府ノ基礎未タ確立セルモノト認メ難ク紙幣乱発ニ基ク經濟界ノ攪乱難民増加及一般人民ノ不平、軍隊処分問題等ノ諸難件アリ政府ハ先ツ以テ經濟問題ヲ解決セムカタメ曩ニ米貨百万弗ヲ資金トシテ為替相場回復ニ努メ今回又更ニ五千万「ペソ」ノ貨幣整理基金ヲ設ケ五月一日ヨリ整理事務ヲ開始スルコトトセシモ右五千万「ペソ」中 Yucatan Heneguen 市場ヨリ提出セシムヘキ二千万「ペソ」ノ如キ今ヨリ其ノ成否疑ハシキモノアリ殊ニ残額三千万「ペソ」中国有不動産ヲ抵当トシテ借入ルヘキ二千万「ペソ」ハ米田資本ナルコト殆ント確実ナルヲ以テ国内反対党ニ國權売却ノ攻撃材料ヲ与ヘ「ヴィヤ」征伐米田軍隊ニ入国ヲ許シタルニ対スル反感ト合シテ一層人民ノ反抗心ヲ刺戟スル虞アリ無難ニ成功スヘキヤ甚タ疑問ニ屬スルト共ニ最近ノ情報ニ依レハ先般米革命ヲ企テ居ルトノ噂アル Feliz Diaz 在墨西哥人ヨリ武器彈

藥資金ヲ借入レントシ事發覺シテ連累者外人二十余名當府ニ於テ就縛 Queretaro ニ密送セラレタルカ如ク革命ノ暗流ハ一日モ消磨セス「カランサ」麾下ノ人物中ニモ動モスレハ反旗ヲ翻サントスルモノアリ加フルニ米田「ヴィヤ」征伐軍隊力抄ハカシキ効ヲ奏セス却テ墨西哥軍隊及人民一般ノ反感ヲ挑発スル傾アル様子ナリ印度人ニ入国ヲ許シタル「カランサ」ハ北墨一帯ニ亘リ大ニ信望ヲ失ヒ弥縫策トシテ四月十二日米田大統領ニ軍隊撤退ヲ要求シ自己ハ四月十三日密カニ家族同伴 Queretaro ヲ去リ四月十四日當市ニ入り来リ各内閣員等モ漸時當地ニ來ル様子ニテ或ハ道途伝フルカ如ク難ヲ「ヴェラクルス」ニ避ケントスルヲ備行動ナルカ又ハ尠クトモ北墨險惡ナル状態ニ余儀ナクセラレタル結果當地ニ於テ形勢ヲ監視セムトスルモノト認メララル如キ事情アリ當分如何ナル事變發生ヲ見ルヤ計ラレサルト共ニ常ニ交通通信ノ妨害ハ覚悟セサルヲ得サル次第ナルニ依リ反対ノ御訓令ナキ限り万一ノ場合ヲ慮リ予メ左ノ通心得置キタキニ付御承知置ヲ請フ

一、當国北部ニハ今日ト雖モ交通通信ノ便ヲ欠ケル所アリ從テ有事ノ日到底在留日本人保護ノ実ヲ上ケ得サルニヨリ

從來ノ通及フ限英米領事ノ助力ヲ依頼スヘキハ勿論ナルモ
國境ニ向ケ避難地ヲ求ムルモノアルトキハ敢テ之レヲ禁セ
サルコト

二、革命ノ際自ラ進テ何レカ一方ノ軍隊ニ加担スル邦人ア
ルモ政府ニ累ヲ及ホスモノニアラサル以上之レヲ放任スヘ
キコト

三、当府及附近居留民保護及自衛ニ関シテハ外交團ノ決議
又ハ臨機ノ方法ニヨリ処置スヘキコト

四、我カ對墨關係ヲ對米關係ニ比スルニ輕重ノ度元ヨリ同
日ノ比ニアラス故ニ時機ト性質ノ如何ヲ問ハス對外關係ニ
惡影響ヲ及ホス憂アル邦人ノ行動顯出等ハ禁止又ハ却下ス
ルコト

五、右ノ外当地新聞ハ政府ノ意ヲ迎フルニ汲々トシテ信用
スヘカラス記事モ亦貧弱ナルカ故ニ米墨關係乃至北墨ノ戰
況等ハ十余日ノ後ニ見ル米國新聞ニ依ルノ外不明ナルヲ以
テ此方面ノ報告ハ当方ニ於テ企テサルヲ原則トシタキコ
ト



ク別紙第二号ノ通り外務大臣「アギラール」將軍ヨリ回答
書ヲ差越シ帝國政府ノ要求ヲ容認致候間委細ハ別紙ニ就キ
御承知相成候様致度右訳文相添ヘ此段回答申進候 敬具

追而別紙第二号訳文末段ノ千九百十三年五月十日附法令
ニ関シテハ大正三年九月廿八日附公第一三二号御参照相
成度此段為念申添候也

註 別紙第一号原文及其訳文並別紙第二号原文ヲ省略ス

(附屬書)

別紙第二号和訳文

四月十一日附墨国外務大臣ヨリ在墨國太田臨時代理公使宛書翰

ケレタロ、千九百十六年四月十一日

墨国外務大臣

「カンデイド、アギラール」手署

在 墨

日本公使館三等書記官太田為吉貴下

以書翰致啓上候陳者昨年十二月十三日附貴館公文中左記ノ
一句ニ関シ更ニ當國政府ノ具体的回答ヲ求ムル様御命令ニ
接セラレタル趣ニテ去ル三月十二日附ヲ以テ岩崎代理公使
貴下ヨリ當省政務局長ニ宛テ御申越ノ趣致了悉候仍テ右ハ

四七九 四月十七日 在墨國太田臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛

墨國政府ニ對シ最惠國待遇保障方要求ノ件

附屬書

四月十一日附墨国外務大臣ヨリ在墨國太田臨時代
理公使宛書翰和訳文

政機密公第六号

(六月一日接受)

大正五年四月十七日

在 墨

臨時代理公使 太田 為 吉(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

本件ニ関シ本年一月十四日附政機密第一号信ヲ以テ御申越
ノ趣ハ岩崎前臨時代理公使ニ於テ當時墨府ニ留守居ノ儘外
務省ノ事務ヲ処理致居候政務局長「マルセリノ、ダヴァロ
ス」氏ニ懇談セシ処同氏ハ帝國政府ノ要求ヲ至當ト認メ必
ス適當ノ回答ヲナス様尽力スヘキ旨相答ヘ尚我ニ於テ其大
体ヲ書翰ニテ申出ツルニ於テハ直ニ之ニ説明ヲ附シ在「ケ
レタロ」「カランサ」執政長官ニ移牒スヘシト勸奨致候ニ
付去月廿二日附ヲ以テ別紙第一号ノ通り岩崎代理公使ヨリ
先方ヘ申送置候処本月十一日ニ至リ往電第十五号所報ノ如

不取敢執政長官ニ致上執置候

『帝國政府ハ日本臣民カ貴政府ノ下ニ最惠國民ノ待遇ヲ
受ケ特ニ其生命財産並ニ利益ノ保護ニ関シ亦革命動乱ニ
由リテ蒙リタル損害賠償ノ件ニ関シテモ同様ノ待遇ヲ享
受スルヲ疑ハス候』

然処執政長官ハ今般本官ニ命スルニ左ノ通り貴官ニ回答シ
尚其趣旨ヲ日本天皇陛下之御聞ニ達スル様取計ハレタキ旨
ヲ請求スルコトヲ以テセラレ候即チ墨西哥共和國ノ前途ヲ
支配スル憲政軍政府ハ總テ現行條約ノ全部ヲ尊重スル考ナ
レハ其現行條約ノ一タル千八百八十九年六月十五日附ヲ以
テ墨西哥共和國政府ト日本天皇陛下ノ政府トノ間ニ締結セ
ラレタル修交通商條約ハ当然之ヲ尊重スルモノニシテ其第
三条及第五条ハ岩崎代理公使カ其公文中ニ記載セラレタル
事件ニ関シテ何等動スヘカラサル確固タル規定ニ有之候
仍テ憲政軍政府ハ其治下ニ在ル日本臣民カ全然最惠國民ノ
待遇ヲ享ケ特ニ其生命財産及利益ノ保護ニ関シ亦革命動乱
ニ因リテ蒙リタル損害ノ賠償ニ関シテモ同様ノ待遇ヲ受ク
ルモノナル義ニ就テハ日本帝國政府ハ最早何等疑ヲ挿マレ
サルコトヲ信シ候、尤モ此ノ損害賠償ノ件ニ関シテハ千九

百十三年五月十日附ヲ以テ発セラレタル法令ノ規定スル範圍内ニ於テ行ハルルモノト御承知置キ相成度尙憲政軍政府ハ同時ニ日本帝國ニ居住スル墨西哥國民モ其生命、利益ニ関シテハ同様ノ待遇、保護及保障ヲ享受スルコトヲ希望致候

本大臣ハ茲ニ貴下ニ向ツテ重ネテ敬意ヲ表シ候 敬具

四八〇 四月二十五日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛

墨国「カランサ」執政長官並外務大臣ト会谈

報告ノ件

機密公第七号

(六月一日接受)

大正五年四月二十五日

在 墨

臨時代理公使 太 田 為 吉 (印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

当国執政長官「カランサ」氏カ本月十三日「ケレタロ」市ヲ発シ家族同伴翌十四日当府ニ入りタル次第ハ往電第十六号ニテ御承知ノ通りニ有之候処是ヨリ前本官前任地華盛頓ヲ去ルニ臨ミ駐米当国大使「アレドンド」氏「カランサ」

氏ノ甥)ニ面会ノ上当地ヘ赴任ノ際旅行其他ニ関シ便宜給与方ヲ依頼シ置キタル処当国政府ハ態々特別車ヲ「ヴェラクルス」迄送り呉レタル關係モアリ又当地着任ノ後ニ於テモ「カランサ」氏ハ特ニ「ケレタロ」ヨリ國務省ニ対シ若シ本官ニシテ同地ニ氏ヲ訪問スルノ意アルニ於テハ何時タリトモ特別車ヲ出サシムル様訓令シ居リタル事情モ有之候間同氏入都ヲ機トシ一応表謝旁訪問セント思考セシモ单独訪問ハ時節柄多少遠慮スベキ必要モアリ且ツ仏国公使等ガ或ル機会ニ本官ニ洩ラシタル一種ノ猜忌的言辭ニモ顧ミ右訪問ハ暫時見合セ居リタル所超エテ本月二十日ニ至リ「カランサ」執政長官ハ翌二十二日外交官一般ヲ接見スベキ旨通知アリタルヲ以テ荒井書記生ヲ同導所定ノ時刻ニ政庁ニ至リ当国政府承認ノ順番即チ別紙ノ順序ニテ各国代表者個別ニ同執政長官ト会见致候而シテ本官ハ此ノ機ヲ利用シ墨国政府ガ赴任ノ際本官ニ与ヘタル好遇ニ対シ感謝ノ意ヲ述ベタル処同執政長官ハ本官ノコトニ関シテハ「アレドンド」大使ヨリ種々良好ナル報告モ来リ居リ其来任ニ満足スルト共ニ万事便宜ヲ取計度キ希望ニテ先般モ其旨ヲ國務省ニ訓令シタル次第ナリト語リタル上當墨国政府ハ常ニ日本トノ

親交増進ヲ希望セルモ從來ハ内乱ノ為メ施設其意ニ任セザリシ所今日ニ至リテハ交通其他ノ事物モ漸次平常ニ復歸スル傾アルヲ以テ今後ハ右ノ希望ヲ達シ得ルニ至ラント語リタルニ依リ本官ハ我政府カ日墨親交増進ヲ希望スルハ墨国政府ニ劣ラズ而シテ本官ガ当地諸官憲ト接シテ得タル印象ハ我政府ノ希望ヲ達スルニ容易ナルベキヲ断言セシムルニ足ル次第ニシテ此印象ハ当初華盛頓ニ「アレドンド」氏ヲ見タル當時既ニ萌芽ヲ発シ当地ニ来リテ成熟シタルモノナルト同時ニ窃カニ其想像ノ適中セルヲ誇トセル次第ナルカ此外本官ノ欣喜ニ堪ヘサルハ今回「ロメロ」氏ガ駐日公使トシテ赴任セララルコトナリ本官ハ当地来任前同氏ト面識ナカリシモ同氏ニ紐育及華府ニ在ル我親友ノ親友ニシテ本官ハ同氏ト当然親友タルベキ運命ヲ有シ当地ニ来リテ現在旧知ノ如キ關係ニ在リ而カモ同氏ノ為人ニ顧ミ駐日公使トシテ適任ナルヲ疑ハズト述ベタルニ執政長官ハ同氏ノ任命ハ日墨親交増進ヲ顧念スル結果ニシテ嘗テ日本ニ滞在セシ經驗(約八ヶ月)及其才能ハ此ノ目的ヲ達スルニ適當ナルヲ信ズト述ベニテ会见ヲ終リタルガ該会见中執政長官ハ漠トシテ日墨親交増進ヲ唱ヘ兩國ハ何ガ故ニ親善ナラザルベカ

ラザルカノ理由ニ付テハ正確ニ想像スベキ材料ヲ与ヘザリシモ普通墨人ガ日墨兩國ノ対米關係ニハ一致点アリトノ理由ニヨリ有事ノ日米国ニ対シテ我ノ同情又ハ援護ヲ得ベキ希望ノ下ニ兩國親善ヲ鼓吹スルトハ多少趣向ヲ異ニシ主トシテ通商關係ノ發展ヲ顧念スルニ出デタル稍健全ナル思想ニヨルモノノ如ク感ゼラレ候尚ホ序本官当国外務大臣「アギラール」將軍ト会谈セル模様ヲ概記センニ同外相ハ本月十五日「ケレタロ」ヨリ当府ニ入り来リタルヲ以テ翌十六日之ヲ外務省ニ訪問シ着任挨拶及官憲ノ好意ニ対スル表謝等ヲ為シタル所同外相ハ日墨共通ノ対米不滿ヲ理由トスル親日論ヲ述ベタル上今後ハ外交官トシテノ窮屈ナル形式ヲ廢シ真ノ友人トシテ万事交際ヲ希望スル旨ヲ繰返シ自己ガ日本人ニ類似スルコト等ヲモ得意ニ語リ居リタルガ尚ホ二十一日金曜日ノ接見日ニ所用ヲ兼ね再ビ訪問セル際モ右ト同様ノ事ヲ繰返シ且ツ墨国政府ガ日本ニ好意ヲ有スル一証ナリトシテ支那ハ墨国政府承認ノ書面ヲ送り来リタルカ墨国政府ハ日本政府ガ南支革命党ニ好意ヲ有シ米国政府ハ之ニ反シ北部袁世凱ノ政府ニ好意ヲ有スルモノト考フルガ故ニ右袁世凱ノ政府ヨリ送附シ来リタル承認狀ニ対シテ

ハ未タ受書ヲモ差出サス機ヲ見テ日本ノ意嚮ヲ確メ其上ニテ孰レカ処置シタキ考ナリ

ト語リ是ニ対スル本官ノ意嚮ヲ問ヒタルニヨリ本官ハ支那ニ対スル日本ノ態度ニ付テハ政府ヨリ何等通報ニ接セザルモ日本ガ南支革命党ニ好意ヲ有セリトハ信スル克ハサル所ニシテ極東ノ平和ヲ顧念スル主義ヨリスルモ支那ノ内乱ニ対シ厳正中立ノ態度ヲ持スベキハ当然ノ義ナリ又米國ガ我國ニ反対ノ態度ヲ採ルガ如キモ本官ノ想像スルヲ得サル処蓋シ現今極東ニ事業ヲ企テントスルモノハ其何國タルヲ問ハス我ニ反対ノ行動ヲ為スノ愚ナルヲ知ルベケレバナリ又支那ノ承認状ノ一件ニ付テハ本官固ヨリ帝國政府ノ意見トシテ通知スベキ何物ヲモ有セザルモ個人トシテ考フルニ先方ガ手紙ヲ寄越セバ之ニ返答スルハ当然ナリ墨國政府ニ於テ袁世凱ノ政府ガ目下不確定ノモノナリトノ意見ヲ有セララル為メ承認ノ書面ニ対スル受ケ答ヲ見合セ居ラルノ義ナラバ兎モ角然ラザレバ之ヲ遷延セラルノ理由ナキガ如シ併シ如斯キ微細ナル事項ニ関シテモ日本ノ意見ニ副ハントセラルル好意ハ帝國政府ノ満足スル処ナルベク本官ノ大ニ感謝スル処ナル旨ヲ答ヘタルニ外相ハ右ニ対シ謝シタル後此ノ如キ事項ヲ外國人ニ相談スルハ普通ナレバ墨國人ノ性質

四八一 五月十日

在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

墨國匪賊米國テキサス州内襲撃ノ件

第一〇六号

五月五日夜墨國匪賊約五十名「テキサス」州 Glenn Springs ヲ襲撃シ米兵二十名ノ死傷アリ爾來同地方不穩ノ狀況アリシカ五月九日大統領ハ同國境地方ニ於ケル不穩狀態ニ鑑ミ國境警備ノ任ニ充ツルカ為「アリゾナ」「ニューメキシコ」「テキサス」三州ノ民兵(合計四千)ヲ召集セリ尚常備軍歩兵三個聯隊(約三千)國境方面出動命令ヲ受ケタリト

太田濟ミ

四八二 五月十一日

在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

墨國政府本邦政府ニ米墨間仲裁方並本邦ヨリ

武器彈藥輸入方依頼ニ関スル件

第一〇七号

在墨代理公使太田ヨリ閣下宛

第一九号

トシテ自ラ屈辱ヲ感ズル次第ナルモ日本ニ対シテハ別ナリ親友ニ謀ルモノナルカ故ニ決シテ屈辱ニアラス又爾カ了解セラレンコトヲ希望ス、其内「カランサ」執政長官ニ御面会ノ節同執政長官ハ自分程詳細ニハ語ラザルベキモ同様ノ趣旨ヲ述ブルコト信ズト附言シ本月二十二日本官ノ催シタル「ロメロ」氏夫妻送別ノ晩餐會ニ於テモ「アクニヤ」内務大臣(前外相)其他國務省官吏等ト共ニ心置キナク打解ケ盛ニ好日感情ヲ披瀝致シ居リ候

右ハ格別取り止メタルコトニ無之候得共墨國政府当路者ノ対日感情及其根拠ヲ知ル上ニ多少御參考ト相成ルベキカト存候ママ一併茲ニ及御報告候 敬具

因ニ「カランサ」氏ニ後日正式大統領タラントスルニ方リ先ヅ以テ御シ易キ「アギラール」將軍ヲ仮大統領ニ据エ置キ自己ノ就任ヲ容易ニセンガ為メ現在之ヲ外相ノ地位ニ置クモノナリトノ噂アリ又或ル消息通ノ米人ノ如キハ同將軍ヲ外相トシタルハ之ト軍隊トノ關係ヲ疎ナラシメンガ為メナリト觀察シ居ル次第ナルガ真理ハ此兩者ヲ合シタル点ニアルガ如ク被思考候為念申添候

本書送附先 在米大使

五月八日荒井ヲ熟知セル外務大臣ハ特使ヲ以テ荒井書記生ヲ招キ米國側ノ使喚ニ從ヒタル在米墨西哥人民カ墨西哥領土ニ入りタル上五月七日隊伍ヲ整ヘテ再々 Texas Bigben ニ侵入シ「カランサ」「ヴィヤ」ノ万歳ヲ唱ヘ暴行ヲナシタル新事件ハ「エル、パソ」ニ於テ順調ニ進行シ居タル米國軍隊撤退談判ニ遲滞妨害ヲ与ヘ談判成功ノ見込立タサルニ至リタルト又米國ノ侵略的陰謀盛シナル事實ハ墨西哥國政府ヲシテ米墨紛争ノ避クベカラザルヲ思ハシムル次第ナルモ墨西哥國政府ハ戦争ハ目下ノ所万々避ケタキ希望ヲ有シ日本國政府ニ事件ノ調停ヲ依頼シタキニ付此事ニ付本官ニ伝達ヲ請フト語レルニヨリ本官ハ同日午後同大臣ヲ訪問シ更ニ其ノ詳細ノ説明ヲ聞紀シタルニ外相ハ前頭ノ事情ヲ述ヘタル上米國ノ主張中撤兵ハ漸次之レヲ為スモ若シ Columnbus 事件ノ如キコト再発スル場合ハ此限ニアラストノ簡条アル所米國ハ一方沿境各地ニ於テ該事件ト同様ノコトヲ起サント陰謀ヲ企テ居ルニヨリ墨西哥國政府ハ米國ニ撤兵ノ誠意ナキヲ認メ撤兵談判ノ衝ニ当レル Oregon 將軍ニ向ケ遂ニ談判中止ノ電訓ヲ發シタル次第ニテ戦争ハ到底避クヘカラサルカ如キ形勢ナルニ由リ(不明)西曆千八百四

十八年米墨間 *Guadalupe* 条約第二十一条ノ仲裁（荒井ニ話シタルトハ異ナルモ其後正確ニ研究シタルモノノ如シ）ヲ日本国政府ニ依頼シタリ就テハ予メ其ノ内意承認セシメラルル様何分ノ尽力ヲ仰クトノコトナリシニヨリ本官ハ米墨關係カ左程迄切迫セリトハ予想セサリシ所又米国對墨行動ニ関シテハ貴大臣ト覬察ヲ異ニスルモ御依頼ノ筋ハ政府ヘ取繼クヘシ但シ我政府ハ支那ノ形勢目下御承知ノ通ノ始末故殆ント他ヲ顧ミル暇ナキ上米国ニ向ヒテハ移民問題等ニ付頗ル機微ナル交渉ヲ繼續シ居ル際聊カタリトモ之レニ惡影響ヲ及ホスト考ヘラルル事件ハ到底企テサルヘキニ付此ノ点ハ予メ善ク了解シ置カレタシト答ヘタルニ同大臣ハ勿論日本国政府ノ立場ハ了解シ居ルニ付仮令拒絕ニ遇フモ日本国ニ對スル好意ハ決シテ變ルコトナシ只墨西哥國ハ「モンロー」主義ノ大反對者ナルカ故ニ南米諸國ニ之レヲ依頼スルコトヲ好マス又英独仏ハ依頼差支ナキモ最モ親交アリト自カラ許ス日本ニ依頼セハ墨西哥ノ對日好感情ヲ表彰スル一方法ニテモアリ又自ラ安心ヲ得ル方法ナルニヨリス決シタレハ事情洞察セラレ同情アル取扱ヲ熱望スル次第ナリト述ヘ尚語ヲ繼テ米国力武器彈藥輸入ヲ禁シ頗ル困難

ントスルモ居中調停ノ場合ト異ナリ米國ノ誤解ヲ招クコト有之間敷ク又仮リニ之レヲ國務省ニ於テ政策ニ利用スルモ我等ニ何等害ナク實際仲裁者トナリタル場合係争國ノ感謝ヲ贏チ得ル外其ノ怨ヲ買フガ如キコト万有之間敷キヤニ思考セラル何分ノ御電訓アリタシ追テ外相ハ秘密ノ米國ニ洩ルルヲ甚シク氣遣ヒ居リタルニ依リ（不明）本官ハ電信料ノ關係ヨリ近來ノ發電ハ皆在米大使館ヲ經由スルコトトナシ居ルモ秘密洩洩ノ憂ハ決シテナキニヨリ安心セラレタシト述ヘタルニ在米大使館ヲ經由セハ自然ニ米國ニ秘密ノ洩ルル機會アルニ由リ墨西哥國ニ於テ電信料ハ負担シテ差支ナキニ由リ日本ヘ直接送電セラレタシト希望シ本官ハ我カ外交官ヲ疑ハルハ本官ヲ疑ハルルト同様ナルニ付此ノ事件ノ全部ヲ断ハルヨリ外ナシト述ヘタルニ漸ク安堵セシ次第ナルニ付本件ノ成否ニ拘ハラズ嚴ニ秘密ニ附セラレタシ

四八三 五月十三日

石井外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛（電報）

米墨爭議ノ仲裁依頼拒否及銃器彈藥供給不能

ノ旨回訓ノ件

第五四号

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 四八三 四八四

セル事情ヲ説キ此ノ欠乏ヲ補フタメ日本国ニ武器彈藥ノ輸入ヲ仰キタキ希望ヲ述ヘ差当リ彈藥一二千万發購入方ニ付政府ニ於テ何分ノ尽力ヲ与ヘラルル様併セテ懇願スト云ヘルニヨリ本官ハ日本國ハ目下同盟側タル露國ノ需要ニスラ満足ニ応スルヲ得ス工廠ヲ急造スル様ノ事情ニテ到底他國ノ需メニ応スルコト能ハサルヘク且武器彈藥ノ輸出ハ特許ヲ有スル会社ノ一手ニテ取扱ヒ居ル所ニシテ日本国政府ノ直接關係スヘキ事柄ニアラス從テ之ヲ取次クモ何等利益ナカルヘシ尤モ当地ニハ右会社ノ一員タル三井物産会社代理人アルニヨリ差向キ之レニ相談セラレテハ如何ト答ヘタル所会社トノ交渉ハ事件漏洩ノ危險アルニヨリ政府ニ於テ曲ケテ会社ヘ内談セラレンコトヲ望ムト云ヘルニヨリ然ラハ一應取次ク丈ハ致スヘシト答ヘ置ケリ惟フニ右彈藥ノ件ハ先年三井武器輸入事件ノ例モアリ仮令我ニ相当余裕アルモ拒絕スル方可ナラント思考セラルルモ仲裁ノ件ハ米國力商議ニ応シタル曉過半ハ成立スヘシ其ノ以前我ニ於テ米墨兩國合意ヲ条件トシテ依頼ニ応スルモ可ナリトノ内意ヲ墨西哥國政府ニ洩ラシ置クハ墨西哥國ノ好意ヲ撃キ置ク上ニ得策ナラン万一墨西哥國政府ニシテ之レヲ對米交渉ニ利用セ

在墨太田ヘ転電アリタシ

第一〇号

貴電第一九号ニ関シ墨米間爭議ノ速ニ解決セムコトハ帝國政府ノ衷心希望スル所ナレトモ墨國外務大臣申出ノ如キ仲裁ノ任ニ当ルコトハ乍遺憾之ヲ応諾スルコト能ハス又銃器彈藥類ノ注文ニ関シテハ目下到底之ヲ供給スルノ余裕無之ニ付右可然墨國外務大臣ニ申入ラレタシ帝國政府ハ墨國事件ニ関シ米國ヲシテ帝國ノ真意ニ對シ聊カニテモ疑惑ヲ惹起セシムルノ虞アルカ如キ行動ヲ執ル事全然之ヲ避ケタキ方針ナルニ付テハ此儀篤ト御含相成度尚ホ本電信ハ在米帝國大使ヲ經由セシムルモ爾後本大臣宛貴電ハ反對ノ訓令アル迄總テ当方ニ直電相成タシ

四八四 五月十三日

在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛（電報）

「エル、パソ」ニ於ケル米墨軍憲會談不調ノ

件

第一〇九号

「エル、パソ」ニ於ケル米墨軍憲代表者等ノ會議ハ五月十一日不調ニ終リタルカ兩國代表者等連署ノ下ニ同會議ヲ中

五六七

止シ更ニ兩國外務省ヲ通シテ問題ノ決定ヲ可能ナラシムル
為各自本國政府ニ報告スヘキコトニ同意セリ右會議打切ハ
兩國代表者等又ハ兩國政府間ノ友好關係斷絶ヲ意味スルモ
ノニアラストノ公表ヲ行ヘリ五月十二日米國政府閣議ノ後
陸軍長官ハ對墨方針ニ何等變更ナシト公言シタル趣ナリ又
五月十二日「エル、パソ」發新聞電報ハ華府ニテ米墨交渉
開始ニ先チ土匪出沒セル北部墨土ノ局面ヲ制スルノ実力ア
ルコトヲ示サン為同地域ニ「カランサ」軍一万ノ出動ヲ命
シタリト伝フ

太田在墨代理公使ヨリ閣下宛往電第一九号ニ関シ如何ナル
形ニシロ我ニ於テ米墨問題ニ関与シ又ハ斯ル内意ヲ墨國政
府ニ通スル如キハ避クヘキモノナリト存ス右ハ申上クルノ
必要ナシト信スルモ右電報本官ヲ經テ転電サレタル結果本
官ニ於テ同電ノ趣旨ニ幾分賛成ナルカノ如キ誤解ヲ慮リ為
念開陳ス

在墨代理公使ヘ転電セリ

四八五 五月十六日

在墨國太田臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

米墨紛争ニ関シ仲裁謝絶ノ旨墨國外相ニ申入

既ニ同地方墨國守備軍ヨリハ米國ニ對スル宣戰布告ヲ請求
シ來リ居ルモ政府ハ可成此際米國ト戰爭ヲ避ケ度キ希望ナ
ルニ付右守備軍ニ向テハ開戰ヲ許サズ却テ米國政府ニ向テ
米國軍事行動ノ真意ヲ質問(書面ニテ)シ居ル次第ナルガ
墨國政府トテ米軍ノ侵入坐視スルハ到底為シ能ハザル所ナ
ルヲ以テ彼ノ不法侵入ニ備フル為メ幾分警備ヲ整ヘ置ク必
要アルニヨリ陸軍大臣「オブレゴン」將軍ハ今回銃器彈藥
及ヒ若シ出來得ベクンバ潛航艇數艘ヲモ買入ル、為メ委員
ヲ日本ニ密派セント決心シ貴官ヨリ該委員ヲ日本陸軍大臣
ニ紹介セラルル様依頼ノ為メ貴公使館ニ訪問セントノコト
ナリシモ時節柄該訪問ハ思止マラシムル様注意ヲ与ヘ此処
ニテ貴官ニ面会セシムルコトトセリト述ベタルニヨリ本官
ハ本日不計「オブレゴン」將軍ト相見ルヲ得ルハ本官ノ喜ブ
所ナルモ銃器彈藥類ヲ日本ニ仰ガントノ御希望ハ先般既ニ
述ベタル通り(往電第十九号中ノ説明及貴電第十号ノ趣意
ヲ申入レタルヲ指ス)到底不可能ナルガ故ニ此際委員ヲ派
遣セララルハ無用ノ義ナリト信ス且ツ近着ノ米國新聞ニヨ
レバ米國大統領ハ「アリゾナ」「ニュー・メキシコ」及ビ
「テキサス」三州ノ民兵團四千及ヒ五千ノ正規兵ニ更ニ動

濟ノ件

第二〇号

五月十五日墨國外務大臣ヲ訪問シ貴電第一〇号前段ノ趣旨
ヲ述ヘ置ケリ

四八六 五月二十四日

在墨國太田臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛

墨國陸軍大臣日本ヨリ兵器彈藥購入ノ為委員

密派計畫ノ件

機密公第八号

大正五年五月二十四日

在 墨

臨時代理公使 太田 為吉(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

五月二十三日外務大臣「アギラール」將軍ハ本官ニ來省ヲ
希望シ來リタルニヨリ外務省ニ訪問シタル処同大臣ハ自ラ
本官ヲ來訪セズ却テ足旁ヲ請ヒタルハ世間ノ注意ヲ避クル
為メナリシ旨ヲ述ヘテ謝意ヲ表シタル後過般來緊張セル米
墨關係ハ稍ヤ平和ニ局ヲ結ハントスル傾向アリシ処米國ハ
最近國境ニ兵ヲ集中シ方ニ「コワウイラ」州ヲ衝カントシ

員ヲ命ジタルモ右ハ全ク「ビッグベント」及ビ「グレン、
スプリング」事件ノ刺戟ニ基ク國境防護行動ニ外ナラザル
モノノ如ク從テ右正規兵ノ如キハ「サン、アントニオ」ニ
屯營セシムトノコトナルガ其後ノ經過ハ知ラザルモ貴方ニ
於テ米兵侵入云々ト云ハルルハ此ノ事實ヲ指サルニアラ
ズヤ果シテ然ラバ格別形勢ノ必迫セルモノト云フヲ得ス米
國ノ行動ハ寧ロ國家本然ノ警備処分ニ外ナラズ從テ其侵入
云々ノ如キハ杞憂ニ屬スルモノノ如シト述ベ外務大臣ハ之
ニ對シ米國新聞ハ警備ノ為メト称スルモ事實ハ然ラズ現ニ
米軍先鋒二聯隊ハ既ニ國境ヲ超エテ「コワウイラ」州ニ入
リ方ニ墨軍ト衝突セントスル姿勢ニ在リ米國ハ恰モ墨國ノ
宣戰布告ヲ待ツモノノ如シト語リタル際「オブレゴン」將
軍ハ室ニ入り來リ一応挨拶ヲ済マセタル後前ニ「アギラー
ル」外相ノ語リタル所ト大体同一ノ事情ヲ述ベ本官ニ前記
ノ紹介狀ヲ請求セルニヨリ本官ハ日本ニ現今銃器彈藥ノ余
裕ナキ事情ヲ縷述シ此際委員ヲ送ルハ無益ノ業ナルノミナ
ラズ最近桑港地方新聞ニ喧伝セラレタル「イツルベ」將軍
ノ例ニ考フルモ決シテ墨國政府ノ為メニモ執ラズ殊ニ日本
ガ目下米國ト重要事件ノ商議ヲナシ居ルハ新聞ニテモ御承

知ノ通りナルヲ以テ日本ハ大ニ迷惑ヲ感ズベキニヨリ墨国政府ノ苦衷ハ本官ニ於テ大ニ同情スル所ナルモ委員派遣ハ再考セラルル様致シ度シ又潜航艇購入ノ件モ日本ガ目下交戦国ノ一タルコト、印度洋以東ニ於ケル警備ノ重任ニ当リ且ツ最近独逸巡洋艦太平洋ニ現ハレタリトノ噂アル点ヨリ考フルモ他国ニ潜航艇ヲ供給スルガ如キ余裕アル筈ナシト述ベタル処「オブレゴン」陸相ハ墨国ノ欲スル所ハ銃器彈藥ノミナラズ是等ノ製造機械ヲモ甚ダ必要ヲ感ジ居ル次第ナルガ故ニ是非思ヒ立チタル通り人ヲ派シタキ次第ナリト語リ容易ニ思ヒ止マルベクモ見エザリシニヨリ本官ハ新聞ノ伝フル日露新協約ニヨレバ日本ハ全力ヲ挙ゲテ露国ニ武器彈藥ヲ供給スルコトナリ居ルガ故ニ余裕ニ属スル造兵機械モ存在スル筈ナク又實際ノ事情ハ造兵以外ノ工場サヘ一時的ノ更改ヲ加ヘテ武器彈藥製造ニ使用シ居ル様子ナルヲ以テ委員派遣ハ勝手ナルモ其目的到達ハ不可能ト思ハル然シタツテ日本政府又ハ当業者ト協議セラレタキ希望ナルニ於テハ当地ニモ当業者ノ代理人アリ又日本ニハ貴国公使アリ何故此方法ヲ採ラレザルカ思フニ「ロメロ」氏ハ間モ無ク日本ニ着スベク其地位ヨリスルモ他ノ疑ヲ招クコトモナ

ク又特ニ派遣セラレタル者ヨリモ一層各方面ト協議スルニ都合好シカルベシト述ベタルニ「アギラール」外相ハ同公使日本ニ着スルモ日本政府ニ於テ信任状捧呈ヲ許サルルヤ疑問ナリト述ベタルニヨリ本官ハ如斯キ心配断シテ無し日本政府ハ既ニ喜ンテ同氏ヲ接受スル旨回答セルニアラズヤト云ヒタルニ同外相ハ駐墨米國大使ガ未ダ当国ニ来ラザル以前ハ他国ニ於テモ墨国公使ヲ接受セザル処アリト思ヒシ迄ナリト聊カ皮肉ノ語裡ニ方向ヲ變シ設令「ロメロ」公使ニ通信セントスルモ墨国政府電信暗号ハ既ニ米國ニ盜マレ居ル疑アルガ故ニ甚ダ危険ナリ又政府ハ在当地三井物産会社代表者ニモ内密相談シタルモ同人ハ紐育ヨリ未ダ返電ヲ得ズ已ムヲ得ザレバ同人自身紐育ニ出張セント云ヒ居ル次第ニシテ容易ニ埒ノ明カザル始末ナルニヨリ此際是非委員ヲ日本ニ派スル考ナリト云ヒ本官ノ重ネテ弁難シタルニ不拘兩相共其素志ヲ翻サズ共ニ右ノ紹介狀作製ヲ懇願セルニヨリ本官モ此上先方ヲ説得スルハ到底不可能ノ事業タルヲ看取シ然ラバ委員派遣ハ貴見ノ通り致サルベシ但シ我國ノ規則トシテ外国又ハ外人ニ關スル事項ハ設令私信ナリトモ他官庁ト直接往復スルヲ禁セラレ居リ在外官吏ノ行動ハ事

細大トナク外務大臣ヲ經由スルヲ要スルガ故ニ御依頼ノ如ク陸軍大臣宛紹介狀ニ換ヘテ本件ヲ外務大臣ニ報告シ置クコト、致スベキニ付其レニテ満足セラレタシト述ベ派遣委員ノ姓名ヲ尋ネタルニ陸相ハ隣室ヨリ別記兩名委員ノ内「ヴァルガス」大佐ヲ呼び来リ本官等ニ紹介セリ依テ本官ハ「イツルベ」將軍ノ例ヲ引キ十二分ニ警戒ノ必要アルコトヲ説キ且ツ日本ガ衷心米墨間ノ平和ヲ希望セルハ先日外務大臣ニ縷述シタル通りナルヲ以テ此ノ希望ヲ却テ破壊スル結果ニ至ルベキ事項ハ日本ノ当然嫌惡スル処ナルベク且ツ之カ為メ其外交關係上ニ惡影響ヲ被ルハ我政府ノ決シテ認容セザル処ナルベキヲ述ベタル上該派遣委員カ日本ニ於テ遂ニ使命ヲ果シ得ザリシトモ之レ決シテ使者ノ罪ニアラズ屢次述ベタルガ如ク事實不能ノ事柄ナルガ為メナルベキニヨリ此点ハ双方ノ為メ予メ誤解ナキ様了解シ置カレタシト一同ニ向ツテ述ベタル所陸相ハ委細承知セリ只自分ガ如斯委員派遣ノ素志ヲ貫カントスルハ委員日本ニ到レバ何処カニ於テ目的ヲ達シ得ルガ如キ妄想ヲ有スルガ故ナリト述ベ尚ホ「イツルベ」將軍ニ對シテハ日本行ヲ見合ス様電訓ヲ發シ彼ハ目下「エル、パソ」ニ滞留スルコト及今回派遣

委員ノ旅行ハ外間ヲシテ疑ヲ起サシメザル様充分注意シ普通人漫遊旅行ノ方法ニ拠ラシムベキコトヲ誓ヒ是レニテ会谈ヲ終レリ

右ハ聊カ枝葉ニ渉ル点有之候得共会谈ノ委曲ヲ闡明スル為メ敢テ之ヲ記述シタル次第ニ有之候惟フニ墨国政府ノ現状ハ外、米國トノ難アリ、内、「サパタ」軍其他不平等分子ニ備フルノ必要アルモ米國又ハ歐洲ヨリ軍器彈藥ヲ輸入スル方法無ク信賴スベキ唯一ノ友邦ト自認セル我國ヨリハ御承知ノ通り謝絶セラレ殆ンド絶体絶命ノ境遇ニ逢着セル折柄頻々トシテ到来スル米國軍事行動ノ報ハ近來益々彼等ノ疑心ニ暗鬼ヲ生ゼシメ百方苦慮ノ結果再び拒絶セラルルヲ覺悟シツツモ尚ホ万一二幾分ノ目的到達ヲ僥倖セントシ遂ニ前述ノ懇願ヲ試ミルニ到リタルモノニシテ本官ノ電報問合ヲ暗ニ謝絶セルガ如キ頗ル苦衷ノ察スベキモノアリ亦之ニ對スル本官ノ前頭応答ハ懷ニ入レル窮鳥ノ信賴ト交誼トニ對シ応酬スベキ何物モ有セザル駐外官吏苦心ノ一路ニ外ナラザル次第ニ候間其筋合篤ト御賢察相成リ度尚ホ別記委員本邦到着ノ上ハ好シ彼等ノ希望スル目的ハ到底達セシメ得ザルトスルモ我外政ノ方針ニ妨ケ無キ限り可然方法ヲ以テ

相当便宜ヲ給与セラルル様希望致候

右報告旁此段及稟申候 敬具

追テ前記委員等ハ出来得ル丈ケ至急当地ヲ出發シ桑港ニ
テ便船ヲ待ツ積リナル由ニ有之候為念申添候

別 記

派遣委員人名

Colonel Rafael Vargas.

Lieutenant Angel Gutiérrez.

本信写送附先 在米大使

四八七 六月十八日

在墨国太田臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛 (電報)

米墨交戦ニ関シ墨国外相談話並在本邦同国公

使宛暗号電報轉達方依頼ノ件

第二二号

六月十七日墨西哥国外務大臣ノ請ニ依リ外務省ヲ訪問帰途
同大臣ハ米国軍隊又 Marcos ニ侵入シ目下墨西哥国ノ軍隊
ト交戦中ニシテ兩國戦争ハ遂ニ避クヘカラサル状態ニ立至
リタリト述べ事情斯ノ如クナルヲ以テ在日本墨西哥国公使
ニ發送シタキ電報モ米国ニ於テ沒収セラルル虞アルニ付本

官ヨリ我外務省ヘ轉達方依頼シ呉ル様懇談アリタル上左
記ノ暗号電文ヲ手交セラレタルニ付本官モ事情已ムヲ得サ
ルモノト認メ之ヲ承諾シタリ先方ヘ轉達方御取計相成タシ
尚兩國關係ノ真相ハ研究中

註 暗号電文省略

四八八 六月十八日

在墨国太田臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛

在墨国公使召喚請求及米墨軍隊衝突ニ関

シ墨国外務大臣談話ノ件

附記一 六月二十日附米墨紛争ニ関スル參謀本部情報

二 六月二十三日附米墨紛争ニ関スル海軍軍令部情報

機密公第一六号

(七月廿六日接受)

大正五年六月十八日

在 墨

臨時代理公使 太 田 為 吉 (印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

六月十七日「アギラール」外相ノ請求ニヨリ同外相ヲ國務
省ニ訪問シタル処同外相ハ日本ハ墨国政府ノ最モ信賴スル
友邦ナルカ故ニ以下語ル事實ハ最モ先キニ日本政府ノ耳ニ
入レ置キタキ冀望ナリトノ冒頭ヲ置キ

最早ヤ争フ余地ナシト云ヒ

更ニ仏国政府ヘ召喚請求ノ方法ニ付政府ハ目下巴里ニ向ケ
「ヤドリツト」ヲ發シタル「アツコナ」 (Juan Sanchez
Azcona) ニ向テ右請求提出方ノ訓令ヲ發シタルモノナル
カ本件ニ関スル貴官ノ感想ハ如何

ト反問セラレタルニ付キ本官ハ墨国政府ニ於テ確實ナル証
拠ヲ握リ之ヲ基礎トシテ充分御考量ノ上既ニ右ノ如キ手段
ヲ採ラレタル以上ハ本官ノ意見ハ何等ノ効力ナカルヘシ而
テ一国ニ駐劄スル外交官カ任国ニ向テ陰謀ヲ企ツル如キ場
合ニ其国力召喚請求ヲ為スハ權利ニ属スルコトニシテ「ル
フェーブル」氏カ貴大臣ノ言ハルル如ク此場合ニ適合スル
モノナルニ於テハ墨国政府ノ措置ハ適法ナルヘシ但シ本官
ハ来墨日淺ク未タ同氏ト交際ノ機会モ多カラサル故其人為
ハ充分知ルヲ得サルモ同僚トシテ頗ル氣ノ毒ニ思ヒ居レリ
而シテ本件ヲ我政府ニ電報スル件ハ御依頼トアレハ之ヲ拒
ム理由モナキニヨリ其通り取計フヘシト述べタル処外相ハ
暫時黙考ノ上話題ヲ轉シ後ニ記述スル米墨戦争開始ノ件ニ
移リ暫ク交談ノ上再ヒ本件ニ立チ戻リ

ト述ヘ尚ホ本官ノ質問ニ對シ
「ルフェーブル」氏陰謀ノ確証ヲ今回手ニ入ルルヲ得タ
ルハ米国ヨリ氏ノ許ニ密書ヲ齎シタル「クリエー」カ酒
癖ヲ有シ酩酊ノ上當国官憲ニ其密書ヲ披見セシメタル為
メニシテ氏ノ行動カ駐墨外交官トシテ許スヘカラサルハ

彼ハ未タ仏国大統領ニ国書ヲ捧呈シ居ラサルカ故ニ右ノ電訓実行ハ当方ノ考ヘ次第ニテ中止セシムルコトモ出来得ル状態ニ在リ故ニ參考ノ為メ貴官ノ腹藏ナキ意見ヲ聞カシメラレ度シ

ト語ラレタルニヨリ然ラハ本官ハ仮リニ墨国外交關係ノ立場ヨリ下セル觀察ヲ述ヘン而テ言偶々墨国外政ノ批評ニ涉ルモノアリトスルモ斯ハ外交官トシテ述フルモノニアラス貴大臣ノ友人トシテ語ルコトト御承知アリタシト前提シタル上

右「アヅコナ」氏ニ発セラレタル電訓ハ至急取消サルヲ最モ策ノ得タルモノト思考ス蓋シ墨国今日ノ涉外關係ハ甚タ纏綿セルモノニシテ政府ハ万事慎重熟慮ノ上行動セサルヘカラス、墨国政府ニ於テ「ルフェーブル」氏陰謀ノ確証ヲ有セラルルハ事実ナリトスルモ其召喚請求ニ格別ノ理由ヲ附セラレサルカ如キハ甚タ不親切ノ遣り方ナルト共ニ之ヲ受ケタル仏国政府ハ何カ故ニ「ベルソナ、ノン、グラタ」ナルカヲ解スルニ苦ムヘク場合ニヨリテハ「アヅコナ」氏ノ如キモ玄関私ヲ喰フニ至ルヘク世間一般モ亦其理由ヲ知ルニ苦ミ種々ナル臆測揣摩ノ結

府ノ墨国政府ニ対スル感想ヲ良好ナラシムル所以ニアラサルヘシト内々心配シ居タル次第故御依頼ノ電報ハ發セサルコトト了解スヘシ

ト語リ外相ハ勿論電報ヲ依頼セシハ取消スモ日本ハ仏国ト同盟關係モアリ自然仏国側ノ若干涉政策ニ賛成セラルルカ如キコトアリテハ墨国ノ大ニ困難スル処ナルカ故ニ此事情ハ機會アラハ一応日本政府ヘ報告セラレタシト語ラレタルヲ以テ本官ハ了承ノ旨ヲ答ヘ且ツ我政府ノ對墨方針ハ其根底ニ於テ他国ト異ルモノアリ又歐洲戦争ニ基ク同盟關係トハ全然別問題ナルカ故ニ此点ハ御安心アリタシト述ヘ外相ハ至極満足ノ意ヲ表セラレタリ

外相ハ仏国公使ニ関スル談話一段落ヲ告ケタル際暫時黙考ノ上（此部分ハ往電第二二号ニ関ス）

貴官ハ從來米墨關係ニ對シ樂觀ヲ有シ居ラレタルモ事實ハ之ニ反シ墨国政府ハ今日愈々米国軍隊攻撃ノ命令ヲ墨国軍隊ニ下スノ已ムヲ得サルニ至リ目下「マタモロス」附近ニ於テ兩國軍隊交戦中ナリ

ト述ヘラレタルニヨリ本官ハ未タ墨国政府宣戦ノコトハ承知セサルモ事ノ余リニ突然ナルト其衝突場所ヨリ推測スル

果墨国政府ハ思慮ナキ暴挙ヲ敢テスルモノトノ印象ヲ与ヘ墨国ハ遂ニ世界ノ同情ヲ喪フ恐アルト共ニ米国ノ干涉ハ当然ト做サルルニ至ルヤモ不計又仮リニ召喚請求ノ理由ヲ示タリトテ今急ニ仏国公使ヲ放逐スルハ仏国ノ怒ヲ刺激スルハ勿論仏国文明ヲ崇拜スル拉典亜米利加一般特ニ南米諸共和国ノ同情ヲ喪フニ至ルハ明ナルト共ニ本官力墨国ノ為メニ甚タ憂慮スル処ナリ而カモ「ルフェーブル」氏ハ其内解任帰国スルコトニナルニ付キ墨国政府ニ於テ急ニ召喚請求ヲ為サレサルモ氏ノ去ルコトハ早晚事實ト成ルヘキニヨリ今暫ク耐忍セラルレハ自然貴方ノ目的ハ達セラルヘク今ニ及ンテ右ノ如キ不利益ヲ冒シ非常手段ヲ執ラルル必要更ニ存在セサルカ如シト答ヘタル処外相ハ之ニ向テ感謝ノ意ヲ表シ大ニ啓発セララル処アリシ旨ヲ語り自己ハ全然貴官ノ説ニ賛成スルニ付キ直ニ右訓令実行見合セノ命令ヲ發スヘク貴官ノ腹藏ナキ忠言ニヨリ幸ニ過失ナキヲ得タルハ真ニ謝スル処ナリト述ヘタルニヨリ本官ハ

本官モソレニテ安心セリ実ハ我政府ニ如此コトヲ電報スルハ余リ好マサル処ナルノミナラス如此ハ又決シテ我政ニ右ノ交戦ハ目下米墨間外交往復ノ目的タル事項ニ基クモノニアラス換言セハ所謂國際戦争ノ愈開始セラレタルモノト云フヲ得ス單ニ出先軍隊ノ衝動的衝突ナラスヤト思考スルモノニシテ最近「テキサス」州ノ独立ヲ標榜セル墨人ノ秘密結社カ「ラレド」ノ鉄橋ヲ破壊セリト聞キ及ヘルコトモアリ又先般日本人ノ応募ニ関シ貴大臣ニ禁止方ヲ依頼セル（機密第一〇号往信）際本官ノ語リタル彼ノ墨人等ノ一隊ハ既ニ「ラレド」地方ヲ始メ「タマウリパス」州ノ国境ニ到達セリト聞キ及ヘルコトモアルニ付今回ノ衝突ハ之等ノ暴徒ヲ攻撃セントスル米軍ノ行動ニ発作セラレタル一種ノ「スカームイツシュ」ナラスヤト思考スル旨ヲ反問シタル処外相ハ

事突然ラス、又「ラレド」ノ鉄橋破壊云々モ全然無根ナリ而テ今回ノ事件ハ固ト「テキサス」州ニ居住セル墨人「ローゼス」(Roses)ナルモノ米国官憲ノ使喚ヲ受ケ墨国領内ニ潜入ノ上改メテ米国領土ニ闖入セントシ本月十六日其配下十人ヲ提ケテ墨国領土ニ入りタルヲ以テ墨国官憲ハ其内六名ヲ捕獲シタル処之ヲ聞キタル「テキサス」州駐屯ノ米国軍隊ハ墨国官憲ノ行為ヲ不法トシ本朝

「リオ、グランデ」ヲ渡リ「マタモロス」ヲ攻撃セルニヨリ同地ヨリ五六哩南方ニ屯セシ墨国軍隊ハ急報ニ接シテ直ニ進發目下（午後六時半頃）交戦中ナリ故ニ貴官ノ言ハルル如キ区々タル「スカミツシユ」ニアラス、「カランザ」執政モ右墨国軍隊ニ向テ米軍攻撃ノ命ヲ発セラレタリ

ト語り更ニ其後ノ情報ヲ本官ニ知ラシムル為メ電話ニテ「カランザ」執政官ノ參謀長ヲ呼ビ寄セ（該參謀長ハ命ニ応シテ直ニ政庁ヨリ來省シ米軍ハ墨軍ニ対シ人数ニ於テ三倍ノ大勢力ナルニ不拘墨軍奮戦最モ力メ米軍ニ数名ノ死傷者ト捕虜トセラレタルモノアルコト並ニ目下尚ホ「マタモロス」市ニ於テ戦鬪継続中ニシテ同市ノ住民ハ男女ヲ問ハス立チテ米軍ニ抗シツツアルヲ語レリ）戦況ヲ語ラセタル上事情如此ナルヲ以テ米墨戦争ハ遂ニ避クヘカラサルコトト成レリト語ラレタルニヨリ本官ハ

貴大臣ノ言ヲ疑フ次第ニハアラサルモ今聞キタル丈ケニテハ未タ所謂國際の戦争ノ開始セラレタリト見ルヲ得ス單ニ地方的ノ一衝突ニシテ米国政府ニ於テモ交戦ノ意アルモノトハ到底推測スルヲ得ス、貴大臣モ「ルフエーブ

上電報料ヲ支払ハントノ申出ニ対シ本電ハ友誼上取次クモノニシテ貴大臣ト雖モ友情ヲ金錢ニ見積ラルルコトハ困難ナルヘシ（実ハ往電第二二号ノ通り当方ノ電報中ニ挿入スルヲ便利ト考ヘ到底料金ヲ區別スヘカラサルヲ知レルカ故ナリ）ト答ヘ辞シテ歸レリ乍序右電報料不徴取ノ点御承認ヲ請フ

惟フニ外相カ右会谈ニ於テ期待セラレタル処ハ仏国公使ニ対スル処分ヲ決スル為メ本官ノ意見ヲ徵スルニ在リタルト又一ハ米墨兩軍ノ衝突ヲ第一着ニ我ニ知ラシムルノ立場ニ於テ「ロメロ」氏宛電報ヲ依頼スルト又更ニ臆測ヲ逞フセハ時節柄対米乃至對世間的「デモンストレーション」ニ供センカ為メナリシナルヘシト雖モ聊カ解スルニ苦ムハ墨国政府ノ對米態度ニシテ本官カ形勢判斷ノ為メ米国政府ノ態度及ヒ其軍事行動ニ関シ參考タルヘキ事項ヲ在米大使ニ問合セ之ニ対シ丁度此段起草中接手セル返電ニヨルモ米墨軍今回ノ衝突ハ本官カ「アギラール」外相ニ反問シタル処ト殆ト符合シ其原因ハ寧ロ墨国側ヨリ米国ニ侵入セル匪賊ノ暴行ニアルハ疑ノ余地少キ処ニシテ当国政府カ暗ニ此匪賊ノ行動ヲ指嗾セルモ事實ニ近キモノト想像セラルル節アリ

ル」氏ノ件ニ関シ米国ハ目下干涉ノ時機ニアラストスラ考ヘ居ルコトヲ言ハレタルカ更ニ其政府ニ戰意アリトハ此点ヨリスルモ肯定スルヲ得サル義ニシテ米軍ノ戰鬪行為ニ中央ト連絡ナキハ推測ニ難カラス又兩國ノ關係ニ付テハ曩ニ抗議ヲ送ラレタル儘ニテ米国ハ未タ回答シ居ラサル今日ナレハ突然一小部隊ヲ入墨セシメテ開戦スルカ如キコトハ本官ノ想像シ得サル処要ハ今暫ク冷静ニ事物ヲ觀察スルニ在リ本官ハ初メテ本件ヲ耳ニスル次第ナルカ故ニ帰宅ノ上尚ホ篤ト研究スヘシ

ト述ヘ外相モ貴官ノ言ハルル通り米国ニ戰意ナキヲ希望シテ已マス又米国ハ本日頃回答ヲ差越ストノ情報ニ接シ居ルモ過去ノ歴史ニ於テ米国ハ常ニ無宣言ノ開戦ヲ為ス例トシ居ルハ人ノ知ル処ナルト又現下ノ事情ハ到底樂觀ヲ許サル次第ニテ甚タ痛心ニ不堪尚ホ貴官ニ於テモ御研究ヲ請フト述ヘタル上「ルフエーブル」氏ノ談ニ移リ語ラレタル処ハ前顛ノ如ク最後ニ至リ右ノ如キ現状ナルヲ以テ墨国政府ノ海外電報ハ悉ク米国ニ没収セラルルノ恐アリトシ往電第二二号「ロメロ」公使宛電報轉達方ヲ依頼セラレタルニヨリ本官ハ事情已ムヲ得サルモノト認メ承諾ノ旨答ヘタル

（此点ニ関シテハ先般機密公第一四号ノ件ヲ「アクニア」内務大臣ニ懇談セル際本官ヨリ墨国政府カ寺沢一輩ニ紙幣十万「ペソ」ヲ与ヘ「デキサス」独立党秘密結社ヲ援助セル風説アルモ墨国今日ノ外交局面上如此ハ本官ノ到底信スルヲ得サル処ナル旨ヲ語り暗ニ先方ノ答子ヲ試ミタル処内相ハ頗ル狼狽シ口ヲ極メテ其虚構ノ風説ナル旨ヲ陳弁シタルコトモアリ）一方ニ於テ米軍撤退要求ノ交渉ヲ開始セル立場ト甚タ數矛盾セルモノアルコトニシテ或ハ当国政府今回ノ遣リ口ハ米国政府カ決然タル方法ヲ以テ墨国ヲ圧スルノ決心ナキヲ見抜キ（往電第一六号前段參照）先般米国ニ送リタル最後通牒的要求公文（此公文ハ多忙ニ取紛レ未タ報告スルニ至ラサルモ頗ル過激ノモノニシテ場合ニヨリテハ実力ヲ以テ撤兵ヲ強行セントノ意ヲ示セリ）ノ成形的連続ト看做ヲ得ルカ如キモ如此暴挙ハ米兵ノ駐墨又ハ入墨ヲ奨励コソスレ決シテ撤兵ヲ速カナラシムル方法ニアラサルハ想像ニ難カラサル処ナルヲ以テ余ス処ハ此種ノ暴挙ヲ以テ自ラ米国ノ干涉ヲ誘引スル底意ニアラサルカノ疑問ナリ蓋シ当国政府ノ財政及内政情況カ甚タ不穩ナルハ既ニ往電第一六号ニテ一応報告セシ通りニシテ其後益々度ヲ高ムル

モノノ如クナル上ニ先般我ノ仲裁拒絕ニ逢ヒ一層時局ノ收拾スヘカラサルヲ感シ遂ニ此難關ヲ切り抜クルニハ結局米國政府ノ援助ヲ得テ同國資本ノ力ヲ借ル外他ニ方法ナキヲ知ルニ至リタリト難モ從來ノ強硬ナル「カランザ」氏ノ態度ヲ以テシテハ到底其目的ヲ達スルヲ得ス去リトテ今ニ及ンテ突然膝ヲ米國ニ屈スルハ内外ニ威信ヲ失シ当然憲政政府ノ自滅ヲ來タスモノナルカ故ニ戰爭ニ依テ国内ノ不平ヲ外ニ向ハシメ政府ノ基礎ヲ固ムルト同時ニ國民ヲシテ自ラ米國ニ抗スル能ハサルヲ知ラシメ後徐ロニ自屈ノ理由ヲ作ラントスルモノナルカ如ク想像スルモ當國ノ國情及人心ノ趨向ニ鑑ミ強チ暴論ト云フヲ得サルモノアリト存スレハナリ、記シテ猶ホ疑ヲ止ム

右及御報告候 敬具

本信写送付先 在米大使

(附記)

六月二十日附米墨紛争ニ関スル參謀本部情報

參謀第一九三三號

大正五年六月二十日

參謀 總長

ノ南八十里ノ Carizal 附近ニテ米軍ハ「カランサ」軍ノ服裝ヲナセル墨軍ニ襲ハレ激戦米軍死者四十ヲ出セリト云フ

(一)

海諜報第一一九五號

大正五年六月二十三日

海軍 軍令部

米國發電報

二十日(火曜日)海軍卿ハ緊急案トシテ議會ニ對シ懸案ノ海軍案ニ於テ下士卒二万七百増加総數七万四千七百トシ以テ有ユル艦艇ヲ就役スルヲ得セシメ尚ホ必要ニ応シ大統領ニ八万七千迄増加ノ権能ヲ与フル様提議シタリ

新聞ノ伝フル所ニ依レハ政府ハ對墨戰爭中海軍ヲ最大有効ノ状態トナシ第三國ニ對シ充分準備ノ必要ヲ認メツツアリ又海軍案中戰艦追加ハ政府議會共ニ必要ヲ認ムト

四八九 六月十九日

石井外務大臣ヨリ
在墨國太田臨時代理公使宛

墨國政府ノ暗号電文轉達方謝絶ノ件

第一二號

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 四八八 四九〇

歐洲戰爭其一九九四

華盛頓發電報

發 不 明
二十日午前八時二十五分着

墨國ハ屢々米國ニ遠征軍撤退ヲ迫リシモ容レラレス依テ北部ニ軍隊ヲ増派シ且地方軍モ召集シ最近ニハ直接米國遠征隊長ニ今後北方ニ撤退スル為ノ外他方面ヘノ行動ヲ禁スヘク通告シ墨國北部民心又激憤ノ度ヲ増シ危機切迫ス依テ米國政府ハ十八日國境守備ノ為メ全國民兵ニ動員ヲ令シ各所ニ於テ待命スヘク發令セリ其數約十萬國境ノ現兵力ハ約四萬五千海軍亦諸艦船ヲ増派セリ今後或ル動機ニ依リ開戦スルヤモ知レサレトモ兩國互ニ強テ虚勢ヲ張ルモノヤモ知レス羅旬系諸邦連合シテ仲裁ヲナスヤノ風説モアリ

(附記)

六月二十三日附米墨紛争ニ関スル海軍軍令部情報(一)

(一)

(一)

海諜報第一一九四號

大正五年六月二十三日

海軍軍令部

米國發電報

華盛頓新聞号外ニ依レハ二十一日(水曜日)午後 El Paso

貴電第二二二號ニ関シ

在本邦墨國公使宛墨國政府ノ暗号電信轉達ハ日本政府ニ於テ可成避ケムト欲スルトコロニシテ平文ナルニ於テハ日本政府ノ差支無シト認ムルモノニ限り特ニ之カ轉達ヲ諾スヘキモ貴電中ノ暗号電文ノ如キハ遺憾ナカラ取次キ兼ヌル旨貴官ハ墨國外務大臣ヘ告ケラルヘシ

四九〇 六月十九日

在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

米墨國境ニ於ケル米墨紛争ニ関シ報告ノ件

第一三〇號

往電第一一九號墨國抗議書ニ拘ハラス米國政府ハ撤兵ノ意志ナキ由ナルカ回答書ハ未タ發セラレス十六日在 Chihuahua Trevino 將軍ハ Pershing 少將ニ向ヒ「カランザ」ノ命令ニ由ルト称シテ今後米出征軍ニシテ東西又ハ南ニ追軍スルトキハ之ヲ敵對行為ト見做スヘシト通告シ Pershing ハ右申入ヲ取り上ケサル旨ヲ答ヘタル由同日夜四五十名ノ匪賊「テキサス」州 Brownsville 附近 Sanbenito 辺ニ侵入シ米國第三騎兵隊ノ一部之ヲ追攘シテ國境ヲ越ヘタリ十八日米國政府ハ必要ニ応シ米墨國境ニ派

遣スルタメ民兵ノ殆ント全部約十萬ニ對シテ召集令ヲ發シ又同時ニ驅逐艦七隻其ノ他哨艦九隻ヲ警備ノタメ墨国方面ニ派遣十九日 Sanbenito 追攘軍ハ匪賊ヲ離散セシメ又在 Matamoros 「カランザ」軍ノ將 Ricaut ヨリ匪賊鎮圧処罰ノ約束ヲ取附ケ婦米セリ Ricaut ハ若シ米軍直チニ退却セサレハ開戦スルノ外ナシト(脱)タル由

墨 濟

四九一 六月十九日

石井外務大臣ヨリ
在墨国太田臨時代理公使宛

墨国政府ニ對スル最惠國待遇保障方要求ニ関連シ同国法令送付方ノ件

政機密送第五号

本件ニ関シ本年四月十七日附政機密公第六号ヲ以テ御回申ノ趣了承右貴信添付ノ別紙第二号ニ記載セル千九百十三年五月十日附ヲ以テ發セラレタル法令原文式部御送付相成度此段申進候也

四九二 六月二十一日

在墨国太田臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

墨国外務大臣ノ暗号電報轉達謝絶ニ関シ同大

盛シニ行ハレ残留米人ハ頗ル不安ヲ感ジ居ルモノノ如シ

註 別電省略

四九三 六月二十一日

在米国珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

米国政府墨国政府ノ抗議書ニ對シ回答ノ件

附 記 六月二十一日附海軍軍令部情報

第一三二号

米国政府ハ往電第一一九号墨国政府抗議書ニ對シ二十日長文ノ回答書ヲ当地墨国代表者ニ手交シ同時ニ之ヲ公表セリ右回答書ニ於テハ先ツ右抗議書ノ措辭ノ甚タ礼ヲ失シタルヲ責メタル後墨国北部ノ無警察ノ状況カ米軍ノ出征ヲ余儀ナクシタルノ事情竝ニ米軍力特ニ匪賊ヲ追ヒテ国境ヲ越ユルハ接境地保護上已ムヲ得サル処置ナリト述ヘ米国ハ領土の野心ヲ包蔵ストノ非難ヲ強硬ニ否認シ北墨匪賊カ事実上未タ勦滅セラレス又「カランザ」政府カ右鎮定ノ誠意ト実カトヲ示サザル今日米国ハ其ノ国民ノ生命財産保護上撤兵ヲ肯ズルコト能ハス墨国政府カ其ノ脅喝ヲ實現シテ兵力ニ訴フルカ如キコトアラハ重大ナル結果ヲ招致スヘシト述ヘ居レリ

臣ニ申入済ノ件

第二三号

貴電第一二号ニ関シ本官カ事故アリテ六月十九日荒井ヲ外務大臣ノ許ニ送り御訓令ノ通り取計ヒタル所外務大臣ハ之全ク自己ノ過失ナリシトテ深く遺憾トセラレ暗号電報ノ内容ハ Matamoros 事件ノ通知及ヒ此際極力日本ノ同情ヲ得且之ニ関シ日本ノ承諾ヲ得ル様努ムヘシトノ趣旨ニテ何等日本国ニ害アルガ如キモノナラサリシト云ヒ態々同書記生ノ目前ニテ之ヲ解読シ示サレタル上更ニ別電第二四号英文電報(明治三十一年英文符号「プラス」五十)在日本墨国公使ヘ御転送方依頼シ後公文ヲ以テ之ヲ差越シタリ而シテ墨西哥国政府ハ首脳部カ当府ニ移転シ来リタル以来万事我ニ向ヒテ一層非常ニ信頼ト好意トヲ表シ本官ノ如キ随分苦シキ地位ニ在ルハ今後接手セラルヘキ諸公信ニテモ御諒察相成ルコトト信スルニ付右本官ノ立場ニモ御同情ノ上別電ノ如キハ左シテ差シ障リナキ限り轉達依頼丈ニハ応セラルル様希望ス

米墨關係ハ在米大使ヨリノ情報ニ鑑ミルモ不穩ノ状態ナルカ当国政府及人民ハ一層逆上シ一昨夜来市中ニ於テハ示威

墨 濟

(附 記)

六月二十一日附海軍軍令部情報

海謀報第一一九二号

大正五年六月二十一日

海 軍 軍 令 部

米国發電報

十八日(日曜)夜全国民兵ニ召集令下ル応募者約十萬ノ予想ハ民兵ヲ辺境守備ニ充ツル時尚三萬ノ正規兵ヲ墨国内ニ用ヒ得ルコトトナシ目下総司令官 Funston ノ麾下正規兵四萬及過日召集セシ參集ノ民兵五千ノ内正規兵一万ハ Naniquipa ヲ拠点トスル Pershing 直率ノ下ニ国境線ニアリ海軍ハ同時發令墨国東岸ニ

“Dixie”(母艦)“Salem”(三等巡洋艦)“Dolphine”(砲艦)“Hancock”(運兵船)驅逐艦三隻

又西岸ニ驅逐艦四隻其ノ他小艦艇五隻ヲ増派ス現在配置濟艦艇左ノ通り

Veracruz (東岸)ニ “Nebraska”(戰艦)
Tampico (東岸)ニ “Muchias”(砲艦) “Marietta”

(砲艦)

Elcarmen (東岸) = "Wheeling" (砲艦)

Guaymas (西岸) = "Cleveland" (三巡)

Topolobampo (西岸) = "Yorktown" (砲艦)

Manzanillo (西岸) = "Albany" (三巡) "Glacier"

(給糧船)

Mazatlan (西岸) = "Annapolis" (砲艦) "Buffalo"

(運兵船)

Corinto (Nicaragua) (西岸) = "Raleigh" (三巡)

右ニ依り必要ニ応シ封鎖ヲ実行スヘシト期待セラル
(以上十九日情況)

四九四

六月二十二日 在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

米墨軍隊衝突ニ関スル墨國側報道報告ノ件

第一三三三號

墨國側ノ報道ニ拠ルハ二十一日 Juarez ト Chihuahua ト
ノ中間ナル Carrizar ニ於テ出征軍斥候隊ト「カランサ」正
規兵トノ間衝突アリ米兵死者四五十捕虜トナレルモノ約二
十米軍側ノ公報ハ未達尚墨國側死傷ハ未詳ナルモ多数ナリ

ト伝ヘラル米國海軍当局ハ二十日巡洋艦三隻ヲ
Mazatlan 方面ニ向ハシメタル由
墨濟シ

四九五 六月二十三日

石井外務大臣ヨリ
太田臨時代理公使宛(電報)

墨國外相ノ依頼電報取次謝絶並米墨問題ニ不
関与方針言明方訓令ノ件

第一三三號

貴電第二四号二五号ニ関シ帝國政府ハ遺憾ナカラス種電信
ノ取次ヲ為スコトヲ避ケタキニ付此旨外務大臣ニ申入ラル
ベシ貴電第一九号調停又ハ干涉ノ件ハ帝國政府ニ於テ斯ル
行動ノ成功ヲ疑フノミナラス却テ意外ノ結果ヲ起スコトナ
キヤヲ虞ル旁々帝國政府ハ米墨問題ニ一切關係スルヲ避ク
ル方針ナルニ付是亦外務大臣ニ言明セラルベシ

四九六 六月二十三日

在墨國太田臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

ロメロ公使ノ本邦ニ於ケル接遇ニ関スル誤報

ニ付請訓並対米撤兵要求問題ニ付報告ノ件

第二六号

通言明シ置ケリ

四九八 六月二十四日

在墨國太田臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

在墨米國人統々帰國ノ実情ニ鑑ミ万一ノ場合

ニ対シ俸給其他費用ニ付手配方稟請ノ件

第二八号

米墨間ノ關係ハ往電第二六号末段ノ通ナルモ当地在留米人
ハ数日来統々帰國シ昨日ヨリ本日ニ掛テ鉾山会社ノ汽車迄
之ニ使用シ居ル有様ニテ一般ノ形勢甚タ險惡ニ見ユ就テハ
万一ノ場合ヲ慮リ俸給其他ノ費用三ヶ月分及電信料米貨二
千弗電送シ置カレタシ

尚当地物価ハ先般来日々暴騰ヲ続ケ紙幣ハ益々下落シ当分
恢復ノ見込立タサル処政府ハ六月一日以来外国貨幣ト紙幣
トノ交換率ヲ紙幣購買力ノ現在力以上ニ定メ之ヲ銀行ニ強
制シ居ル為俸給其他ニ大影響ヲ来セルニ付当分ノ内加俸給
与ノ義御詮議相成タシ

四九九 六月二十四日

在智利國飯島臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

墨國ヨリ南米諸國ヘ調停依頼ノ件

四九七

六月二十四日 在墨國太田臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

電報取次謝絶等ニ関シ訓令執行済ノ件

第二七号

六月二十三日墨國外務大臣ヲ訪問シ貴電第一三三號御訓令ノ

第二号

墨西哥現下ノ時局ニ関シ同国外務大臣ハ昨日電信ニテ智利、亜爾然丁政府ニ対シ訴ヘタル所アリ同時ニ「エクアドル」国政府ヨリ兩國ノ主唱ニ依ル南米諸国ノ居中調停ヲ勧誘シ来レルアリ一方ABC三国間ニハ電報ニテ協議中ナルト同時ニ北米ノ意向ヲ探リツツアリ

一等書記官時代在墨西哥ノ在当地英國公使ノ時局ニ関スル其ノ意見ヲ叩キタルニ英國ハ商業上ノ利益ニシテ害セラレサル限り何等掣肘的態度ヲ執ラサルヘシト云ヘリ

南米諸新聞ハ一般ニ北米ノ兵力干涉力避クヘカラサルコトヲ認メ南米諸国ノ干与カ自ラ限界アルコトヲ認ムルモ其ノ今日アルハ北米合衆國力對墨策ニ関シ定見ヲ欠キタル為ナリト斷シ開戦ノ曉ニハ拉丁亜米利加ノ同情ヲ失ヒ「パン・アメリカン」主義ノ根本的破壊ヲ見ルヘシト論シツツアリ

五〇〇 六月二十六日

石井外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛（電報）

墨國政府ノ電報取次謝絶ノ件

第七一号

同シク周旋ヲ勗ムル趣ニテ在墨英國代理公使ハ本國政府ノ訓令トシテ其旨ヲ外務省ニ申出タリトセル為我ノ對墨態度ハ此等諸國ト異ナル關係及事情ニ基クトノ理論ハ兎モ角感情上動モスレハ米國ヲ恐怖スルニ出タルモノトシテ當國官民ノ侮リヲ招クニ至ル虞アル際更ニ往電第二六号ノ如キコトアルニ於テハ同電ニ予見セル危險ハ勿論尚曾テ發生セシFelix Diaz 拒絶事件ニモ連想シ墨國官民ハ我ヲ目シテ背信ノ國ト為スニ至ルナキヲ保セス又西班牙カ既ニ當國公使ヲ受ケ彼ヨリ新公使ヲ送り仏独モ將ニ當國公使ヲ接受セントシ居ル事実トモ比較シ我ハ益々侮蔑ヲ被ムルニ至リ其ノ影響ハ墨國ニ同情スル中南米諸國ノ我ニ對スル態度ニ迄及フナキヲ保シ難シ一時モ早ク御回電ヲ得テ本件ヲ正誤シタシ至急何分ノ御回電アリタシ

五〇一 六月二十六日

在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛（電報）

米國側公報及米墨關係報告ノ件

第一三五号

往電第一三三三号ニ関シ今二十六日迄ニ着セル米國側公報ニ拠レハ米軍死者十三捕虜二十二、二十一日「カランザ」ハ

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 五〇二 五〇三

六月十七日墨國外務大臣ハ太田代理公使ヲ招キ米墨關係切迫セルカ為メ電報ノ中途米國ニテ抑止セラルルナキヲ恐ルトテ在本邦墨國公使宛暗号電報ノ取次ヲ依頼シ太田ヨリ転送アリタルニ付帝國政府ニ於テハ暗号電報ノ取次ヲ欲セサル旨回答セシメタルニ爾来二回時局ニ関スル平文電報ヲ重ネテ太田ヲ通シテ電報シ来リ是亦其後米墨形勢切迫シ来レルニ際シ其ノ一方ノ為メ此ノ種電報ハ取次難キニツキ拒絶方先方ニ伝ヘシメ置キタリ右貴官御含迄ニ尚往電第六九号ハ在英仏大使ヘ転電アリタリヤ

五〇一 六月二十六日

在墨國太田臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛（電報）

ロメロ公使ノ本邦ニ於ケル接遇問題ニ関シ果

ネテ請訓ノ件

第二九号

往電第二六号ニ関シ未タ御回示ニ接セサル処當國政府ニ向テハ既ニ貴電第一三三号御訓令ノ通り言明セシ今日ナレハ當國政府力從來我ニ對シテ有セシ信頼ト好意ハ自然失望ト怨嗟ニ變スル傾アリ且一方中南米諸國ハ米國ノ對墨干涉ニ反對シテ周旋運動ヲ開始（外務大臣ノ言ニ拠レハ英國政府モ

「カリサル」事件ハ米軍ガ「トレゼノ」ノ警告ニ背キテ東ニ進ミタル結果ナリトシ華府代表者ヲ通シテ米國政府ニ申入レ廿五日米國政府ハ右申入ニ拠レハ「カランザ」政府ハ友好ノ目的ヲ以テ駐墨スルトコロノ米軍ニ對スル墨兵ノ敵對行為ヲ是認スルモノト解スルノ外ナキガ此際速カニ捕虜ヲ解放シ又墨國政府今後ノ行動方針ニ就キ軍憲ニ依ラス外交官ヲ通シテ明言センコトヲ要望スト在墨代表者ヲシテ申出テシメタリ中南米諸國ハ調停運動ヲ試ミツツアリ既ニ墨國ハ主義ニ於テ異存ナキノ意ヲ表シタル由ナリ
墨國濟ミ

五〇三 七月三日

在米國珍田大使ヨリ
石井外務大臣宛

米墨關係及米國大統領ノ演說等ニ付報告ノ件

機密第七〇号

（七月二十六日接受）

大正五年七月三日

在米特命全權大使子爵 珍 田 捨 己（印）

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

去六月廿八日「フアレス」駐屯墨國將軍「フランシス、ゴンゼイル」ハ「エルバソ」駐屯米國「ジョージ、ベル」將

五八五

軍ニ対シ義ニ墨国「カリザル」ニ於テ墨兵ノ為メニ捕虜トナリタル米国人騎兵二十三名ヲ解放スヘキヲ通告シ右通告ハ其後直チニ実行セラレタルヲ以テ米墨關係ノ緊張状態ハ幾分緩和セラレタルカ尚米国政府ハ国境ノ平安在墨米国人ノ生命財産ノ安全ヲ確保セラルル迄ハ撤兵ヲ肯ンセストナシ之ニ反シテ墨国政府ハ米国遠征軍ノ撤兵ヲ固持シテ動カサル外殊ニ何レノ方面ニ対シテモ些ノ進軍ヲ為スコトヲ絶対ニ拒絶セル在「チワワ」「トレヴノ」將軍ノ宣言ヲ支持スルモノノ如ク六月廿五日米国政府ヨリ送付セラレタル抗弁書ニ対シテハ未タ回答ヲ送ラサルモ六月三十日付墨都発新聞電報ハ「カランザ」政府カ対米態度ヲ闡明セル公表書ナルモノノ内容ヲ告ケタルカ右ニ依ルニ墨国政府ニ於テハ依然トシテ強硬ナル態度ヲ維持スルモノノ如シ(附屬甲号)

繼テ米国側ノ態度ヲ見ルニ去六月十八日大統領ヨリ召集セラレタル州民兵ハ漸次米墨国境上ニ集合シ六月廿八日上下両院ハ目下米墨間ニ緊急事件ノ存在セルヲ認ムルト共ニ之カ為メ是等民兵ヲ正規兵ニ編入シテ境外ニ使用シ得ヘキ權限ヲ大統領ニ与フルノ趣旨ノ合同決議案ヲ成立セシメ翌日

ルヲ付度セシムルニ足ルモノアルカ右大統領ノ演説ト前後シテ在墨「パーシング」遠征軍ハ漸次南端ヨリ引揚ケテ北方ニ集中シ國務省ニ於テ確認セル由ノ七月三日新聞情報ニ依ルニ該遠征軍カ最早国境ヨリ百哩ノ南方ニ駐屯セルニ過キスト(当初遠征軍ハ南端ノ「ナミキバ」ニ至ル四百哩ニ延長セリ)而シテ右米軍退却ノ理由トシテハ当初軍略上ノ必要ニ出ツルモノト伝ヘラレシモ今や外交上ノ關係ニ依ルト附言セラル事情此ノ如クナルヲ以テ今後米墨關係ハ結局遠征軍派遣當時ノ米国政府ノ宣言ニ基キ米国政府カ賊徒鎮定ヲ名トシ墨国ヨリ境上防護其他ニ関スル一定ノ約束ヲ取付ケタル後墨境ヨリ撤兵スルニヨリテ局ヲ結フニ至ルナキヲ保シ難シ蓋シ大統領「ウイルソン」ノ唱道セル所謂汎米主義ノ見地ヨリセハ米墨開戦ニ懺焉タラサルヲ得スト雖他面ニハ現行行政部ノ對墨政策ノ支離滅裂ヲ極メ在墨米人ノ生命財産乃至米墨国境上ノ保護ハ對墨政策ノ失敗ノ為メ復取捨スヘカラサルニ至レリトハ常々反對党ノ好ンテ豪語スル処ニシテ行政部ニ於テハ選挙前何等カ對墨政策ノ上ニ新面目ヲ呈スルノ必要ニ迫マラレ「パーシング」遠征軍ノ派遣ノ如キモ右内国政治上ノ關係ヲ顧念シタルモノト想像シ得

主トシテ墨国臨時事件費ヲ含メル千九百十六年度歳出不足填補二千七百五十万弗支出ヲ可決セリ此ノ如ク米墨關係ノ前途未タ暗澹タル時機ニ際シ六月三十日夜大統領ハ紐育「ブレッツ」俱樂部ニ於テ頗ル率直ニ米墨關係ニ対スル自己ノ所信ヲ吐露シ

「吾人ハ国家ノ名誉ヲ維持スルニ腐心スルノ要アルコト論ナキ処ナルヲ知ルモ如何ナル時期如何ナル手段ニヨリテ之ヲ維持スヘキヤハ熟慮ヲ要スル処ナリ最モ容易ナル方法ハ武力ヲ使用スルニアリ然レトモ卿等ハ積弱ノ墨国ヲ征服スルニ依リテ米国ノ光荣アル歴史ニ何物ヲカ貢獻スヘキモノアリトナスカ又米国ハ其自衛ノ為他国人民ヲ自己ノ意ノ儘ニ圧伏スルノ權利アリトナスカ余ハ米国人民ノ意思ヲ体现シテ国事ヲ敢行スヘキヲ知ルノミ余モ卿モ自己ノ思惑ヲ以テ米国人民ノ意思ナリト断定スルヲ得ス余ハ墨国事件ノ平和的解決ヲ祈念スルノ書面ニ接スルヤ日モ亦足ラス余ハ墨国ニ利權ヲ有スル米国人ノ私利ノ為犬馬ノ勞ニ服スルモノニ非サルナキヤヲ千思セサルヲ得ス云々」(附屬乙号)

ト言及シ大統領ハ容易ニ墨国ニ対シテ開戦スルモノニ非ザヘキ余地アリ然ルニ米国人カ歐洲戦争ノ觀望者トシテ平和ノ維持ニ由リ無上ノ繁榮ヲ極メ居ル今日平和ヲ希求シ米墨開戦ヲ避ケント欲スル者ノ一大勢力ヲ占ムルハ是亦行政部ノ顧念セサルヘカラサル処ニシテ現ニ民主党ニ採リ最大ノ味方タル米国労働者連合モ米墨開戦ニ反対ナル旨其会長タル「ゴンパース」ヨリ宣言シタル等ノコトアリ茲ニ於テカ今後ニ於ケル米墨間ノ關係如何ハ今日ニ於テ予斷ヲ許サス一ニ今後ニ於ケル事件ノ發展ト之ニ対スル米国人人心ノ帰嚮トニ依リテ決スルト云フモ不可ナカラン尤モ右ニ関シ米国新聞紙カ前記大統領ノ演説ニ付如何ナル論評ヲ為セルヤヲ見ルニ当国平和主義ノ権化紐育「イヴニング・ポスト」ハ双手ヲ挙ケテ大統領所言ヲ賛成セルハ措テ問ハサルモ「ジャーナル、オブ、コンマース」モ亦大統領ノ言ハ人民ノ言ハントスル処ナリト為シタルモ之ニ反シテ紐育民、共両党ノ全權ヲ代表セル紐育「タイムズ」及同「サン」ニ至リテハ一ハ大統領ノ所論ニ非難ヲ加ヘ他ハ之ヲ以テ大統領ノ洒落タルニ過キストナシ他ノ多クノ新聞紙ハ何等言フ処ナシ右米墨關係ノ現状ヲ考察スルノ一助トモ存シ御報告申進候

敬具

本信写送付先

在墨臨時代理大使

註 附屬ノ甲号及乙号省略

五〇四 七月十六日

在墨國太田臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

米墨關係経過良好ノ趣墨国外務大臣内話ノ件

第三号

昨十四日夜本官夫妻ヲ主賓トセル「カランサ」執政官親近者 Breceda 氏私宅ノ晚餐會ニ於テ當国外務大臣ハ米墨ノ關係ハ其後経過良好ニシテ米國政府ハ本月七日ノ回答以後更ニ無条件ニテ撤兵ヲナスヘキ旨墨國政府ニ通知シ目下兩國間ニ於テハ右撤兵方法ニ関シ交渉ヲ進メツツアリト本官ニ内話セラレタリ尚ホ右食事後十一時半頃ニ至リ「カランサ」將軍ハ宴席ニ列セシ其令嬢ヲ連レ婦ル名儀ノ下ニ二三ノ侍從ヲ引連レ「ブレセダ」方ノ玄關迄微行シ来リ主人ヨリ本官等ヲ引合ハセタルカ諸般ノ事情ヨリ察スルニ其ハ先方ニ於テ予メ計画シタルコトニシテ先般ノ我カ声明ニ拘ラス我ニ対スル交情ノ変ラサルコトヲ証センカ為ナリト思考セラル

華往第四号

大正五年八月三日

在晚香坡

領事 阿 部 嘉 八

在 米

臨時代理大使 田中都吉殿

米墨間紛議解決ニ関スル會議ヲ晚香坡ニ於テ開催方慾
憑ノ件

現下米墨兩國間ノ葛藤ヲ円満ニ解決セムカ為メ某中立國ニ於テ紛議解決ニ関スル會議ヲ開催セムトノ議提案セラレタリトノ情報ニ接セリトテ七月三十一日当市々長「マクベス」氏ハ晚香坡市カ其ノ會議場トシテ最モ便利ノ地点ナリトシ当市駐在米國總領事代理ウッドワード氏ヲ通シテ在華盛頓墨國公使ニ打電シ以テ同會議ヲ晚香坡市ニ開催セムコトヲ慾憑セリ

初メ当市産業委員ダビッドソン (Industrial Commission Davidson) 氏ハ七月三十一日 墨西哥市ニ於ケル或ル信賴スヘキ筋ヨリ墨國政府ハ現下米墨兩國間ノ紛爭ヲ解決セムカ為メニ加奈陀ニ於テ適當ナル地点ヲ択ビ兩國委員ヲシテ

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 五〇五

本日接到ノ六月十六日附機密第四号貴信軍需品ノ件ニ関シテハ嘗テ往電第一九号中ニ稟請セシ次第アルモ米墨關係ハ前頭ノ如ク平和ニ解決ノ見込モ立チ又米國政府モ最近兵器彈藥ノ對墨輸出解禁ヲナセル由ナルニ付最早此ノ上我カ会社ニ向テ殊更對墨輸出ヲ差控ヘシムル必要ナキヤニ存セラ
ル右御參考迄ニ

五〇五 八月三日

在ヴァンクーヴァー阿部領事ヨリ
石井外務大臣宛

米墨間紛議解決ニ関スル會議ヲ晚香坡ニ於テ
開催方慾憑ノ件

公第一八三号

(八月二十四日接受)

大正五年八月三日

在晚香坡

領事 阿 部 嘉 八 (印)

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

本件ニ関シ別紙ノ通り在米臨時代理大使へ申進候ニ付為御參考写茲ニ及御送附候間御査閱相成度候 敬具

(別 紙)

写

同地ニ会セシメムコトヲ米國政府ニ提案セリトノ報接到シタリトノ趣ヲ市長ニ通シ市長ハ直チニ当市駐在米國總領事代理ジュー・シー・ウッドワード (G. C. Woodward) ヲ通シテ國務卿ランシング氏ニ左ノ電報ヲ發セリ

加奈陀ブリチッシュ、コロンビヤ州晚香坡市ハ米墨兩國カ其ノ國際問題ヲ商議解決スヘキ旨提案アリタリトノ情報ニ接シ茲ニ兩國代表者ノ會場ヲ当市ニ定メラレンコトヲ衷心希望スルモノナリ

当市ハ市内各般ノ設備宜シク海陸兩路ノ衝ニ當リ鉄道其ノ他交通機關備ハリ最モ便利ナル海港ニシテ加フルニ氣候和順ノ地ナレハ全市挙ケテ之カ目的ニ供スヘク茲ニ兩國代表者ノ来市ヲ衷心歡迎スルモノナリ

晚香坡市長エム、マクベス

同時ニ在米墨國公使及在米英國大使サー、セシル、スプリングライス (Sir Cecil Springrice) 氏ニモ同文ノ電報ヲ發シ其ノ援助ヲ乞ヒ一方「シャトル」「タコマ」「ポートランド」等ノ市長等ニ対シテモ亦其ノ協力ヲ懇請セリト云フ

右御參考迄ニ申進候 敬具

五八九

本信写 外務大臣

五〇六 八月十日

石井外務大臣ヨリ
在英、仏、伊、露国各大使宛

在墨国仏国公使召喚請求及米墨軍隊衝突二関

シ墨国外務大臣談話ノ件

政機密合送第一三四号

本件ニ関シ在墨太田臨時代理大使ヨリ本年六月十八日付機密公送第一六号ヲ以テ別紙写^(註)ノ通報有之候条御參考迄右及移牒候也

註 別紙写前掲(四八八文書)ニ付省略

五〇七 八月二十八日

在墨国太田臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛

駐墨国仏国及西国新公使着任ノ件

機密公第二一号

(十月四日接受)

大正五年八月二十八日

在 墨

臨時代理公使 太田 為吉(印)

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

從來当国ニ駐劄セシ仏国公使「ルフェーブル」氏ノ件ニ関

外務大臣子爵 石井菊次郎殿
米墨關係漸次平和の解決ニ歩ヲ進メタルモ兩國委員會會議ニ於テ議スヘキ事項ノ範圍ニ付キ交渉容易ニ纏マラサル次第ハ八月三日附機密第七六号ヲ以テ在米田中臨時代理大使ヨリ閣下ヘ報告相成居リ候処其後右議定事項ニ関スル墨国ノ主張即チ一、撤兵、二、兩國軍隊ノ相互の国境通過、三、闖入行為ノ責任調査ニ関スル事項ハ米国政府ニ於テモ兎ニ角會議ノ基礎トシテ承諾スルコトナリタル趣ニテ墨国政府ニ於テハ愈々該會議ニ出席スヘキ委員ノ選任ニ着手シ本月ニ入ルヤ既ニ大藏大臣「ルイス・カブレラ」通信大臣代理次官「イグナシオ・ボニアス」及鉄道院總裁「アルベルト、ホタ、パニ」ノ三氏ヲ任命セシモ米国政府ニ於テ同国委員ノ選任ニ手間取レタル為メ墨国委員ハ荏苒其出發ヲ見合セ專ラ米国委員任命ノ確報ヲ待チ居リタル事情ニシテ頗ル不定ノ境遇ニアリ右委員ノ一タル「ボニアス」氏ノ如キハ米国委員ノ任命難ニ付キ稍ヤ悲觀の觀察ヲ本官ニ洩シ居リタル程ナリシカ超エテ本月二十四日ニ到リ右米国委員ノ任命確定ノ報アリタルヲ以テ墨国委員等ハ同二十七日勿惶米国ニ向ケテ出發スルニ至リ候、而シテ該委員中「ボニア

シテハ本年六月十八日附機密公第一六号ヲ以テ及報告シタル次第モ有之候処当国政府ハ當時「アギラール」外相ノ本官ニ語ラレタル通り同氏ノ召喚請求ヲ思ヒ止マリ世間ニ對シテハ何氣無キ体ヲ装ヒ居リタルカ仏国政府ハ嘗テ伝ヘラレ居タル如ク本月初旬新公使「フェルナンド・クージエー」Fernand Couget 氏ヲ当国ニ遣リ「ルフェーブル」氏ニ更代セシメ右「クージエー」氏ハ本月十七日信任状ヲ捧呈致候間右御承知相成度尚同公使ノ談ニヨレハ同氏ハ日露戦争後ノ千九百六年頃本邦ニモ在勤セシコトアル由ニ候又六月二十五日往電第二九号中ニ一言セシ西班牙国新公使 Alejandro Tadiella y Bell 氏ハ其後間モ無ク着墨シ七月四日信任状ヲ捧呈致候右報告旁此段為念申添候 敬具

五〇八 八月三十日

在墨国太田臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛

米墨紛議解決會議議題並墨国委員出發等報告ノ件

機密公第二二号

(十月九日接受)

大正五年八月三十日

在 墨

臨時代理公使 太田 為吉(印)

「ス」及「パニ」兩氏ハ家族同伴陸路紐育ニ向ヒタルモ大藏大臣「カブレラ」氏ハ從來「ウィルソン」大統領ノ特使トシテ当地ニ駐在セシ「ロージャース」氏同道「ベラクルス」ヘ向ケ出發致候、而シテ會議ノ事項ハ勿論撤兵問題カ主要ナルモノナルヘシトハ普通一般ニ信セラレ居ル処ニ有之候得共客月十五日發往電第三三号所報「アギラール」外務大臣ノ談話ニ付テ考フルモ又米国政府七月二十八日附對墨回答書(在米臨時代理大使機密第七六号附屬書丙号)ニヨリテ推測スルモ撤兵ハ既ニ主義ニ於テ兩國間ニ協定若シクハ默契セラレタルモノナルガ如ク七月十四日ノ夜「アギラール」外相カ本官ニ私語セラレタル際ニモ米国カ撤兵ヲ承諾セルコトハ同夜宴会ニ來ル間際ニ得タル報道ニシテ未タ同外相以外誰モ承知セルモノ無ク当分秘密ニ属スベキコトナリト附言セラレタル点ヨリ推考スルモ右ノ事情ヲ肯定セシムルモノノ如ク從テ本月ニ入り米国諸新聞ニ伝ヘラレタル撤兵実行ノ風説ハ相当ノ根拠ヲ有セシモノニシテ「フアンストン」少将ノ駐墨米軍撤退勸奨ニ関スル稟議カ漏洩セリトテ米国政府ノ外交懸引上ニ於ケル切札ヲ奪ハレタルカ如ク新聞ニ書キ立テ若シクハ米国陸軍当局ノ打消の言説

發表ノ如キ悉ク一種ノ糊塗政策ニシテ殊更何等為ニスルモノニアラサリシカノ疑アリ蓋シ米国軍隊ノ遠征ハ其眼目トセシ「ヴィヤ」捕獲ニ望絶エタルニ「ヴィヤ」ノ勢力大ニ減退シタルハ事実ナルモ一方軍隊衛生上ニ見ハレタル種々ナル惡現象ハ当局ノ樂觀の聲言ニモ拘ラス懸軍ノ前途ヲ悲觀セシメ又偶々墨国軍隊ト「カリサル」ニ衝突セハ頗ル見苦キ成績ヲ示シ米国政府ハ僅ニ捕虜ノ釈放ヲ得テ非常ノ満足ヲ表セル始末（如此キ事件ニ際シ米国政府ノ意氣地ナキハ先年ノ「ヴェラクルス」事件ニテモ之ヲ証ス）ナルヲ以テ同国民兵団ノ募集ニ満足ノ成績ヲ得サリシハ別トスルモ社会一般ハ大兵ノ駐外ヲ喜ハサルコト明白ノ事実トナリタルヲ以テ撤兵ノ内意ハ既ニ七月中旬ニ之ヲ墨国政府ニ通シタルモ選挙ヲ眼前ニ控ヘタル民主党政府トシテハ當時到底率直ニ之ヲ發表スルヲ得サリシ事情アリシナランカ更ニ軫シテ墨国側ノ事情ヲ觀察スルニ墨国政府カ委員ヲ任命派遣シタル事実カ撤兵問題カ主義上既ニ容レラレタルヲ証スル（然ラサレハ會議ハ「エル、パソ」ニ於ケルモノト扱フ所ナキカ故ニ）ハ別トシ北墨ノ平和ヲ維持スル上ヨリ米軍ノ駐在其ノモノハ左ノミ心痛ノ種ニアラサル内情ナル

本官ニ差越シタル別紙^{（註）}私信一部ノ写ニ於テ説明セル所大体ニ於テ正鵠ヲ失セサル様思考セラルルト共ニ米国資本家カ政府ノ保証ヲ得テ墨国ニ放資スルハ目下ノ処余程難事タルヲ失ハス而シテ墨国政府モ又財政援助乃至ハ他ノ内政關係事項ヲ議スルニ同意スルハ米国内政干涉ヲ公認スル結論ニ至ルカ故ニ表面上之レニ反対セルハ当然ナルモ内実同様反対ノ意アルヤ否ヤハ頗ル疑ハシキモノニシテ仮リニ政府トシテハ然リトスルモ委員タル「カブレラ」氏及「パニー」氏ノ如キ財政經濟ノ当局者カ折角如斯ク生シタル機会ヲ風馬牛ニ看過シ何等其職掌上ノ商議ヲ試ミスシテ帰国セントハ容易ニ想像スルヲ得ス從テ該會議ノ經過ハ米墨兩國間ノ現在紛争解決以外ニ或ハ兩國間ノ将来ニ於ケル財政經濟其他行政上ノ關係ニ大ナル影響ヲ齎ラスコトアルヘキヲ思ハシムルモノアリ、我ニ於テモ相当注意ヲ要スルコトト觀察セラル

右及報告候 敬具

本信發送先 在米臨時代理大使

註 別紙省略

ハ疑ナキ処ナリト雖モ米軍駐在地以外ノ排米感情及ヒ引テ生スヘキ政府ノ威信失墜ハ直ニ政府ノ基礎ニ大影響ヲ及ホス問題ナルカ故ニ撤兵問題ニノミ外交の勝利ノ外形ヲ得ハ他ハ格別問フ処ニアラス米国委員ノ任命不明ナル約一ヶ月以前ニ於テ既ニ墨国委員ノ選任ヲ企テ本月ニ入ルヤ直ニ其任命ヲ見タルカ如キハ聊カ之ヲ証スルノ材料タルカ如シ故ニ會議ノ事項トシテ前記三件カ第一着ニ討議セラルルハ論ナキ所ナランモ結局ハ米国ノ主張セル如ク兩國間ノ平和増進方法ニ関スル事項モ議セラルルニ至ルヘキ傾向アルハ掩フヘカラサル処ニシテ又墨国内部ノ事情ニ鑑ミルモ如此ハ其自然ノ傾向ナルカ如シ而シテ米国新聞中ニハ財政援助問題ノ提議ハ墨国政府ヲ怒ラシムル結果ニ至ルヘシ米国政府筋ニ於テハ此ノ問題ヲ會議ニ提出スルヲ希望セルモ墨国政府ノ意向ヲ氣遣ヒ居ルカ如キ記事ヲ掲ケ居ルモノアリト雖モ内実本問ノ提出ヲ希望シ居ルモノハ米国政府ニアラスシテ寧ロ墨国政府ナルカ又ハ墨国委員ノ一人タル「カブレラ」蔵相ナルヘシト推測スヘキ節多々アリ米国政府及ヒ資本家ノ墨国財政問題ニ対スル立場ハ華府ニ於テ俗ニ中米革命屋トシテ知ラレタル *Sherburne Gillette Hopkins* カ

五〇九 九月一日

在墨国太田臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛

紐育タイムス紙上ノ米墨同盟論報告ノ件

機密公第二三号

（十月九日接受）

大正五年九月一日

在 墨

臨時代理公使 太田 為吉（印）

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

客月二十三日ノ紐育タイムス新聞カ“Mexico Encourages Japan's Overtures”ナル表題ノ下ニ掲ケタル記事ハ要スルニ墨国及米国内警戒スヘキ対象ヲ日本ニ定メ他日米戰争ノ際墨国ハ日本軍ノ上陸侵入スル場所ナルヘク其運命ハ蓋シ今日ノ白耳義国ニモ劣ルヘキ地位ニ在ルヲ指摘シ米墨兩國ハ今日ニ於テ同盟ヲ形成シテ之ニ備ヘサルヘカラストシ先以テ米国内側ヨリ之ニ関スル提議ヲ為サンコトヲ暗示スルモノナル所在華府「ホプキンス」（機密第二二二号報告ニモ見ユ）該タイムス新聞切抜ニ別紙写ノ書面ヲ添ヘ該記事カ墨国現大蔵大臣ニシテ目下撤兵問題ニ関スル米墨兩國委員會會議ニ委員トシテ差遣サレ居ル「ルイス、カブレラ」氏

ノ使喚ニ出テタルモノナリト華府ニ於テ信セラレ居ル旨通信シ来リ尚ホ右切抜紙片ニ於テ該記事ニ “This statement was made yesterday by a Canadian who has lived in Mexico for sixteen years” 云々トアル加奈陀人トハ加奈陀人タル新聞記者ナル旨ヲモ書添ヘ来リ候蓋シ「カブレラ」氏ハ「カランサ」政府部内ニ於ケル親米派ノ第一人トシテ米國資本ノ力ヲ借ル外墨國ノ財政ヲ救済スル能ハスト信シ居ルモノニシテ今回米國ニ於テ開催セラルヘキ米墨會議ノ墨國側首席委員ナルト共ニ予メ會議ニ先チ米國社会ノ墨國ニ對スル感情ヲ和ケ置ク必要上右ノ如キ米人ニ耳寄リナル記事ヲ掲ケシメタルカ又ハ該會議ノ議事範圍ハ前顯客月三十日附機密第二二号所報ノ如ク自然財政經濟ノ問題ニモ及フヘキ傾向アルカ故ニ之ニ利用センカ為メ特ニ米國多數ノ資本家ニ縁故アル「タイムス」紙ヲ択ヒ之ヲ掲ケシメタルモノナルヘシト想像スルハ強チ理由ナシトセサルモ該記事カ果シテ「ホプキンス」ノ言フ如ク「カブレラ」蔵相ノ尺金ニ基キタルモノナルヤ否ヤハ未タ容易ニ判定スルヲ得ス却テ本官ハ今ヨリ二ヶ月前或ル場所ニ於テ邂逅セル加奈陀人ニシテ紐育「タイムス」通信員ナリト称セ

シ一人カ本官ノ如何ナル人物ナルヤヲ知悉セスシテ日米ノ衝突ハ遂ニ避クヘカラサルコト、兩國開戦ノ際日本カ先ツ以テ軍隊ヲ上陸セシムヘキハ墨國低加州ナルヘキコト等ヲ自問自答ニ喋々シ在墨英國代理公使「ホーラー」氏モ同意見ナリト語リタルコト並ニ自己ハ既ニ十六年間墨國ニ居住シ居ルカ故ニ國內政治上ノ潮勢ハ略ホ之ヲ窺知スルヲ得ヘシト放言シ居リタルコトヲ追想シ且ツ右「タイムス」記事ノ内容ト彼ノ言説ヲ對照シテ該記事ノ筆者ハ右ノ加奈陀人タルコト略ホ推測スルヲ得ルト同時ニ該記事カ何人カノ説ニ感応セル結果ナリトセハ其説ハ寧ロ「ホーラー」氏ノ有スルモノニアラサルカヲ疑ハシムル次第ニ有之候、蓋シ「ホーラー」氏ハ本年六月三十日附機密第一七号ニ於テモ貴聞ニ達シタル如ク随分首肯シ難キ举措モ敢テ意トセサル人物ニモ有之且ツ英國ノ墨國ニ對スル關係ヨリ考フルモ英國ハ米國ノ「モンロー」主義ヲ承認シ同國ヲシテ自國民カ墨國內ニ注入セル資本及ヒ其事業ヲ保護セシムルカ若クハ米墨ノ國境ヲ撤シ之ヲシテ米國ニ於ケルト同様ノ保護及ヒ安全ヲ得セシメント希望セルハ当然ニシテ米墨間ノ不和ハ戰時平時ヲ問ハス同國ノ喜ハサル所ナルヘキカ故ニ右ノ如

キ推測ヲ下スモ必ラスシモ無稽ノ揣摩ニアラサルヘク昨年（確カ昨年ト記憶ス）「ノースリッフ」卿カ紐育「アメリカン」ノ通信員ニ向テ日米關係ノ危險ヲ暗示シ米國ノ軍備熱ヲ煽リ立テタルコト等アルニ鑑ミルモ英國官民カ其米國ニ對スル關係ニ於テハ日本ノ利害ヲ無視シ甚タシキハ我ヲ咀フノ輕拳ニ出スルコトアルモ往々之ヲ聞知スル所ナレハナリ而シテ右新聞記事ノ内容トセル米墨同盟ニ関シ「ホプキンス」ハ “one of the most absurd propositions imaginable” ナリトテ一笑ニ付シ居ル次第ニ有之候得共、

一、近時米國民論ノ大勢力「モンロー」主義ノ内容充実ヲ必要トスルト共ニ漸次其政治的勢力ヲ中米及南米一部ニ固メントスルニ傾キ居ルコト、二、從テ共和黨ハ勿論「ボラー」氏一派ノ守旧的政治家ハ別トスルモ）民主党ニ於テモ此ノ方面ニ於テ保護國ヲ作ルハ賛成セル所ニシテ現民主黨政府カ「ニカラグア」運河條約（同條約ヨリ「ブラット、アmendメント」ヲ取除キタルモ内容ハ依然一種ノ保護條約ニシテ最近歐洲各國カ「ニカラグア」國ニ對シテ有スル債權取立ニ関シ米國ニ商議ヲ持掛ケタルヲ伝フルカ如キ自然ノ結果ナリ）「ハイチ」國保護條約ヲ締結シタルガ

如キ之ヲ証スルコト、三、米人カ目下自國ノ軍備上ニ欠陥アルヲ自覺セル為メ甚タ數疑心暗鬼ノ狀態ニ陥リ（最近「セント・トーマス」島買入事件）特ニ日本ニ関シテハ一層神經過敏ニ成リ居ルコト、遠ク「マグダレナ」灣事件等ニ溯ラサルモ客月二十日頃ニ生シタル日本人ノ巴奈馬土地買収事件（其他低加州買収ノ議）等既ニ之ヲ証シテ余リアルコト等ヲ綜合シテ考フルトキハ該新聞記事ノ如キハ米人ヲシテ直ニ同盟ニ付キ考量ヲ費サシムルニ至ラサル迄モ同國一般社会ノ大ニ注意ヲ惹キタル所ナルハ想像ニ難カラサルト共ニ其起源カ墨國側ニアルト將又其以外ニ例ヘハ独逸ノ好策ニ發シタルト否トヲ問ハス我ニ於テ大ニ注意ヲ要スル事項ナルハ勿論又仮リニ「ホプキンス」ノ云フ如ク墨國政府当局ノ使喚ニ出テタルモノトセンカ当國政府ノ對日感情カ多少動揺スルナキヲ保セサル今日我ニ於テハ益其注意ヲ怠ルヘカラサルモノアルカ如ク被感候

右及御報告候 敬具

追テ「ホプキンス」ハ以前當憲政軍政府ト關係ヲ有シ中程意見ノ衝突ヨリ絶縁シタルモノナル処近来再ヒ現政府ニ思ヲ寄せ出シ或ハ本官ヲ通シテ其目的到達ヲ計ラント

スルヤノ意アル如ク時々其意ヲ諷シタル書面ヲ差越ス側
 ラ本官ニ好意ヲ表シ居リ別紙ノ如キモ多少其傾向ヲ示シ
 居候処元来同氏ハ法律顧問タル外各種ノ画策ニ参与スル
 ニ於テ憲政軍寧ロ「ヴィヤ」派ト密接ノ關係ヲ有セシ
 処「カランサ」ニ向テ一種ノ条約（内容ハ不明ナルモ米國
 トノモノナラン）締結ヲ勧誘セシ為メ「カランサ」政府
 ノ怒ル処トナリ遂ニ其關係ヲ絶チタルモノノ由（此ノ点
 ハ「アギラール」外相本官ニ語ラレタリ）ナル処同氏カ
 其地位ヲ喪ヒタルハ在米墨國大使館現顧問タル華府ノ法
 律家「ドグラス」(Charles A. Douglas) 氏ノ為メナ
 ルカ如ク考ヘ而シテ「ドグラス」氏カ現地位ヲ得タルハ
 全ク「カブレラ」蔵相トノ關係ニヨルカ如クニ考ヘ頻リ
 ニ此ノ兩者ヲ攻撃致シ居候而シテ「カブレラ」氏ノ人物
 及其「ドグラス」氏ト關係シテ種々ノ画策ヲ為シ居ル義
 ニ付テハ「ホプキンス」以外ノモノヨリモ時々聞込ムコ
 ト有之候得共其真偽ハ未タ容易ニ断スルヲ得サル所ナル
 カ「ホプキンス」ハ此ノ二者ヲ排セハ自己カ以前有セシ
 地位ヲ恢復シ得ルモノナルカ如ク考ヘ又本年ノ米國大統
 領選舉ニシテ共和黨ノ勝利ニ帰センカ必ス對墨政策ニ一

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

本月八日当國國務省式部局長ハ執政官「カランサ」將軍ノ
 命ニヨリ翌九日同執政官私宅ニ於ケル午餐ニ本官夫妻及荒
 井書記生夫妻ヲ招待シタキ旨通知シ来リ尚ホ右式部局長「
 アマヤ」氏來館ノ上同様ノ希望ヲ伝ヘタルニヨリ本官等ハ
 右招待ヲ受諾シタルカ該午餐列席者ハ「カランサ」將軍家
 族、副官長、秘書官長及右「アマヤ」氏夫婦ノミニテ一種
 非公式ノモノナリシト共ニ先般本官ノ催セル晚餐會（八月
 十日附公第一〇二号所報）ニ同執政官ノ二令嬢ヲ招待セシ
 返礼ノ意味ナリシモノト信セラレ候得共各国外交官中今日
 迄ニ同執政官ノ招待ヲ受ケタルハ只西國公使アルノミニシ
 テ（同公使招待ハ「チャブルテベック」宮殿ニ於ケル午餐
 ニシテ客月二十八日附公第一一五号所報「プレセーダ」大
 佐西國行ノ一兩日前ナリシカ元来同公使ハ着任早々連日宴
 ヲ張り「カランサ」執政官及其家族ヲ始メ当國國務省各高等
 官並ニ各省大臣等ヲ招待シタルニヨリ其返礼ヲモ兼ねタル
 モノト考ヘラル）前駐墨公使「ルフェーブル」氏ノ如
 キハ嘗テ報告シタル如キ事情アリシトハ云ヘ久シク當國ニ
 在リ且ツ筆頭公使タリシニモ不拘其歸國ニ際シ何等招待モ

大變化アルヘク墨國政府カ其際自己ト關係ヲ有スルハ
 「ボプキンス」ハ共和黨ニシテ現ニ本月ノ「メイン」
 州選舉ニ「ヒュース」氏ノ為メニ同州ニ赴キ大ニ運動ス
 ル由申来リ居リ候）同政府ノ為メニ肝要ナリト意ヲ仄
 カシ居リ候、右様ノ次第ナルヲ以テ同人ヨリノ書面ハ今
 後尚ホ貴覽ニ供スルコトアルモ凡テ一応此ノ御含ヲ以テ
 御閱讀相成度候、為念申添候

尚ホ本文中ノ新聞記事ニ付テハ既ニ在米公館ヨリ報告済
 ト存候得共便宜右「ホプキンス」ヨリ差越シタルモノ及
 添付候

本信写送付先

在米 臨時代理大使

註 附屬書省略

五一〇 九月十一日 在墨國太田臨時代理公使ヨリ
 石井外務大臣宛

カランサ執政官私邸午餐會ニ関シ報告ノ件

機密公第二五号 (十月十九日接受)

大正五年九月十一日

在墨 臨時代理公使 太田 為吉 (印)

受ケサリシカ如キ事實アルニ比較シ考フルトキハ今回本官
 等カ特ニ招待ヲ受ケタルハ前頭ノ如ク私的社交上ノモノナ
 リシトハ云ヘ先方ニ於テハ當國現下ノ時局上多少ノ意味ヲ
 遇シタルモノニアラサルカトモ被思考候換言セハ目下米國
 ニ於ケル米墨兩國委員會議ニ付テハ當國內ニ於テ反對意見
 ヲ有スルモノ不尠既ニ数日前モ「バプロ、ゴンサレス」將軍
 ノ幕下ニシテ米國「テキサス」州獨立秘密結社ノ運動ニ關係
 アリト称スル「ヘネラル、フィエロス」(General Fierros)
 ナル軍人、或ル事ニ托シテ本官ヲ來訪シ「カランサ」執政
 官ハ右運動ノ継続ハ目下不得策ナリトノ意見ヲ有シ之カ中
 止ヲ命シタル為メ自己ハ止ムヲ得ス「モンテレー」市ニ於
 テ保有スル軍隊ヲ他手ニ委シテ首府ニ移転居住スル積リナ
 ルモ「カランサ」執政官ノ意見ニハ全然反對ナルモノニシ
 テ米墨會議ニ出席スル委員中ニモ「ボニアス」氏以外ノモ
 ノハ皆一種ノ売國奴ナルト共ニ其會議ノ結果ハ誠ニ寒心ス
 ヘキモノアラントテ大ニ慨歎シ該會議ノ結果如何ニ不拘墨
 國ノ日本ヲ信賴スル情ハ何等變化ナキ旨ヲ語リ（或ハ政府
 ノ廻シ者ナランカトモ考ヘタリ）居タルカ如キ又、或ハ
 「サパタ」一派ノ徒党カ該會議ヲ攻撃シ「カランサ」將軍

ハ遂ニ國ヲ売ルモノナリトノ檄文ヲ配布シ（本官ノ処ニモ何者カ「サパタ」自身ノ署名セル右檄文ヲ置キ去リタリ）居ルモノアリ排米思想ヲ有スル墨人ハ該會議ノ成立ヲ慷慨シ又現政府ニ対スル反对者ハ之ヲ好機會トシテ民衆ヲ煽動セントスル傾向アルカ故ニ假令彼等ノ勢力ハ會議ノ結果カ大ニ國民ノ愛國心ヲ刺激セサル限リ大ヲ致スニ至ラストスルモ政府者トシテハ決シテ輕視スヘキ問題ニアラサルヲ以テ之等不平ノ徒ヲ慰籍懷柔スル傍ラ一般社会ニ対シ日墨關係ノ親善ハ米墨會議ノ為メニ何等影響ヲ受クルモノニアラザルヲ表示スル一策（勿論該午餐ノ記事ハ翌朝ノ各新聞第一面ニ掲載セシメ居レリ為念「ボエブラ」新聞切抜ヲ別紙トシテ添付ス）トシテ企テラレタルモノニアラサルカト思ハル節有之候

右為御參考及報告候 敬具

写送附先 在米臨時代理大使

註 別紙新聞切抜省略

五一 九月二十一日

在墨國太田臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛

ロメロ公使ノ待遇振及本邦ノ對墨態度ニ関シ

ヲ懷クニ至ルカ如キ素振リヲ示サルル必要ハ毫モ存在セサルヘシ元來墨國ハ日本ニ対シテ從來限リ無キ同情ト好意トヲコソ有シタレ未タ日本ニ害ヲ与ヘタルコト無シ然ルニ日本政府ノ墨國ニ対スル仕打ハ恰モ惡意ヲ以テ之ニ酬ヒラルルモノニ非サヤトノ疑ヲ生セシムルモノアリト述ヘ來リ頗ル激昂セル態ナリシニヨリ本官ハ聊カ事ノ意外ナルト且ツ事態ノ重キニ鑑ミ何等之ニ意見ヲ付スルヲ得サルモ「ロメロ」氏ヨリ報告アリタル事カ事件ノ原因ナルヘシ併シ只今承リタル丈ケニシテハ事体一向腑ニ落チサルハ勿論見当スラ立チ難キニヨリ差支ナクハ其報告ノ内容又ハ具體的ノ事實ヲ聞カシメラレタシ場合ニヨリテハ本官ヨリ我政府ニ事情ヲ問合セ双方ニ誤解ナキ様致シ度シト語リタルニ外相ハ

具體的ノ事實トシテ別ニ數ヘ挙クルコトハ無カラシモ右ハ「ロメロ」氏カ貴國外務大臣ニ面会シ得タル感想ナルカ如シ尤モ同氏ハ当方ノ回訓ニ対シ更ニ回答ヲ差越シ日本國民全般トシテハ墨國ニ同情ヲ有スルカ如ク又政府部内ニ於テモ例ヘハ陸軍省ノ如キハ外務省ト其態度ヲ異ニシ先般武器ヲ輸出セントシタル際ニ於テモ同省ハ差支ナ

墨國外相談話ノ件

機密公第二七号

（十月十八日接受）

大正五年九月二十一日

在 墨

臨時代理公使 太 田 為 吉（印）

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

本月二十日所用ヲ以テ國務省ニ至リ用済ノ後大臣室ニ立寄りタル処「アギラール」外相ハ雜談ノ中途急ニ話題ヲ本邦ニ於ケル「ロメロ」公使ノ待遇振リ及我政府ノ對墨態度ニ移シ

先般「ロメロ」氏ヨリ同氏カ満足ノ待遇ヲ受ケ居ラサルコト及ヒ日本外務省ハ米國ニ遠慮スル結果墨國ヲ蔑視シ甚タシキハ之ヲ侮辱スルト認ムルモ差支ヘナキ態度ヲ示シ居ルニ付日墨親交増進ニ就キテハ頗ル疑ヲ生スルニ至レリト報シ來リ「カランサ」執政長官及自分（外相）ハ日墨親交ニ関スル信念ヲ變セサル為メ「ロメロ」氏ニ対シテハ決シテ失望スヘカラス從來通りノ方針ニヨリ尽力スヘキ様回訓シタル次第ナルモ日本カ墨國ヲ承認シ友邦トシテ國交ヲ繼續セラルル以上墨國使節カ右ノ如キ感想

シト答ヘ居リタルニ不拘愈々積出ノ間際ニ至リ外務省ヨリ故障ヲ唱ヘ出シタルカ如キ其一例ニシテ未タ極端ニ失望スルニハ至ラサルモ米國勢力カ外務省ヲ圧シ居ル以上墨國ニ向テ同省ノ注意ヲ向クルハ到底容易ノコトニアラスト考ヘタルノミナリト云ヒ來リタル次第ナルモ外務大臣カ「ロメロ」ヲ冷遇セラルルコト及ヒ公然墨國ヲ凌辱スル語氣アル宣言ヲ為サルカ如キハ其ノ故ヲ解スルニ苦シムモノニシテ墨國政府ハ日本カ墨國ニ対シテ只「インデフェレント」ノ態度ヲ持セラルルニ止ラハ決シテ其レ以上ヲ要求スルモノニアラサルモ反对ニ墨國ヲ凌辱セラ

ルルカ如キコトアルヲ聞クニ及ンテハ決シテ心平ナルヲ得サルモノナリトテ尚ホ本官ノ反問ニ対シ右ノ宣言ナルモノハ米墨事件ニ関シ日本ハ決シテ墨國ヲ助ケストノ宣言ナルコトヲ答ヘラレタルニヨリ本官ハ一向事實ヲ知ラサルニヨリ何等確言スルヲ得サルモ風俗習慣言語ノ差違ハ往々ニシテ意思ノ疏通ヲ害スルモノナル故ニ「ロメロ」氏ノ受ケタル印象モ如此処ニ起因スルコトナキカ又右宣言ノ如キモ訳文カ其真意ヲ伝ヘ得サリシ点アラサリシカヲ疑フ次第ナリ而シテ又貴大

臣ノ言ハルル通り墨国カ日本ニ好意及同情ヲ有スルハ本官ノ充分信シテ疑ハサル処ナルモ遠ク隔リタル日本ヨリ見レハ自ラ事情ノ通セサルコトモアリ例ヘハ先月二十日頃紐育「タイムス」新聞ニ掲ケタル米墨同盟論ノ如キハ筆者ト墨国政府当局トノ關係上其説ハ墨国政府ノ意思ヲ或程度迄代表セルモノトノ冒頭ヲ置キ日本ヲ米墨共同ノ敵トシテ盛ニ兩國共同防禦ノ意見ヲ鼓吹シ居タルカ如キ日本ヨリ見レハ随分不快ノ感ヲ起スヘキ事柄ナルモ吾人ノ着目スヘキハ如此区々タル一時ノ現象ニアラス宜シク國勢ノ大局ヨリ打算シテ行動ヲ苟クモセサルニアリ而シテ此点ヨリ考フレハ石井大臣ノ宣言ナルモノハ本官其ノ事實ヲ知ラサルモ專ラ日本ノ立場ヲ明ニセルモノニシテ米墨間ノ紛争ニ立チ入ルハ我國ノ国是ニ非サルヲ声明セルモノナルヘク果シテ然ラハ日本ハ之ヨリ多クモ少クモ言フヲ得サルハ当然ニシテ之ヲ目シテ直ニ墨国ヲ凌辱セリト云ハルル如キハ本官ノ解スルヲ得サル処ナリ尤モ貴大臣ニ於テ差支ナクハ本日ノ会谈ヲ日本ニ報告シテ詳細ナル事情ヲ問合ハスモ差支ナシト述ヘタルニ外ハ

否、本日ノ会谈ハ平常懇意ナル間柄ヲ利用シ貴官ノミノ

ランモ不必要ナルニ墨国政府ノ感触ヲ害セラルルカ如キ態度ヲ示サルルハ甚タ心得サルコトニシテ前説武器輸出禁止ノ如キニ於テモ米墨ニ遠慮ノ結果ナランモ外務当局カ商人ノ取引ニ迄干涉シ殊更ラ墨国ヲ苦シメラルルカ如キハ如何ニスルモ其意ヲ解スルニ苦ム

ト附言セラレタルカ全般ノ事情ヨリ考察スルニ右「ロメロ」氏報告ナルモノハ最近ニ着シタルモノニ非ス從テ外相ハ以前ヨリ本官ト会合ノ機会ヲ待チ多少準備シ居ラレタルモノノ如ク嘗テ予想タモセサリシ本官トシテハ事ノ意外ナルニ聊カ当惑シタル処ニシテ前頭本官ノ陳弁ノ如キモ先方ノ不平ヲ解クニ何等ノ効果アリシト認ムルヲ得ス且ツ外相隨テ語レリ從テ神氣昂上スルモノノ如ク何等適當ノ材料ヲ有セサル本官ニ於テ永ク之ト抗争スルハ甚タ利ナラサルヲ認メタルニヨリ時機ヲ見テ外相カ悵懷本官ニ内意ヲ語ラレタル好意ヲ謝シ其場ヲ辞シタル次第ナルカ右ニ関シ何等心当リノ事情モ有之候得ハ本官心得迄ニ一応承知セシメラレ度又本件ハ前頭ノ通り表面上本官ノミノ参考ニ止メ置クコトト相成居候得共本官力之ヲ本国ニ報告セサルモノトハ外相ニ於テモ予期セサル処ニシテ只該報告ノ結果カ「ロメ

参考ニ不平ヲ列ヘタル迄ニシテ日本ニ報告セラルル必要ヲ認メス又「カランサ」執政官始メ自分ハ此レカ為メ日本ニ對スル好意ヲ變スル如キコト無ク貴官ニ對スル待遇ノ如キモ之ヲ以テ二三スルカ如キコト決シテ無之モ無責任ナル新聞記事ト堂々タル一国外務大臣ノ宣言トハ輕重自ラ差違アリ又仮リニ貴官カ墨国政府当局者ヨリ目下「ロメロ」カ貴國ニ於テ受ケ居ル如キ待遇ヲ受ケラレタリト假定セハ貴官ハ勿論貴國政府ニ於テモ決シテ愉快ニ感セラルルコト無カルヘシ

ト語り尚ホ語ヲ継キテ

先般元大陸殖民会社墨国出張員ニシテ目下帰國中ノ小野寺寿雄ナル日本人ヨリ墨国ニ日本移民ヲ入ルル計畫書ヲ提出シタル際「カランサ」執政官ハ既ニ「ロメロ」ヨリ前頭ノ報告ヲ受ケタル後ニテ日本政府現時ノ態度ヲ承知セル際ナリシモ何等之ニヨリテ対日好意ヲ變シタル様子モ無ク日本移民ナルニ於テハ入國ノ際ノミ普通ノ規則ヲ適用スル外其余ハ總テ無制限ニ入國セシメテ可ナリト回答セシメタル如キ事實モアリ墨国政府ノ日本ニ對スル同情ハ日本政府現時ノ態度ニヨリ變更スルカ如キコト無カ

ロ」公使ノ不利益ニ向フ結果ヲ生スルコトナキヤヲ憂慮セラレタルモノト思考セラレ候ニ付キ先方ノ不平ニ對シ何等開陳スヘキ点モ有之候ヘハ時機ヲ見テ左様取計度候間何分ノ義御回示相成度將又外相ノ申分ニシテ多少タリトモ根拠アルモノニ有之候得ハ本官等カ當國ニ於テ受ケ居ル好遇ニ鑑ミ「ロメロ」氏ニ与ヘ居ラルル待遇振及對墨態度ハ表面丈ケナリトモ多少ノ手加減ヲ加ヘラレ候様切望ニ不堪候尤モ我政府ニ於テ「ロメロ」氏自身ノ駐劄ヲ好マレサル特別ノ事情モ有之候得ハ其召還ヲ為サシムルニ付多少工夫ノ余地モ存スル様思考致候間是亦何分ノ儀御申聞相成度候而シテ本報告ノ為メ「ロメロ」公使ノ待遇振ニ惡影響ヲ及ホスカ如キ事有之候テハ本官ノ當國ニ於ケル立場ニモ大影響ヲ及ホスヘク候ニ付此点ハ充分御含ミ置相成度右及稟報候

敬具

本信写送付先 在米大使館

五一 九月二十八日

在墨国太田臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛

墨国ノ憲法制定議會召集令ニ関シ報告ノ件

公第一三五号

(十一月六日接受)

在 墨

臨時代理公使 太 田 為 吉 (印)

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

「カランサ」政府ハ客年十二月日本及各国ノ承認ヲ得テヨリ、爾來専ラ国内平定ノ業ニ努力セル処漸次成功ノ途ニ就ケルモノノ如ク、今ヤ其配下ニ属セザルモノハ北方「チワワ」州ト「ソノラ」州トノ間ニ蝟ル「シェラ、マードレ」ノ山間ニ伏在スル「ヴィヤ」匪賊ト南方「モレロス」州ニ残存スル「サバタ」賊アルノミトナリタレバ、「カランサ」執政長官ハ共和国大統領選挙ノ第一着トシテ本月三日共和国内各州ヲ通ジテ市町村長ノ選挙ヲ行ハシメ(首府及其附近ノ地タル聯邦区即チ中央政府ノ直轄区ニ於テハ例外トシテ市町村長ハ当分聯邦区知事ノ任命スル所トナシ、其選挙ハ来ル十二月三日即チ同月第一日曜日ニ執行スルコトセリ)超エテ同十九日ニ到リ更ニ令ヲ発シテ本年十二月一日ヲ以テ憲法制定議會 (Congreso constituyente 下称シ仏国革命當時ニ開カレタルモノト其性質ヲ同フス)ヲ「ケレタロ」州首府「ケレタロ」市ニ召集スルコトトシ又同日附ヲ以テ其會議員選挙ニ対スル選挙法ヲ発シ来ル十月

二十二日ヲ以テ総選挙ヲ行ハシムルコトトセリ、尚ホ過日「カランサ」長官ガ其午餐ノ席ニ於テ本官ニ直話セラレタル所ニ拠レバ同長官ハ該議會開会ト同時ニ当府ヲ去リテ「ケレタロ」市ニ赴カルル予定ナルガ斯ハ同長官親ラ該議會ノ開会式ニ出席シ之ニ向ツテ彼ガ千九百十三年中「マデロ」大統領ノ横死後憲政軍首領トシテ「ウエルタ」政府ニ反旗ヲ掲ゲテヨリ以降、来ル十二月一日即チ憲法制定議會ノ開会日ニ到ル迄ノ期間ニ於テ現政府ガ発布シタル憲法關係諸法令ト共ニ憲法ノ改正案ヲ之ニ提出シ其改正ノ理由ヲ説明スル為メニシテ其際ハ政府首脳部分モ「ケレタロ」市ニ一時移転スルモノト觀察セララル

今左ニ憲法制定議會召集令ノ要領ヲ摘記スベシ、
一、聯邦区 "Distrito Federal" 聯邦領 "Territorios" 及各州 "Estados" ハ人口七万人ニ対シ會議員及其補欠員各一人ヲ選挙スベシ、七万人ニ足ラザル分数ニ対シテモ亦同ジ、
一、憲法制定議會ノ議員タルヲ得ザルモノハ千八百五十七年ノ憲法ノ定ムル所ノ外、憲政軍ニ対シテ武器ヲ把リタル者又憲政軍ニ反対スル政府ニ仕ヘタル者トス、

(此ノ末項ハ市町村長ノ選挙ノ場合ニ於テモ同様ナリシガ、不少世人ノ注意ヲ惹キタル所ナリトス)

一、議會開会ノ準備整ヒタル上ハ執政長官ハ議會ニ向ツテ憲法改正案ヲ提出シ同時ニ從來執政長官トシテ議會開会日迄ニ発布シタル關係法令及改正ノ理由ヲ演説スベシ、
一、議會ガ改正案ヲ討議協賛シタル後ハ各議員コレニ署名シ且ツ特別会ヲ催フシ、各自、新憲法ヲ遵奉スル旨ヲ誓フベシ、

一、次ニ議會ハ特定ノ日時ニ特別会ヲ開キ執政長官ノ出席ヲ促シ、之ヲシテ憲法ヲ遵奉スルコトヲ宣誓セシメタル上同憲法ヲ同長官ニ交附シ、之ヲ発布セシムルモノトス、

一、憲法制定議會ハ憲法改正案ヲ討議スル外他ノ事件ニ執掌スルコト能ハザルモノトス、

一、議會開会ノ期間ハ二ヶ月ヲ超過スルコトヲ得ズ、
一、會議事項終了後ハ直ニ執政長官ヲシテ該憲法ノ規定ニ從ヒ、共和国全般ニ亘リ、大統領、大審院判事、及兩院議員ノ選挙ヲ令セシム、爰ニ於テ憲法制定議會ハ直ニ解散スルモノトス、

一、通常代議士選挙ハ執行セラレ、議會ノ召集セラルニ至ルヤ、執政長官ハ之ニ臨ミ、其長官タリシ間、執り来リタル行政上ノ報告ヲナシ、新ニ選挙セラレタル共和国大統領ニ其執政權ヲ引キ継グモノトス
一、憲法改正議會ノ議員ノ日給ハ六十弗ニシテ、旅費日当ハ別ニ之ヲ支給ス
右及報告候 敬具

本信ヲ發送先 在米大使館

五一三 十月四日 在墨國太田臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛

大統領任期短縮及副大統領制廃止其他憲法条
項改正ニ関シ報告ノ件

公第一四一号 (十一月十五日接受)

大正五年十月四日

在 墨

臨時代理公使 太 田 為 吉 (印)
外務大臣子爵 石井菊次郎殿

当國憲法議會召集ニ関シテハ客月二十八日附公第一三五号拙信ヲ以テ及報告置候処「カランサ」執政官ハ又九月二十九

日附ヲ以テ大統領任期ノ短縮副大統領制其他右ニ関スル憲法ノ条項即チ同法第七十八條七十九條八十條八十一條八十二條八十三條及第八十四條ヲ左記ノ如ク改正致候

第七十八條 大統領ハ十二月一日ニ就職シ四年間其職ニ在リテ其後ハ再ビ大統領ニ選挙セラルルコト能ハザルモノトス

大統領ノ全ク欠ケ居ル場合ニ於テ之ヲ補欠スル為メ其職ニ就ケル者ハ次期ノ大統領ニ選挙セラルルコト能ハザルモノトス

大統領ノ一時欠ケタル場合ニ於テ之ヲ補欠スル為メ仮大統領トシテ任命セラレタル者ニシテ次期ノ大統領選挙執行ニ際シ其職ニ在ル者ハ該期ノ大統領ニ選挙セラルルコト能ハザルモノトス

本来当国大統領ノ任期ハ四ケ年ナリシガ千九百十年「デイヤス」大統領ガ最後ノ就職ト共ニ之ヲ六ケ年ト改メタルヲ「カランサ」氏ハ今回之ヲ復旧シテ四ケ年トナシタリ

大統領ノ再選ハ旧憲法ノ認ムル所ナレドモ「デイヤス」大統領ガ三十有余年間継続大統領ニ選挙セラレ宛

本法第七十七條ガ規定スル大統領タリ得ベキ者ノ資格ト同等ノ資格ヲ有スル者ヲ副大統領ニ選挙スベシ

副大統領ハ当然上院議長タルベキモノトス上院議長ハ発言権ヲ有スルモ投票権ヲ有セザルモノトス但シ投票ノ同数ナル場合ハ是ノ限りニアラズ副大統領ハ大統領ノ任命ニヨル他ノ職ニ就クコトヲ得ベシ是ノ場合ニ於テハ副大統領ノ欠ケタル他ノ場合ト同ジク当該法規ノ定ムル所ニヨリ上院議長ノ席ハ他人之ヲ継襲ス

第八十條 共和国大統領ガ議會ノ開会中ニ全然欠ケタル場合ニハ議會ハ直ニ選挙場トナリ選挙ヲ行フベシ但シ此ノ場合ニハ少クトモ全議員ノ三分ノ二以上ノ出席アルヲ要シ秘密選挙ヲ行ヒ大多數ヲ得タル者ヲ任命シ残余ノ任期中其欠乏ヲ補ハシム

若シ大統領ノ欠乏ガ議會ノ閉会中ニ起リタル場合ニハ留守委員會ハ仮大統領ヲ指命シ議會開会ノ上ニ是ニ関スル選挙ノ行ハル迄大統領ノ職務ヲ執行セシム

「カランサ」氏ノ意見ニ於テハ議員ハ国民ノ代表者ナルヲ以テ大統領ノ欠ケタル場合ニ全国ヲ通ジテ非常選挙ヲ行フノ煩ヲ避クル為メ議會ニ於テ其選挙ヲ行ヒ当

然帝王ノ如キモノアリタルニ憤慨シテ起リタル千九百十年ノ革命者故「マデロ」大統領ハ当時既ニ再選ヲ廃止セントセシモ目的ヲ達スルニ到ラズシテ横死セルガ「カランサ」執政官ハ其精神ヲ襲踏シテ今回本条第一項ニ於テ大統領任期短縮ト共ニ非再選ヲ規定セリ

尚ホ旧第七十八條ニハ大統領及副大統領云々トアルヲ新条文ニ於テ単ニ大統領ハトナシタルハ副大統領制ヲ廃止セル結果ナリトス蓋シ当国年来ノ政治歴史ハ有力ナル大統領候補者ノ現ハレタル時之レニ對抗シテ其位置ヲ争フ者無ケレトモ副大統領ノ位置ヲ争フ二流ノ政治家極メテ多ク副大統領ノ位置ハ常ニ墨国政界攪乱ノ原因ヲ成スモノニシテ現ニ千九百十三年「マデロ」大統領ノ就職中ニ於テモ副大統領ノ位置ハ「マデロ」氏ノ幕下ノ不和ノ基トナリタレバ「カランサ」氏ハ此ノ点ニ鑑ミ、特ニ副大統領制ヲ廃止セルモノナリ

第七十九條 本条ハ之ヲ削除ス

本条ノ削除ハ副大統領制廃止ノ当然ノ結果ナリト今試ニ旧第七十九條ヲ訳出スレバ左ノ如シ

共和国大統領ヲ選挙スル者ハ又同日同様ノ手續ヲ以テ

選者ヲシテ残余ノ大統領任期中其職務ヲ執行セシムルハ内政上頗ル便宜ナル事ナルノミナラズ国家ノ安寧ヲ維持スル所以ナリト尚ホ旧条文ハ斯ク大統領ノ全然欠ケタル場合ニハ副大統領之ヲ承継スト規定セリ

第八十一條 大統領任期ノ始メニ方リ新大統領ガ就任ノ為メ出頭セザルカ又ハ選挙ガ十二月一日ニ到ルモ執行サレズシテ其結果ヲ知ルヲ得ザル時ハ旧大統領ハ其任期満了ニ方リ其職ヲ去リ議會又ハ留守委員會ノ定ムル者ヲ以テ仮大統領トシテ其職務ヲ代理セシムルモノトス

大統領ノ欠乏ガ一時的ナル時ハ議會又其閉会中ハ留守委員會ハ仮大統領ヲ任命シ欠乏ノ間其職務ヲ執行セシム

旧条文ハ斯ク大統領欠乏ノ場合ニ副大統領之ヲ継グ旨規定シ居リタルモ副大統領制廃止ノ結果右ノ如キ条項ヲ新ニ定ムルノ必要生ジタルモノナリ

第八十二條 共和国大統領ノ職ハ重大ナル理由ニ因リテノミ辞スルヲ得ベキモノトス但シ理由ノ輕重ハ辞表ヲ受ケタル議會之ヲ定ム

旧条文ニハ大統領及副大統領ノ職ハ重大ナル理由ニヨリテノミ辞スルヲ得ベシ云々トアリ然レドモ副大統領

制廃止ノ結果斯クハ新条文ニ共和国大統領ノ辭職ノ場合ノミヲ規定シタルモノナリ

第八十三条 大統領ガ其職ニ就クヤ議會ニ又其期閉會中ニハ留守委員會ニ出席シ左ノ宣誓ヲ為スベシ

「墨西哥共和国ノ憲法及コレヨリ胚胎セル一切ノ法律ヲ遵奉シ又之ヲ遵奉セシメ尚ホ国民ガ余ニ与ヘタル大統領ノ職務ハ唯聯邦ノ善福ト繁榮トノ為メ忠実ニ又愛國のニ之ヲ執行スベシ」ト

本条ハ前条ト同ジク改正ニ方リ副大統領ノ規定ヲ削除セリ

第八十四条 共和国大統領ハ聯邦議會ノ認許ヲ得ズシテ内國領土ヲ離ルル事能ハザルモノトス

本条モ前条ト同ジク副大統領制廃止ノ結果其文字ヲ削除セリ

之ヲ要スルニ本件憲法ノ改正殊ニ大統領任期短縮ノ如キハ表面上尠クトモ將ニ大統領タラントスル「カランサ」氏ガ其個人の野心ニ捕ハレズシテ誠心誠意國家ノ為メニ尽ス愛國的政治家タルヲ表示スルニ効アリタルモノノ如ク大体ニ於テ一般國民ニ對シ良好ナル印象ヲ与ヘタルガ如シ

右及報告候 敬具

本信写送付先 在米大使館

五一四 十月八日

在墨國太田臨時代理公使ヨリ
石井外務大臣宛

カランサ執政官等ヲ宴會ニ招待ニ付報告ノ件

機密公第二九号

(十一月十五日接受)

大正五年十月八日

在墨臨時代理公使 太田 為吉 (印)

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

在米墨國大使「アレドンド」氏ハ本官當地ニ赴任ノ際其知人ニ紹介狀ヲ送り其他旅行上種々便宜ヲ計リ呉レタル人物ニ有之今回「カランサ」執政官ノ招電ニ接シ(多分米墨會議ニ関スル用向ナラン)一週間程滞在ノ予定ニシテ本月一日当府ニ歸來シタルニヨリ一度晚餐ニ招待セント思考シ居リタル処一方ニ於テ「カランサ」執政官ハ從來在當國西國公使及諸威國公使等ノ招待ヲ受ケ此等公使館ノ宴席ニ出席セシコトアルモ本官ハ公使館トシテ其任國主權者又ハ首長ニ招待狀ヲ發スルノ甚タ異例ナルヲ信シタルニヨリ從來催シタル數回ノ宴會ニモ同執政官ヲ招待セサリシ次第ナリシ

カ最近外務省官吏及「カランサ」氏家族ノ口吻等ニ於テ或ハ先方ニ於テ多少本官ノ招待ヲ所望セラルルニアラスヤト推測セラルル廉モ有リタルニヨリ右「アレドンド」氏(氏ハ「カランサ」家ト親戚ノ間柄ナリ)ノ來墨ヲ機トシ本月四日同執政官ニ面會ノ上同七日当館ニ於テ晚餐會ヲ催スコトトシ其招待狀ヲ同執政官ニ發スルモ差支ナキヤヲ尋ネタル処同官ハ果シテ大ニ喜悅ノ狀ヲ示シ喜ンテ之ヲ受諾スヘキモ「アレドンド」氏ノ歸任出發ハ既ニ本月六日朝ニ決定シタル為メ七日ノ晚餐ニハ氏ハ出席スルヲ得サルヘシトノコトナリシニヨリ晚餐ハ一日繰上ケ又「ア」氏ノ出發ハ同執政官ニ於テ六日ノ晚餐終了後ト變更セシムルコトニ取極メ愈同日「カランサ」執政官夫婦、同二令嬢「アレドンド」大使、「アギラール」外相、「オブレゴン」陸相夫婦「アリニヤ」内相其他合計二十名ヲ招待シ滞無ク宴ヲ終了シタルニ「カランサ」氏始メ各來賓非常ノ満足ヲ表シ候、蓋シ之當國憲法議會(公第一三五号所報)ノ開會、続キテハ大統領選舉モ程遠カラサル今日ナルヲ以テ目下自然政界ニ種々ノ暗潮ヲ生シ當國政府トシテハ諸般ノ事柄ニ配意シテ民心ヲ收攬スル必要アル際ナルヲ以テ此ノ際日本トノ親

交ヲ國民ニ知ラシムル側ラ政府部内ニ於テモ各首腦者間互ニ反目セルカ如キコトナキヲ表示スル機會ヲ得ルハ頗ル希望セル所ナルカ故ニシテ外務省ヨリ内密ニ「パプロ、ゴンサレス」將軍(「サパタ」征伐ノ為メ「モレロス」州「クエルナヴァカ」市地方ニ在リ)(或ハ「オブレゴン」將軍ニ對シテ大統領選舉ニ競争スルニ至ラントモ觀察セラレ居レリ)ヲモ招待シ呉ルル様依頼シ來リタルカ如キニ微スルモ略ホ之ヲ察知スルニ足ル(同將軍ハ招待狀ヲ發シタルモ急用出來ノ為メ出席スルヲ得サリキ)而シテ本官ニ於テハ客月二十一日附機密第二七号所報ノ如キ當國政府ノ我ニ對スル不平ヲ知り且「ロメロ」公使ノ如キモ未タ信任狀捧呈ヲ許サレ居ラス當國ニ駐在スル者ノ立場トシテ頗ル調子ノ惡數キ事情モアリタルニヨリ目下ノ場面ヲ濁ス一方法ニ之ヲ利用シタルモノニシテ此ノ点ヨリ見テ相當ノ成功ヲ博シ得タルハ窃ニ満足致シ居ル次第ニ有之候

右及報告候 敬具

追テ席次等ノ報道ニ誤アルモ為念右ニ関スル本月七日ノ新聞切抜一葉添付候也

本信写發送先 在米大使館

註 新聞抜省略

五一五 十月二十六日

在米國佐藤大使ヨリ
寺内兼任外務大臣宛 (電報)

日本人ノヴィーヤ暗殺計画発覺ノ件

第一八五号

墨国 Chihuahua and Juarez 日本人会ヨリ数名ノ日本人米軍ニ頼レン Villa ヲ毒殺セントシテ見出サレ危害一般日本人ノ上ニ及フ且ツ Villa ノ勢力侮ルヘカラス日々 Chihuahua ニ迫リツツアリ同胞ノ生命甚タ危険ニ付善後ノ措置ニ関シ指導ヲ仰ク旨電報アリタルニ付右ニ対シ差当リ何等処置ヲ執ル途ナキモ一同静穩ヲ旨トシ内乱ニ加担シテ外間ノ疑惑ヲ招クカ如キコトナキ様注意スヘク尚ホ今後特ニ日本人ニ対シ危険ヲ加フルノ事実アラハ其事項直ニ通知スヘキ旨返電シ置キタリ

在墨公使ニ転電セリ

五一六 十一月五日

在墨国太田臨時代理公使ヨリ
寺内兼任外務大臣宛

カランサ氏ノ大統領候補承諾ニ関スル件

公第一六五号

(十二月十三日接受)

タラントスルノ野心ナキヲ誓言セシメタルガ超エテ客月二十三日ニ至リ「パプロ、ゴンサレス」將軍ハ公然自邸ニ陸軍大臣「オブレゴン」將軍ヲ始メ憲政軍ノ首領株數十名ヲ招待シ之ニ向ツテ此ノ際國家ノ為メ又革命ノ精神ヲ全フスル為メ挙黨一致ノ態度ヲ以テ一大政黨ヲ組織シ次期ノ大統領選挙ニ際シ「カランサ」氏ヲ大統領候補者ニ立ツルノ至当ナルヲ説キ其贊助ヲ求メタルニ列席者満場一致之ニ賛成ノ意ヲ表セリ

斯クテ翌二十四日ノ夜賛成者一同再ビ「ジョッキー」俱樂部ニ集会シ一大政黨組織ニツキ協議スル所アリ「オブレゴン」將軍ノ発意ニヨリ本黨ヲ自由憲政黨ト称スルコトニ一致シ「マデロ」時代ヨリ革命ノ領袖タリシ「エドワルド、ヘー」氏ヲ其総裁ニ選挙シ且ツ國民ニ向ツテ同黨組織ノ所以及「カランサ」氏ヲ大統領候補者ニ推薦セル理由ヲ宣言スルコトニ決セリ爾來數回黨員ハ同俱樂部ニ集会シ一切ノ協議ヲ遂ゲ終ニ十月二十七日「オブレゴン」及「ゴンサレス」ノ兩將軍ヲ始メ総裁「ヘー」氏文部省普通學務局長「オスナ」氏及弁護士(前外務大臣)「ウルエタ」氏ノ五名同黨ヲ代表シ「カランサ」氏ヲ政庁ニ訪問シ公式ニ同黨

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 五一七

大正五年十一月五日

在墨臨時代理公使 太田 為吉(印)

外務大臣伯爵 寺内正毅殿

当国現憲政軍政府ニ対スル反對者ハ過般來頻リニ憲政軍勲將ノ間ニ内訌アルカノ如ク伝ヘ殊ニ西北部軍團長兼陸軍大臣「アルヴァロ、オブレゴン」將軍ガ「カランサ」將軍ヲ幽閉セリトノ米國ニ於ケル流説ヲ初メ当國ニ於テハ同將軍ト東部軍團長「パプロ、ゴンサレス」將軍トノ間ニ甚ダシキ軋轢ノ存在シ居ルカノ如ク吹聴シ以テ是等諸將ノ間ヲ離隔シ其機ニ乗シ為ス所アラント試ミタルモノノ如シ而シテ彼等ノ間實際斯ル内訌ノアリシヤ否ヤハ今直ニ之ヲ確知スルニ由ナシト雖モ「オブレゴン」及「ゴンサレス」兩將股肱ノ將士ガ各其首將ヲシテ当國大統領タラシメント欲シ此ノ目的ヲ以テ各自相當運動ヲナシタルハ幾分事實ニ近キモノナルト共ニ右ハ今ヤ將ニ其基礎ヲ固フセントシツツアル憲政軍政府ニ取りテハ由々シキ一大事ナルガ故ニ「カランサ」氏ハ此際全ク斯ル禍根ヲ絶ツ必要アリト認メ其最モ信任厚キ現外務大臣「アギラール」將軍ヲシテ私ニ兩者ノ間ニ斡旋セシメ過般兩者ヲ一所ニ会シ兩將軍共ニ此際大統領

ガ同氏ヲ次期ノ大統領候補者ニ推薦セシコトヲ告ゲ其承諾ヲ得タリ

惟フニ右ハ一見八百長ノ觀ナキ能ハズト雖モ「カランサ」氏ノ常ニ憂慮措ク能ハザリシハ憲政軍中勲績赫々タル驍將「オブレゴン」氏ノ動靜ニアリタルガ同將軍ガ斯ク進ンデ同氏ノ候補ヲ贊助スルニ至リタルハ現政府ニ取りテハ洵ニ一大仕合せト云フベク「カランサ」氏ハ之ニヨリテ独リ其大統領タルコトヲ確保シ得タルノミナラズ他方憲政軍政府ニ対スル世間一般ノ疑心ヲ一掃スルヲ得タルモノニシテ「カランサ」政府ノ地盤ハコレニ依リテ一層堅固ノ度ヲ加ヘタルモノト見ルヲ得ルガ如シ

尚ホ大統領選挙ハ本年十二月一日ニ「ケレタロ」州首府「ケレタロ」市ニ開会セラルル憲法議會ガ来年一月中ニ其業務ヲ終リ其結果新憲法ノ發布セラレタル後即チ大正六年二三月頃行ハルモノト思考セラル

此段及報告候 敬具

五一七 十一月六日

在墨国太田臨時代理大使ヨリ
寺内外務大臣宛

墨国チワワ市附近在留日本人ノヴィーヤ暗殺

六〇九

計畫發覺並同市日本人会長ヨリ在留本邦人ノ
保護方願出ノ件

附屬書一

十月二十七日附石川チワワ市日本人会長ヨリ在
墨国日本公使館宛書信写

二

十一月六日附在墨国日本公使館ヨリ石川チワワ
市日本人会長宛返信写

公第一五八号

(十二月八日接受)

大正五年十一月六日

在墨臨時代理公使 太田 為吉(印)

外務大臣伯爵 寺内正毅殿

墨国チワワ市附近在留日本人中数名米軍ノ間諜トナリ「ヴィヤ」ヲ毒殺セント企テ其ノ計畫發覺シタル為メ同人ノ怨ヲ買ヒ其結果同地方在留本邦人ノ生命財産ハ目下非常ナル危険ニ瀕セル趣ヲ以テ在チワワ市日本人会長石川莊一ヨリ別紙甲号写ノ通り願出候ニ付別紙乙号写ノ通り回答致置候間委細右ニテ御承知相成度此段及報告候 敬具

本信写送付先 在米大使

(附屬書一)

甲号十月二十七日附石川チワワ市日本人会長ヨリ在墨国日本公使館宛書信

テ驚キ慄然トシテ恐レ急遽知人ノ家ニ隠レ辛フシテ彼等ノ毒手ヲ免レ得タリ

彙ニ本会ハ「ヴィヤ」日本人ノタメニ毒殺セラレタリ」トノ報各地ノ新聞ニ掲載サレタルヲ見タルモ例ノ捏造説ト推定シテ齒牙ニ掛ケサリシカ其ノ後藤田氏等カ数名ノ日本人ニ對シ米探タラン事ヲ勧誘シタリトノ報ニ接シ且ツ氏等ノ行動頗ル怪シキ事ヲ見茲ニ真偽ヲ明白ナラシムルノ必要ニ迫ラレ居リシ折柄兼ネテ藤田等ノ共謀者トシテ注目サレ居リシ鈴木徳太郎チワワ市ニ来リシヲ好機トシ本会役員会ノ席上ニテ在留同胞ノ苦境ニアル事ヲ述ヘ彼ノ説明ヲ求メシニ毒殺事件ノ真相トシテ彼ノ自白スル所左ノ如シ

一、共謀者藤田小太郎 (宮城県人) 条勉 (同) 佐藤温信

(同) 鈴木徳太郎 (同)

一、藤田ハ米軍墨国ニ入りテヨリ食料品等ヲ売却シ居リシカ佐藤、条ノ兩人カ「ヴィヤ」ニ接近シ得ルヲ利用シテ米軍ノ間諜トナシ共ニ事ヲ謀リシ事

一、鈴木ハ「ヴィヤ」カ屢々交通隠惹スル「サン、ボルハ」ト称スル田舎ニ数年間雜貨店ヲ經營セシ事アリ山道ニ精通スルノ故ヲ以テ道案内ノ任ニ當リシ事

在留本邦人保護方願出ノ件

拜啓貴館益々御多祥之段大賀此ノ事ニ候緒而突然ノ儀ニ候ヘ共北墨ニ住居在留同胞之生命財産ノ危険ナル状態一日ト接迫シ来リシヲ覺エ候間何分御保護ニ預リ度此段陳情書差出申候也

大正五年十月二十七日

在 墨

チワワ市日本人会長 石川 莊一

帝國公使館御中

陳 情 書

九月中旬蜜賊ヴィヤ徒党数百名ヲ率ヒ「チワワ」市ノ北方数十哩ニ当ル「クシビリアツチ」ヲ攻略セシ時同地ニ於テ雜貨商ヲ營ミ居リシ同胞三名數日ヲ経テ「チワワ」市ニ逃亡シ来リ本会ニ陳情スル所ニ依レハ「ヴィヤ」該地方ヲ占領セシ折部下ニ命令ヲ發シテ曰ク「或ル数名ノ日本人米軍ノ間諜トナリ巧ニ我ヲ欺キテ接近シ毒害セント謀リテ之ヲ我ニ与ヘ逃亡セリ而シテ總テノ日本人モ彼等ノ同類ナレハ此等ノ仇敵ニ復讐セヨ日本人ヲ見当リ次第銃殺スヘシ」ト親懇ノ墨人ヨリ之ヲ聞知シタル前記三名ノ同胞ハ愕然トシ

一、条、佐藤ノ兩人ハ「ヴィヤ」トノ旧交ト信用ヲ以テ常ニ彼ノ身辺ヲ去ラス密ニ「ヴィヤ」ノ挙動ヲ詳細ニ藤田等ニ報知シ更ニ米軍ニ通知セリ

一、「ヴィヤ」「ヒメネス」ヲ攻略シ「バラール」ニ赴ク途中或ル農園ニ休憩セシ際「ヴィヤ」ノ求メニ応シ条ハ此ノ好機ヲ逸セス「コーヒー」ニ毒藥ヲ混合シテ「ヴィヤ」ニ与ヘ逃亡シタリ

一、兩人ハ數日ヲ経テ米軍司令部ニ到着シテ之ヲ報告スルト同時ニ米軍ハ他ノ間諜ヲ以テ其ノ結果ヲ探知セシメシニ「ヴィヤ」ノ健在ト農園主ノ毒死ヲ知り得タリ

一、藤田、条、鈴木ハ目下「エルパソ」ニ佐藤ハ「シカゴ」ニ滞在中

右ノ自白ハ鈴木カ彼ノ友人ニ洩ラシタル秘密ト差ナク亦墨人間ニ伝ハレル毒殺説ト符合シ殆ト信ヲ措クニ足り彼ノ頑冥獐猛ナル「ヴィヤ」ヲシテ一般ノ日本人ヲ慘殺セントスル念ヲ起サシメタル動機原因ニハ非サルヤト思惟シ、在チワワ市及附近ノ日本人ハ恟々トシテナス所ヲ知ラス、殊ニ近來「ヴィヤ」ノ勢力頓ニ増加シ日々チワワ市ニ接近シツツアリ何時交戦ノ巷トナルヤモ計リ知レス、万一官軍ニ

シテ一朝敗北退却センカ在留同胞ノ生命ハ誰ニ向ッテ其ノ安全ヲ求ムル可キコレ本会力貴館ニ向ッテ陳情ノ迅速適確ノ方法ヲ以テ同胞ノ保護救助ノ途ヲ尽サレン事ヲ伏テ懇願スル事如斯候也

(附屬書二)

乙号写

十一月六日附在墨国日本公使館ヨリ石川チワワ市日本人会長宛

返信

在留本邦人保護方ニ関シ回答ノ件

大正五年十一月十六日

在墨 日本公使館

在チワワ市日本人会長

石川莊一殿

客月二十七日附書面ヲ以テ貴地在留日本人保護方ニ関シ御申越ノ趣了承本件ニ関シテハ客月十七日附ヲ以テ在貴地石田喜一郎ナル者ヨリ申出ノ次第有之候ニ付其當時即チ同月二十六日当国外務大臣ヲ訪問ノ上出来得ル限り貴地方在留邦人ニ向テ保護ヲ与ヘラレンコトヲ依頼シタル処同大臣ハ早速同地知事其他ノ官憲ヘ右保護方電訓スヘキ旨相答ヘラレ候間左様御承知相成度將又斯カル内乱中ニアリテハ何レ

回訓ノ件

政機密送第九号

本件ニ関シ去九月二十一日附機密公第二七号貴信ヲ以テ御来示ノ趣了承当方ニ於テハ貴任国外務大臣開陳ノ如ク墨国並ニ在本邦墨国公使「ロメロ」氏ニ対シ待遇上何等不満ヲ抱カシメタルカ如キ事情全然心当リ無之候尤モ貴信第一段武器輸出ニ関スル件ハ當時關係者ニ於テ多少計畫スル所アリシモ帝國政府ニ於テハ武器供給ハ連合国側ニ対シテ全力ヲ挙クルノ必要ニ顧ミ自然他国ニ対シテハ之ヲ承認又ハ獎勵スルノ地位ニ在ラサルモノト認メタル為右ノ計畫ハ実現スルニ至ラサリシ次第ニテ墨国ニ対シテ特ニ之ヲ輸出ヲ差止メタル儀ニハ無之候又貴信第二段ニ所謂公然墨国ヲ凌辱スル語氣アル宣言云々ニ関シテハ貴任国外務大臣ニ於テ果シテ何ヲ指シテ斯ク述ヘタルヤ判断ニ苦シミ候ヘトモ過般米墨事件紛糾ノ當時石井前任大臣ヨリ連合通信社「シャーキー」氏ニ別紙ノ通ノ文言發電方許可シタルコトアリ同人ハ之ヲ米国ニ電報シタル筈ナルニ付該通信カ何等カ附ケ加ヘラレテ貴地方又ハ米国ノ一部ニ伝ハリタルコト可有之哉トモ被察候

ノ党派ニモ与セス常ニ不偏不党中立ノ態度ヲ持スルコト必要ナルニ付此旨一般日本人ニ通達シ相互ニ相戒ムル様充分御注意相成度右ハ既に在米大使ヨリ電示アリタル事ナカラ為念申添候也

五一八 十一月九日

寺内兼任外務大臣ヨリ

在墨国太田臨時代理公使宛(電報)

カランサ政府ノ承認ニ対スル同將軍ノ感謝親

書ニ関シ取調方訓令ノ件

第二四号

曩ニ帝國政府カ「カランザ」政府ヲ事実上ノ政府トシテ承認シタルニ対シ今般「カランザ」將軍ヨリ謝意ヲ表スル親書ヲ送越シタリ然ルニ右同様ノ親書ハ等シク承認ヲ与ヘタル他ノ各国ニ対シテモ夫々發送セラレタルモノト思料セラルル処右親書ニ対シ各国元首ハ更ニ何等カ挨拶ノ親書ヲ發送シタリヤ貴地ニ在ル当該國公使ニ就キ御確メノ上電報アリタシ

五一九 十一月十日

寺内兼任外務大臣ヨリ
在墨国太田臨時代理公使宛

ロメロ公使ノ待遇振及本邦ノ對墨態度ニ関シ

右御含ノ上適當ノ機会アラハ貴官ノ裁量ヲ以テ墨国当局者ニ然ルヘク説明シ置カレ度此段申進候也

(別紙)

石井前外務大臣ヨリ連合通信社「シャーキー」ニ發電方許可ノ文言写

The Japanese nation sincerely hopes that armed conflict may be avoided between the United States and Mexico. Japan's interest in America, North, Central and South, being essentially pacific and commercial, any event bringing disturbance into the American market would be keenly felt in Japan especially at the moment when the whole European trade is practically shut to Japan and then the Chinese market is seriously upset.

五二〇 十一月十日

在米國佐藤大使ヨリ
寺内兼任外務大臣宛(電報)

カランサ將軍ノ親書ニ対スル各國ノ挨拶振ニ

関シ回電ノ件

附記 カランサ政府承認問題ニ関スル調書

第一九二号

在墨代理公使ヨリ貴大臣宛

第四八号

貴電第二四号ニ関シ先ツ夫レトナク外務省ニ就キ探リタルニ親書ヲ送リタル先ハ主トシテ当国ヨリ既ニ公使ヲ派遣シ信任状捧呈ヲ済シタル諸国即チ日仏西独伯刺西爾「アルゼンチン」及支那ナルモ仏、西、「ア」ノ公使ハ共ニ挨拶書ハ未タ来ラサル旨答ヘタリ伯国公使ハ未着支那代理公使ハ不在ニテ知ルヲ得ス

(附記)

墨国「カランザ」政府承認問題ニ関スル件

(大正五年十一月二十四日政務局調)

本年当初ニ於テハ會議派憲政軍派間ノ争鬭甚シク首都ハ争奪目標トナリ何レカ最後ニ優勝シ地歩ヲ占ムヘキヤ殆ト逆睹シ得サリシ処四月中旬「セラヤ」ノ会戦ニ依リ漸ク勝敗ノ数定マリ會議派「ウィヤー」ノ敗退ニ反シ憲政軍主將「カランザ」ノ勢力ハ頓ニ強大トナレリ然レ共墨国到处ノ秩序ハ一朝ニシテ回復スルノ見込ナク在留外国人ノ生命財産ノ確保ハ望ミ得ヘカラサリシヲ以テ六月四日米国大統領

ハ墨国革命各派首領ニ書ヲ寄セ平和勸告ヲ為シタルモ些ノ効果ナク八月五日ヲ以テ米国國務長官カ南中米諸共和国即チ伯刺西爾、亜爾然丁、智利、「ポリビヤ」、「ウルゲー」、「グァーテマラ」大公使ト非公式ニ会見シ遂ニ各派首領宛新妥協勸告ヲ為スニ至レリ然ルニ「ヴィヤ」「サバタ」兩將軍ハ此ノ勸告ヲ容レ協商ニ応スルノ意ヲ表明シタルモ「カランザ」將軍ハ米国カ墨国内事ニ容喙スルノ先例ヲ開カンコトヲ惧ルト称シ其ノ提議ヲ峻拒シタリ超エテ九月中旬ニ至リ前示全米會議ハ到底前提議ノ貫徹ナルヲ認メ一方「カランザ」政府ノ勢力愈々昂ルヲ見之レヲ事実上 (De facto) ノ政府トシテ承認スルノ止ムナキニ至リ十月十日該會議ハ右政府承認方ヲ各本国政府ニ勸告スルコトニ決シタリ而シテ十月十九日米国、亜爾然丁、伯刺西爾、智利、「ポリビヤ」、「ウルゲー」、「グァーテマラ」、「コロンビヤ」、「ニカラガ」ハ右承認ヲ了シタル旨珍田在米大使ヨリ報告アリ又在墨本邦公使館ヨリハ米、亜、伯、「ウルゲー」、「コロンビヤ」、「グァーテマラ」六ヶ国ノ承認ヲ得タル旨公表セラレタル趣來電アリタリ右ニ関シ英國ハ米国ト同一形式ニテ de facto トシテ承認スルニ決シ伊国モ亦同

一態度ニ出ツルコトニ決シ

仏国ハ右承認ト同時ニ仏国政府ハ墨国内乱中ニ蒙リタル仏人ノ損害ニ対スル善後策及将来ニ関シテ相当ノ保障ヲ墨国政府ニ要望セントス但シ承認ノ条件トスルニアラストシ露国モ亦列国ト同一歩調ヲ執ルニ決シタリ帝國政府モ是等諸国ト同様ノ態度ニ出ツヘシ尚墨国政府ノ公報ニ依レハ十一月二十四日迄ニ承認ヲ了シタル国ハ

米、亜爾然丁、伯刺西爾、「ウルゲー」、「コロンビヤ」

「グァーテマラ」智利、瑞典、独逸、玖馬

ノ十ヶ国ナリ

(欄外註記)

『珍田大使ヨリハ「ニカラガ」「ポリビヤ」モ承認ニ決セル旨來電アリタリ』

五二一 十一月十三日 在墨國太田臨時代理公使ヨリ
寺内兼任外務大臣宛

在墨國本邦人保護救助方ニ関スル件

公第一六六号

(十二月十三日接受)

大正五年十一月十三日

一七 「メキシコ」革命動乱關係一件 五二一

在墨臨時代理公使 太田 為吉 (印)

外務大臣伯爵 寺内正毅殿

本件ニ関シ本年十一月二日附墨機密第一一号ヲ以テ在米佐藤大使ヨリ本官宛申越有之候次第ハ同大使ノ報告ニヨリ既ニ御承知ノ通りニ有之候処元來本件ハ「ヴィヤ」カ在墨邦人全般ヲ惡ミ居ルトノ事由ニ基キタルモノニシテ単ニ「チワワ」市在留邦人ニ限ラス各地ニ散在セル邦人モ悉ク其危険ニ曝サレ居ル次第ナルニ一方「チワワ」州内ニ於テハ米國軍隊モ駐在致シ居リ候ニ付單ニ墨國側ニシテ邦人ノ保護ヲ依頼スルモ到底完全ヲ期シ難キニヨリ佐藤大使ヘハ折返シ別紙ノ通り及照會置候間御承知相成度此段及報告候

敬具

(別紙)

米大公第一九号

大正五年十一月十三日

在墨臨時代理公使 太田 為吉

在米特命全權大使 佐藤愛磨殿

在墨本邦人保護救助方ニ関スル件

本件ニ関シ本月二日附墨機密第一一号ヲ以テ御申越相成候

六一五

趣敬承右保護方ニ就テハ貴信ト行違ニ相成居候本月六日附米公第一七号拙信中ニ相見エ候通り貴電第三二号接受當時在「チワワ」石田喜一郎ナルモノヨリ事情ヲ具申シ来リタルニヨリ客月二十六日当国外務大臣ヲ訪問ノ上邦人保護方及依頼置候得共元来本件ハ「ヴィヤ」カ本邦人全般ヲ恨ミ居ルトノ事由ニ基キタルモノニシテ危険ノ存スルハ「チワワ」市ノミニ在留スル邦人ニ限ラサルモノナル処同地附近及其以外ニハ御承知ノ通り米国軍隊モ駐屯致シ居リ候次第ナルニヨリ当国内ノ居留邦人トハ云ヘ其ノ保護ハ單ニ墨国側ノミニ限ラス米国軍隊ニモ依頼スルニアラサレハ完全ヲ期シ難ク候間此ノ点ニ付閣下ニ於テモ何分ノ御配慮ヲ与ヘラレ度此段及御照会候 敬具

本信写送付先 本省大臣

五二二 十一月十五日

在墨国太田臨時代理公使ヨリ
寺内兼任外務大臣宛

墨国憲政軍長官カランサ氏ノ略歴報告ノ件

公第一七三号 (十二月二十八日接受)

大正五年十一月十五日

在墨臨時代理公使 太田 為吉 (印)

一、千九百十五年ノ末憲政政府ハ墨国事実上ノ政府トシテ米国及其他諸外国ノ承認ヲ受ク

一、「カランサ」氏ノ性格一斑

「カランサ」氏ハ千八百五十九年十二月二十九日(本年五十八歳)墨国北部即チ米国ニ境スル「コワウイラ」州「コワトロ、シエネガス」村ニ生レ、父ハ陸軍中佐、「ヘスース、カランサ」ト称シ、母ハ「マリヤ、デ、ヘスース、ガルサ」ト呼ベリ

氏ノ両親ハ氏ニ高等教育ヲ授ケント欲シ共和国首府墨西哥市ニ遣リタレドモ、不幸、烈シキ眼病ニ罹リ中途學ヲ擲ツテ、米国ニ至リ医師ノ治療ヲ受ケ、漸ク癒ユルニ至リタレトモ、其忠告ニヨリ、全然學業ヲ廢シ郷里「コワトロ、シエネガス」ニ歸リ専ラ農業ニ従事シ側ラ牧畜ヲ営メリ

斯クテ千八百八十七年中氏ハ村民ノ選挙ニヨリ「コワトロ、シエネガス」村長トナレリ村長タル氏ハ専ラ村行政ニ執掌シ、勉メテ其進歩發展ヲ計リタルヲ以テ氏ノ人望ハ独リ村内ニ止マラス州首府「サルティヨ」市ニ迄モ博マルニ至レリト云フ然ルニ会々州知事ハ「カランサ」村長ニ向ツテ村内ノ行政報告ヲ提出スベク且ツ該報告ハ中央政府ヘ移

外務大臣伯爵 寺内正毅殿

憲政軍長官カランサ氏ノ大統領候補承諾ノ件ハ本月五日附公第一六五号拙信ヲ以テ及報告置候通りニテ同氏ガ大統領タルベキハ殆ンド時日ノ問題トナリタル今日、別紙荒井書記生ノ調査ニ係ル同氏ノ略歴ハ其性行ヲ知ル一資料トシテ価値有之候ニ付右茲ニ及御送附候間御査閱相成度此段申進候 敬具

(別紙)

墨国憲政軍長官カランサ氏ノ略歴

一、「カランサ」氏ハ本年五十八歳ナリ

一、千八百八十七年始メテ「コワトロ、シエネガス」村長ニ選挙セララル

一、「コワウイラ」州州會議員トナリ又仮知事トナル

一、「コワウイラ」州選出上院議員トナル

一、「マデロ」氏ト共ニ「ディアス」政府ヲ倒ス

一、「コワウイラ」州知事ニ選挙セララル

一、「マデロ」大統領ノ殺害セララルヤ憲政軍ヲ組織シ

其長官トシテ「ウエルタ」政府ニ對抗シ、之ヲ斃シテ

憲政政府ヲ組織ス

牒スベキモノナレバ此ノ意ヲ体シ可及的良好ニ記載報告スベシト命ゼリ然レトモ村ノ實際状態ノ不良ナル到底氏ノ満足スル所ニアラザリシノミナラズ氏元来ノ性質トシテ斯ル虚偽ノ報告ヲナスヲ得ズ且ツ痛ク知事ノ命令ヲ憤怒シ断然其実状ヲ報告セシカバ甚ダシク知事ノ機嫌ヲ損ジ遂ニ其職ヲ辞スルノ止ムヲ得ザルニ至レリ

越エテ千八百九十四年ニ至リ氏ハ復タ選バレテ村長トナリ千八百九十八年迄其職ニ在リタルガ爾来數回選バレテ州會議員トナリ又共和国上院議員トナレリ又千九百八年中「コワウイラ」州知事ノ不在中州会ハ氏ヲ仮知事ニ選挙セリ斯クテ千九百九年中知事ノ改選期近クヤ州民ハ等シク氏ヲ知事ノ候補ニ立テタリ非再選党ノ首領「マデロ」氏(「コワウイラ」州ノ生ニシテ後日大統領トナリタル人)ノ如キハ自ラ「コワトロ、シエネガス」村ニ至リ同党ノ名ヲ以テ「カランサ」氏ヲ州知事ノ候補者ニ推薦セル趣ヲ告ゲ其承諾ヲ得タリ然レドモ「ディアス」大統領ハ「カランサ」氏ノ人望ノ決シテ侮ルベカラザルモノアルヲ觀且ツコレニ由リテ来ルベキ危禍ヲ洞察シ有ユル手段ヲ以テ同氏ヲ除キ中央政府ノ指定セル人物ヲ以テ之ニ代ラシメント試ミタレバ氏ハ

大ニ之ヲ憤慨シ遂ニ上院議員ノ職ヲモ辞セント決シ辞表ヲ提出シタレトモ遂ニ許サレザリキ然ルニ當時既ニ「マデロ」氏ハ盛ニ「ディヤス」大統領ノ再選計画ニ反対シ居リタリシガ千九百十年中愈々「ディヤス」氏ノ再選ト決シ且ツ是迄大統領ノ任期ハ四ヶ年ナリシヲ六ヶ年ニ延長スル等ノ事アリシカバ「カランサ」氏ハ「マデロ」氏ト共ニ非再選主義ヲ標榜シ遂ニ革命ノ旗ヲ挙ゲ其曲直ヲ武力ニ訴ヘタリコレ墨国第一次革命即チ千九百十年ノ革命ト称セラルルモノナリ

然ルニ革命軍ハ益々其勢力ヲ増進シ北方殊ニ「チワワ」及「コワウィラ」ノ兩州ニ於テ最モ猖獗ナルモノアリシカバ「ディヤス」大統領ハ到底之ヲ討伐スルノ力ナキヲ覺リ且ツ禍ノ未ダ大ナラザル中ニ之ヲ鎮定スルノ策ヲ採ルニ若カズト決シ密ニ使ヲ派シテ平和ノ交渉ヲ為サシメタレドモ時機ハ既ニ遅ク殃禍意外ニ増大シ共和国全般ニ涉リタルモノノ如ク從テ革命派ノ態度頗ル強硬ニシテ談判委員ノ一人タリシ「カランサ」氏ノ如キハ「ディヤス」大統領及其閣員ハ直ニ辭職スベシトノ条件ノ下ニ談判ヲ開始セント主張シ更ニ讓歩セズ然リトテ中央政府ニ於テハ斯ル条件ハ到底之

ヲ容ルルコト能ハザル所ナルガ故ニ遂ニ該交渉ハ何等効ヲ奏セズシテ終リタルガ後「マデロ」氏ハ「ホワレス」市ヲ陥シ同市ニ於テ仮政府ヲ設立シ自ラ仮大統領トナリ「カランサ」氏ヲ陸海軍長官ニ任ズル等革命軍ノ大勢益々良好ナルモノアルニ反シ中央政府ノ聲望愈々退衰スルニ至リタレバ「ディヤス」大統領ハ遂ニ革命軍ノ要求ヲ容ルル事ヲ決シ其一条件トシテ「カランサ」氏ヲ「コワウィラ」州ノ仮知事ニ任命セリ斯クテ千九百十一年中「ディヤス」大統領ハ歐洲ニ逃レ外務大臣「デ、ラ、バラ」氏ハ代リテ仮大統領ノ職ニ就キ次デ大統領及各州知事ノ選挙行ハルルヤ「マデロ」氏ハ共和国大統領ニ「カランサ」氏ハ「コワウィラ」州本任知事ニ夫々任命セラレタリ

斯クノ如クニシテ千九百十三年二月ニ至リタル所「ディヤス」大統領ノ寵將「モンドラゴン」將軍ハ「ディヤス」大統領ノ甥「フェリス、ディヤス」(曩ニ「ヴェラクルス」ニ於テ叛ヲ起コシ官軍ノ為メニ捕ハレ當時首府ノ獄舎ニ監禁中ナリシ人ナリ)ヲ擁シ市内ニ乱ヲ起シタルガ此ノ時ニ際シ「マデロ」大統領幕下ノ將「ウエルタ」氏ハ密ニ叛將「モンドラゴン」ニ通ジ大統領「マデロ」氏以下閣員

ヲ捕虜トナシタル上遂ニ大統領ヲ殺害シ自ラ仮大統領トナルヤ各州知事ハ拳テ「ウエルタ」新大統領ニ向ツテ服從ノ意ヲ通ゼシモ独リ「コワウィフ」州知事「カランサ」氏ハ「ウエルタ」氏ノ政權横奪ヲ憤リ頑トシテ新政府ニ服セズ憲政軍ナルモノヲ組織シテ其首領トナリ各所ニ「ウエルタ」軍ト戰ヒ遂ニ之ヲ破リタルガ、其間幾多幕下ノ内訌謀叛ニ苦シミ甚ダシキ困難ヲ嘗メタル後千九百十五年十月始メテ北米合衆國及南米諸國ノ承認ヲ得次デ同年十二月我國及歐洲諸國ノ承認ヲ得テ遂ニ今日ニ至レリ

氏ガ今日迄甚ダシキ難局ヲ凌ギ憲政軍政府ヲ維持シ来リタルハ全ク氏ノ性格ガ氏ヲシテ然カアラシメタルモノノ如シ氏ガ性格ヲ最モ好ク表示スルモノハ承認當時ニ於ケル氏ノ外交振リニシテ曾テ氏ガ始メテ憲政軍長官トシテ共和国首府ニ入ラントスルニ方リ當時米國ノ利益ヲ代表セル伯國公使(後「カランサ」政府ヨリ放逐セラレタル人)ハ「カランサ」長官ノ首府ニ近クヤ米國政府ノ訓令ニ基キ首府ニ近キ「トラネパントラ」駅ニ於テ会見ヲ申込ミテ兩者愈々会谈スルヤ伯國公使ノ談話会々墨國ノ行政ニ關係スルモノアリシカバ「カランサ」氏ハ伯國公使ニ向ツテ曰ク余若シ予

メ貴公使ノ会見ノ目的ヲ知りタリシナラバ斯ル申込ミニ応ゼザリシナリト云ヒ直ニ席ヲ立チタルニ伯國公使ハ「カランサ」氏ニ向ツテ然ラバ貴下ハ米國政府ノ承認ヲ必要トセザルヤト反問シタルニ「カランサ」氏ハ斯ル意味ノ承認ハ余ノ断然望マザル所ナリト云ヒ卓ヲ叩キテ其場ヲ立チ去リ伯國公使及其他列席者一同ヲシテ啞然タラシメタリト云フ斯クテ伯國公使ハ「カランサ」氏ノ態度ヲ痛ク憤懣シテ其場ヲ引揚ゲタルモ「カ」氏ノ怒ハ之ヲ溶クニ由ナク遂ニ同氏ノ為メニ放逐セラルルニ至レリ又其後ニ至リ彼ノ北米合衆國及南米ノ諸國ガ協同シテ平和會議ニ墨國各派委員ヲ参列セシメント欲シ「カランサ」氏及其他各党ノ首領ニ向ツテ其委員派遣ヲ求メタルニ「ヴィヤ」党及「サパタ」党ハ米國其他ノ欲心ヲ得是レニヨリテ其承認ヲ得ンコトニ汲々トシ急速参列ノ意ヲ回答シタルニ独リ「カランサ」氏ハ平和會議ナルモノハ要スルニコレ米國及其他關係國ガ墨國ノ内政ニ干涉スルモノニシテ斯クノ如キハ余ノ決シテ容認スルコト能ハザル所ナリト主張シ断然此ノ招待ヲ拒絕シ遂ニ却テ此等關係諸國ヲシテ其ノ政府ヲ承認スルノ止ムヲ得ザルニ至ラシメタルガ如キハ曾テ氏ガ「コワトロ、シエネガ

ス」村長時代ニ州知事ノ不正ノ要求ニ反対シテ村民ノ同情ヲ高メ知事時代ニ仮大統領「ウエルタ」將軍ノ政權横奪ニ反抗シテ今日ニ至リタルノ事実ト共ニ能ク其剛胆ナル性格ヲ知ラシムルモノト云フベシ

五二三 十一月二十六日

在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

米墨紛議解決委員會議定書調印ノ件

第一九六号

去ル八月以來「アトランチック、シチー」ニ於テ開催ノ米墨紛議解決委員會ハ十一月二十四日左ノ趣旨ノ一議定書ニ調印シ各々本國政府ノ承認ニ附スルコトナリタル由、第一在 Chihuahua 州米國出征軍ハ議定書カ承認セラレタル後四十日以内ニ撤退ス但シ墨國同方面カ米國境上ヲ危殆ナラシムル情勢ヲ呈シタルトキハ此限りニアラス、第二境上米墨兩軍ハ各自領域線内ヲ警備スヘシ、第三兩國警備軍司令官ハ境上ノ安寧保持ニ付協力スヘク又兇賊鎮定手段ニ付協定ヲ為スヲ得ヘシ尚ホ米國側委員カ議定書中ニ米軍ハ米國ヘ侵入シタル兇賊ヲ追蹙スルノ權利ヲ有ストノ一ヶ条ヲ加ヘンコトヲ要求セシメ談判断絶セントセシモ米國首

席委員内務長官ハ大統領ト会見シタル後前記追蹙ニ對スル米國政府ノ主張ヲ附屬特別覽書トシテ殘スコトニ變更シ議纏マリタル由

墨スミ

五二四 十二月四日

在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛

米墨紛議解決委員會議定書調印ノ件

機密公第一〇四号

(大正六年一月四日接受)

大正五年十二月四日

在米特命全權大使 佐藤 愛磨(印)
外務大臣子爵 本野一郎殿

去ル八月三日附機密第七六号中ニ報告シ置キタル米墨紛議解決ノ為メ開カルニトニ決シタル國際委員會ハ同月二十二日ニ至リ兩國委員決定シ米國側ヨリハ現内務長官「レーン」氏、前控訴院判事「ジョージ、グレー」氏、米國基督青年會國際委員會書記長「モット」博士又墨國側ヨリハ「カランザ」政府現大藏長官「ルイ、カブレラ」氏墨國國有鐵道總裁「アルベルト、パニ」氏通信省次官「イグナシヨ、ボニラス」氏各任命セラレ九月五日「ニュー、ジャ-

シー」州「アトランチック、シチー」ニ開會爾來會議中ナリシカ墨國側ハ米國遠征軍ノ即時撤退ヲ要求シ之ニ對シ米

國側ハ撤退ノ條件トシテ將來ニ於ケル國境安寧ノ保障ヲ要求シ容易ニ妥協ニ至ラス殊ニ墨國側「カブレラ」委員長ハ米國大統領ノ對墨政策ヲ非難セルカ如キ公言ヲ試ミタリトテ物議ヲ生シタルコトアリ又米國ニ潛入セル墨國匪賊ニ對シ米軍ハ追討ノ為メ無斷ニテ墨境ニ進入スルノ權利アルコトヲ墨國委員ハ容易ニ承認セス依然トシテ追蹙權ヲ相互的トシ且ツ右ニ對スル作動地域等ニ制限ヲ加ヘンコトヲ提議シタルカ故ニ一時交渉不調ニ歸セントセシモ十一月廿四日往電第一九六号報告ノ如ク米軍追蹙權ハ米國政府カ墨國政府ニ對スル單獨宣言ノ形式トスルコトニ改メ墨國委員ノ同意ヲ得議定書ニ調印スルニ至レリ而シテ該議定書ハ米國政府ニ於テ之ニ批准ヲ与フヘキハ疑ナキモ墨國政府力之ニ同意スルヤ否ヤハ頗ル疑問ニシテ「カランザ」政府ノ批准ニ供スル為メ墨國「パニ」委員之ヲ携行シテ歸國シタルカ若シ之カ批准ヲ得ルニ於テハ兩國委員ハ更ニ十二月八日ヨリ會議ヲ再會米國人ニ對スル損害賠償、外國人財産保護其他ニ對スル細目ヲ携議スル筈ナルモ若シ批准ヲ得サル場合ニ

ハ會議ハ最早中止スルニ至ルヘシトノ由ナリ

然ルニ該議定書カ調印セラレタルト聞モナク墨國「チワワ」州「チワワ」市ニ駐在セル「トレビノ」將軍ハ依然西方山間ニ潛伏セシ「ヴィヤ」軍ノ為メ包撃セラルル所トナリ十一月廿七日ヨリ「フアレス」ヨリ墨都ニ至ル交通遮断セラレ一時「チワワ」市ハ全ク「ヴィヤ」軍ノ為メ占領セララルル所トナリシモ次イテ「カランザ」軍ノ援兵南北ヨリ到達スルニ至リ十二月三日同市ハ再び「カランザ」軍ニ歸シ「ヴィヤ」軍ハ多數ノ掠奪物ヲ携帯シ西方ニ退却セル由ナリ而シテ右「ヴィヤ」軍ノ掠奪ニ對シテハ Colonia Dublan 駐屯ノ Pershing 遠征軍ハ單ニ監視ノ態度ヲ採レルノミナリシカ米國政府筋ヨリ出テタル消息ト思ハルル報道ハ「ヴィヤ」軍ニシテ米國軍ヲ襲撃セサル限り米軍ハ何等ノ軍事的行動ヲ採ラスト伝ヘラレタリ右ハ本年三月米國遠征軍カ初メテ墨國ニ侵入セシ目的ハ全ク「ヴィヤ」軍捕獲ニ在リト稱セラレタルニ對シ寧ろ不可解ナル態度ナルカ如キモ米國當局ニ於テ此ノ如キ態度ニ出テタルハ一ニ「カランザ」政府ノ思惑ヲ顧慮セルト他方「ヴィヤ」軍ノ活動ハ「カランザ」政府ヲシテ米國ノ主張ヲ容認セシメ易キ結果トナル

カ故ニ必スシモ米國ノ為メ不利ナラサルモノアルカ為メナ
リト観測セラル尚「ヴィヤ」軍「チワワ」市占領ノ際在留
邦人其他一般外国人ノ安危ハ大ニ危惧セラレタル所ナルカ
今日ノ処支那人カ十数人（或ハ八十人トモ云フ）殺害セラ
レタルモ他ノ外国人カ大体安全ナリシトノ避難者ノ談話カ
「エル、パソ」發ニテ数次新聞電報ニ現ハレタル外確聞ス
ル所ナク又在留日本人ノ安危ニ関シテ「フアレス」又ハ「エ
ル、パソ」日本人会ヨリ何等申出スル所ナシ

右新聞切抜添付御報告申進候 敬具

本信写送付先 在墨代理公使

註 附屬書新聞切抜省略

五二五 十二月十日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

「カランサ」長官ガ憲法議會ニ提出セル新憲

法案中外國人ノ不動産取得ニ関スル条項ニ付

報告ノ件

公第一九三号 (大正六年一月十一日接受)

大正五年十二月十日

在墨 臨時代理公使 太田 為吉(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

墨西哥合衆國現行憲法第三十三條ハ外國人ヲ定義スルト同
時ニ其權利義務ヲ規定スル條項ニシテ之ヲ訳出セバ

「第三十三條、第三十條ニ規定スル資格ヲ具ヘザル者ヲ外

國人トナス、外國人ハ本憲法第一編第一節ノ

附与スル保障ヲ享クル權利ヲ有ス、

但シ政府ハ有害ナル外國人ヲ放逐スルノ權能

ヲ有ス

外國人ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ公費ニ貢獻ス
ルノ義務ヲ有シ且ツ墨西哥ノ制度、法律、及
官憲ニ服從シ又之ヲ尊重スルノ義務アルモノ
トス、又裁判ノ宣告ヲ遵奉シテ法律ガ墨西哥
人ニ附与スル方法ヨリ他ノ方法ニ出ヅルコト
ヲ得ズ」

トアリテ何等外國人ノ不動産取得ニ関シテ特ニ規定スル所
ナシ然ルニ過般「カランサ」長官ガ目下「ケレタロ」市ニ
開會中ノ憲法議會(十二月十一日ヨリ愈々本會議ニ入ル)

ニ提出セル改正案ナルモノヲ觀ルニ其第一項及第二項ハ唯
文字ノ上ニ修正ヲ施シタルニ過ギズシテ何等内容ノ變更ヲ
見ザルモ第三項以下ノ外國人ノ納税ノ義務、制度、法律、
官憲、又ハ裁判ノ宣告ヲ尊重シ又之レニ服從スルノ義務ノ
如キ、外國人ガ墨西哥國ニ於テ墨西哥人ト同一ノ權利、保
障ヲ有スル以上當然ノ結果トシテ負フベキ義務ニ関スル条
項ハ全然之ヲ刪除シ、之レニ代フルニ外國人ノ墨西哥政府
ノ行為ニ容喙シ又内政ニ關係スルコト能ハザルコト(現政
府ハ從來ノ政府ガ外國人殊ニ外交官ノ内政干涉ヲ默認セシ
事實ヲ憤慨セシモノノ如ク)又外國人ハ墨西哥ニ於テ不動
産ヲ取得スルニ方リ予メ墨西哥外務省ニ向ツテ(本年十月一
日附公第一四三号拙信既報ノ通り)其取得セントスル不動
産ニ関シテハ其外國人タルノ性質及本國政府ノ保護ヲ放棄
シ且ツ該不動産ニ関スル一切ノ關係ニ於テハ全然内國ノ法
律及官憲ニ服從スルノ意思ヲ發表スルニアラザレバ之ヲ取
得スルヲ得ズト規定セリ、是「カランサ」政府ハ從來ノ政
府ト異ナリ外國官憲ノ内政干涉ヲ許サズ、又外國人ノ特權
ヲ認メザル革命ノ精神ヲ此ノ條項ニ含マシメタルモノニシ
テ此ノ主意ハ既ニ共和國全般ヲ通ジテ行ハレ居ル所、例ヘ

バ外國人ニシテ鉞山ノ試掘、採掘ノ權、又ハ漁業ノ權利或
ハ國有地ノ開拓權ヲ獲得セントシテ農商省ニ出頭スル者、
鐵道敷設權、沿岸貿易權、電信、電話敷設權等ヲ得ントシ
テ通信省ニ出願スル者、其他不動産ヲ取得セントシテ司法
省ニ其許可ヲ願出ヅル者等ハ、先ツ予メ外務省ニ向ツテ其
取得セントスル權利ニ関シテハ外國人タルノ權利ヲ放棄シ
又之ニ関シテ其本國政府ノ保護ヲ請求セザル宣誓ヲ為シ居
ルハ、日々ノ官報ニ続々掲載セララル所ニシテ「カラン
サ」長官ガ其憲法案ニ修正ヲ加ヘシ新案項ノ主旨ハ目下外
國政府ヨリ何等ノ反對ヲ受クルコトモナク實行セラレ居ル
所ナレバ本改正案ハ少クトモ其内容ニハ何等ノ修正ヲ受ク
ルコトナクシテ憲法議會ヲ通過スベシト予想セラル、而シ
テ今本件改正案文ヲ訳出スレバ左ノ如シ

新憲法案、憲法第一編、第三節

外國人

「第三十三條、第三十條(註一)ニ規定スル資格ヲ有セザ
ル者ヲ外國人トナス

外國人ハ本憲法第一編第一節ノ附与スル保障
(註二)ヲ享クルノ權利ヲ有ス、然レドモ聯

邦政府ハ外国人ニシテ其在留ヲ有害ト認ムル時ハ直ニ且ツ何等ノ裁判ヲ施スコトナクシテ墨西哥ノ領土ヲ立チ退カシムル権能ヲ有ス、政府ガ此ノ権能ヲ行使シテ下シタル決定ハ何等救済ノ手段ヲ許サザルモノトス

外国人ハ如何ナル場合ニ於テモ内国ノ政事ニ關係スルコトヲ得ズ、又内国不動産ヲ取得スルコト能ハザルベシ、但シ其取得セントスル不動産ニ関シテハ予メ外務省ニ向ツテ其外国人タルノ性質及本国政府ノ保護ヲ放棄シ且ツ該不動産關係ニ於テハ全然墨西哥ノ法律及官憲ニ服従スルノ意思ヲ發表シタル場合ニハ此ノ限りニアラズ、

(註一) 墨西哥人

第三十条、墨西哥人タル者ハ其出生ニ由ルモノト帰化ニヨルモノトアリ、
一、出生ニ由ル墨西哥人トハ共和国ノ内外ヲ問ハズ凡テ墨西哥人タル父母ヨリ生シタル者ヲ云フ

二、帰化ニ由ル墨西哥人トハ左記ノ者ヲ云フ
イ、共和国内ニ於テ外国人タル父母ヨリ生レ、成年ニ達シタル後、一ヶ月以内ニ外務省ニ向ツテ其父母ノ国籍ヲ保有スルノ意思ヲ表示セザル者

ロ、善良ナル生活ヲ営ム外国人、或ハ墨西哥人ヨリ生シタル者ニシテ、外務省ニ向ツテ墨西哥人タラントスル意思ヲ表示セ
ル者

ハ、墨西哥国内ニ五年間継続居住シ、善良ナル生活ヲ営ム者ニシテ外務省ヨリ帰化券ヲ獲得シタル者

前二項ノ条件ヲ証明スルノ方法ハ別ニ法律ノ定ムル所ニ拠ル

(註二)
憲法案第一編第一節総テ二十九ヶ条ハ個人ノ保障ヲ規定スルモノニシテ、在留外国人ハ之レニヨリテ墨西哥人ト同等ノ保障ヲ享クルモノナリ、客年十二月二十四日附機密公第九号往信既報中ノ(帝國政

府ノ承認ニ対スル「カランサ」政府ノ回

答文中ニ見ユル) 在留帝國臣民ハ墨西哥

人以上ノ保障ヲ享クルコトヲ得ズトノ

「カランサ」政府ノ回答ハ此ノ義ヲ意味

スルモノナリ

尚ホ憲法第一編第一節ハ帝國臣民ガ墨西

哥共和国ニ於テ「カランサ」政府ノ下ニ

此段及報告候 敬具

如何ナル保障ヲ享受スルカヲ知ラシムルモノナレバ本節ガ憲法議會ノ協賛ヲ經タル場合ニハ重ネテ報吾スル所アルベシ